

								17	20	18	23		
		亞	騰	思	河	蒙	龍	梧	北	瓊	三	洪	江門、甘竹
		東	越	茅	口	自	州	州	海	州	水	北	
								六	三〇	五七	三〇		
								三三	一八	三六	三〇		
								六	一		六		
								三〇九	一四	三〇	三		

3	5	13	25		14	24	15	11	9	22		26	27
廣	汕	厦	三	福	福	溫	杭	寧	重	宜	長	沙	岳
東	頭	門	都	寧	州	州	州	波	慶	昌	沙	市	州
七九七四	四四九	一七六	一五		一五九	一九	一四一	一九六	二四八	二五		一五〇	一三
一六五〇	一四三	一〇七	一		六四	九	三六	九〇	一三九	八		二	五
二三五	一八四	四六	一		二六	三七	三三	二六	三六	四		二	四〇
三九七	一七	三四	一四九		四七	六	七三	六	八六	二九		四	三



日清貿易

日清間の貿易は近來大に發達し、明治三十六年に於て其の輸出入總額は一億萬圓を越ゆること一千萬圓以上に及べり、是れ實に未曾有の盛況にして之を五年前に比すれば殆ど二倍の増加を示せり、殊に三十五年より三十六年の一箇年間に於て二千三百萬圓の増加を來せり、而して我日本は貿易對手國中清國貿易額は英國の次に位すれども單に英本國のみと比較すれば三十六年度に於ては遙に其の上位に達するに至れり、前掲清國海外貿易國別輸出入額對照表參照今左に最近十箇年間に於ける日清貿易額對照表を掲げて其發達の勢を示さん

年次	輸出	輸入	合計
明治二十七年	八八三、九六七	二七五、二五八	一一五九、二二五
明治三十年	二、三三五、〇九五	二、九三五、八四四	五、三〇〇、九〇〇
明治三十二年	四、〇二五、〇四四	二、八六七、七三〇	六、九〇二、七七四
明治三十五年	四、八八八、五五四	四、〇五〇、八八八	八、九三九、四四三
明治三十六年	六、四九四、二七九	四、四八八、〇五七	一一、〇〇二、三三六

明治三十七年			
明治三十八年			

此表によれば日清貿易は漸次健全なる發達を爲しつゝ、あると同時に、我國よりの輸出は常に其の輸入に超過せるを見る、此の如き盛況は我國對清貿易の前途益多望なるを證せり、然れども我國よりの輸入額を清國全輸入額に對比すれば未だ僅かに其一割五分を占むるに過ぎず、尙ほ八割五分の大なる競争範圍あり、(前掲清國海外輸出入總額對照表及び清國海外貿易國別輸出入額對照表参照)と謂べし抑、列國の經濟的競争は歲を逐ふて益劇烈となるに隨ひ我商人の小資本にして不信用なると我一般實業家の清國の事情に暗きと、我内地工業の不振にして我が輸出品に西洋品の模造多きこと等は今日より大なる覺悟を要す、近年獨逸品及び英米品の支那人の嗜好に適し漸次日本品を市場より驅攘する傾きあるは頗る注意を要すべき事たり、加之年額已に一億萬圓の巨額に達したる重大なる貿易は殆ど其の大部は本邦居留支那人及び他國人の手に由て行はれ、我商人の直輸に係るものは僅に其の十分の一に過ぎず、要するに我商工業者たる



ものは一葦帶水の隣邦の事情に精通し今後益深く且つ最も信用を重んじ、一致協力其業に従ひ或は商業機關の完備を計り、或は内地工業の勃興を一新して、我商權を擴張せざるべからず

我國への輸入品 清國より我國に輸入する重要な貨物は綿<sup>○</sup>千五百六十一萬圓<sup>○</sup>油<sup>○</sup>糖<sup>○</sup>八百五十三萬圓<sup>○</sup>豆<sup>○</sup>類<sup>○</sup>五百五十萬圓<sup>○</sup>砂<sup>○</sup>糖<sup>○</sup>百〇四萬圓<sup>○</sup>繭<sup>○</sup>九十三萬圓<sup>○</sup>芋<sup>○</sup>麻<sup>○</sup>(九十一萬圓<sup>○</sup>棉<sup>○</sup>子<sup>○</sup>八十三萬圓<sup>○</sup>生<sup>○</sup>卵<sup>○</sup>八十一萬圓<sup>○</sup>柞<sup>○</sup>蠶<sup>○</sup>絲<sup>○</sup>六十萬圓<sup>○</sup>生<sup>○</sup>綿<sup>○</sup>五十五萬圓<sup>○</sup>其他<sup>○</sup>包<sup>○</sup>蓆<sup>○</sup>胡<sup>○</sup>麻<sup>○</sup>子<sup>○</sup>羊<sup>○</sup>毛<sup>○</sup>鐵<sup>○</sup>鑛<sup>○</sup>等<sup>○</sup>なり

清國への輸出品 我國より清國に輸出する重要な貨物は綿<sup>○</sup>絲<sup>○</sup>千八百三十三萬圓<sup>○</sup>布<sup>○</sup>類<sup>○</sup>三百九十萬圓<sup>○</sup>石<sup>○</sup>炭<sup>○</sup>八百〇四萬圓<sup>○</sup>燐<sup>○</sup>寸<sup>○</sup>及<sup>○</sup>び<sup>○</sup>軸<sup>○</sup>木<sup>○</sup>三百五十萬圓<sup>○</sup>海<sup>○</sup>產<sup>○</sup>物<sup>○</sup>(二百三十八萬圓<sup>○</sup>紙<sup>○</sup>卷<sup>○</sup>烟<sup>○</sup>草<sup>○</sup>百三十萬圓<sup>○</sup>木<sup>○</sup>材<sup>○</sup>百二十二萬圓<sup>○</sup>洋<sup>○</sup>傘<sup>○</sup>八十萬圓<sup>○</sup>其他<sup>○</sup>麥<sup>○</sup>酒<sup>○</sup>擬<sup>○</sup>洋<sup>○</sup>紙<sup>○</sup>銅<sup>○</sup>類<sup>○</sup>玻<sup>○</sup>璃<sup>○</sup>器<sup>○</sup>類<sup>○</sup>陶<sup>○</sup>磁<sup>○</sup>器<sup>○</sup>推<sup>○</sup>茸<sup>○</sup>人<sup>○</sup>蔘<sup>○</sup>綿<sup>○</sup>線<sup>○</sup>器<sup>○</sup>時<sup>○</sup>計<sup>○</sup>セ<sup>○</sup>メ<sup>○</sup>ン<sup>○</sup>ト<sup>○</sup>等<sup>○</sup>の<sup>○</sup>雜<sup>○</sup>貨<sup>○</sup>なり、今我國對清輸出品中現在及び將來に於て頗る有望なる品類に就ては左に述べべし

綿<sup>○</sup>絲<sup>○</sup> 本邦より輸出する綿絲は十六手、二十手の二種にして、其の需要地は漢口を以て第一とし、芝罘之れに次ぐ、又清國に輸入する綿絲の産地は現今にありては第一印度、第二日本、第三英國なり

綿<sup>○</sup>布<sup>○</sup> 本邦より輸出する綿布は重に生金巾、天笠木綿、手拭地綿縮、瓦斯絲織及び浴巾等なり、然るに獨、英、米の競争品盛に市場に現はれ本邦品は漸次壓倒せらるるの傾向あり

要するに綿絲、綿布は共に現在に於て清國の最大需要品たるのみならず、將來に於ても亦然り、されば此兩品の競争は最も劇甚なるものにして、支那本國自ら其の産綿と低廉なる勞力とを以て競争に加はり、米國、英國及び印度は各自國若くは殖民地の産綿と豊富なる資本及び熟練せる工業とによりて有力なる競争者たり、而して我は原料を他より買はざるべからず、且資力足らず、加之大工業には不熟練なり、將來以上の諸缺點を補ひ充分競争に打ち勝つの覺悟なくんば、我對清貿易は殆ど見るべきものなからんとす

木<sup>○</sup>材<sup>○</sup> は清國に於て最も缺乏せり、故に建築には多く土石を交へ、燃料には作物の莖根草萱を用ふと雖も、家屋器具を造るには到底絶對に木材を排すること能はず、貴州、湖南の産材は南京、安慶迄の揚子江沿岸地に於て消費され、上海の用材は寧波、温州等より仰ぎ、北清の需要は多く、鴨綠江上流地よりすと雖も、清國の所謂無木國は將來木材益不足すべし、現今は米國、日本、暹羅、海峽殖民地等より輸入



す、我木材の前途頗る有望なり

●石炭 我國の石炭は今や輸出品中重要な位置を占むるに至れり、而して東洋諸國に輸出すと雖も香港に於ては濠洲及び英國炭と競争し、新嘉坡及び印度に於ては英國炭と戦ひ、北支那に於ては盛京、直隸、山西、江西、安徽の石炭と争はざるべからず

●陶磁器 從來我陶磁器の仕向地たる専ら香港に輸出すること多くして、支那本部に對しては其の次位にあるを常とす、然れども將來の輸出に對し、屬望すべきは香港にあらずして、支那本部なりとす、支那を以て陶磁器の産地と見るは普く世界の是認する所なるに拘らず、支那に於ける陶磁器産出地は専ら江西省の景德鎮、鎮江、江蘇省の宜興、廣東省の汕頭、福建省の福州等にして、皆な南清の地たり、北清にては山東省の滕縣より産出するも、其の品質劣等にして、産額少なり、江西省の景德鎮にては年々産額随分多く、北清地方に輸出する額少からずと雖も、北清に輸送する途中に數箇所にて釐金税を徴收せられ、船積の際には輸出税、仕向地の開港場にては輸入税を課せらる、を以て北清の市場に至れば原價に二倍すと云ふ、然るに本邦製のものには北清に送るに、單に運賃と保険料とを仕拂ふの

みにて輸出入税を仕拂ふに及ばざるが故に、原産價格に於ては清國品に比して低卑ならざるも、北清市場に出づる時は清國産より低廉となる故に、北清需要の陶磁器は爾來我より輸出して充分の望あり、而して其品は在來の日本のものに止まらず、支那的用品として其の製造を究めて輸出せば、北清に於ける日用陶磁品の供給は悉く我國の獨有とならんと云ふ

●海産物 昆布、海參、其他の海産物は清國內地の無海地方にては需要多く、貴重の宴會には必ず海産物を調理し、是を以て珍味とするの風あり、故に海産物は我國對清貿易品中重要なものなり、然れども南洋品及び露領滿洲品等と競争せざる可らず

●雜貨 洋傘、燐寸、小間物、其他雜貨の需要は實に普及的にして、其の需用數夥し、故に適當の方法を設けて品質を改良し、製作の法を究め、以て販路を擴張せば、我國の一大輸出品たることを得べし、殊に我國人は手藝に長じ、小事業に慣れたるのみならず、雜貨の製作には小資本を以て家庭の婦女老幼も利用し得るが故に、將來益發達するの見込みあり

●絹織物 該品は現在に於ては其の輸出極めて小額なりと雖も、將來に於ては大



に有望の貿易品たることは在清帝國各領事の觀察する所なり其説に曰く支那は絹布の多額を産出する國にして其の價値も比較的に廉價なるを以て外國より之れに向て絹布の輸出を圖るも販路は到底開發するを得ざるべしと思ふは是れ支那國を見て支那人を見ざるの皮相觀察なり本那人は絹布を使用することとは殆ど最上の贅澤と云ふ如き感をも有すと雖も支那に於ては然らず元來絹布の多産國なるが故に支那人に取りては本邦人に於ける如く最上の贅澤品にあらず故に男子の衣服には數百金の毛皮を附して其の榮耀を誇り女子の服装には金銀寶石を纏うて其の奢侈なるを示しつゝありたるに近年に至り歐洲諸國(特に獨佛英)より種々の精妙なる貴重の絹織物を輸入し來りたるを以て次第に毛皮又は寶石等の裝飾を減じ以て精巧なる絹布を使用するの傾きあり蘇州地方の如く絹布の産地なるにも係はらず歐洲の絹布の年々輸出せられつゝあるは即ち此理なりと云ふべし外國絹布の需要斯の如く支那に發展しつゝあるにも係はらず我が西陣、足利等の絹織業者が不景氣を歎せんよりも近年支那人の我國を慕ふを利用し品質及び製造技術を巧妙にして妄りに廉價の競争をなして粗製濫造の弊に陥ることなく専ら彼等の用途嗜好に適するを務めば其の販

路他の外國品よりも擴張せらるべしと云ふ

### 農業

支那は領土廣大、地味肥沃なり之を以て先聖の法制を定むるや農を以て大本とし。四民依て以て厚生を資り歴代の帝王皆之を獎勵せり清初諸帝最も農耕を勸む、毎年春季天子百官を率ひ親ら犁を操りて藉田を耕し以て稼穡の先導をなし、民を勸めて耕耘を勵す詩に曰く「晝は爾ち于て茅かれ宵は爾ち索綯へ亟かに其れ屋に登れ其れ始めて百穀を播かん」と此の如く古來奮て力を耕耨に盡さしめ、勤勞を勸め遊惰を戒め驕慢を懲し貯蓄を厚うす力田の老農あれば位爵を以てし勸農勤勞の表範をなし民をして樂みて農事に従はしむるの方針を採りしが近世國政の振はざると共に賦役も從て煩重に趣き地方官亦貪斂を逞うし新に意を開墾に注ぐものなきのみならず開耕の田と雖も亦日に荒蕪に就くものあり長髮賊の亂に十八省の地概ね皆な其蹂躪する所となり田畝の殘廢殊に甚だしく且外國の通商を開きて商業の氣勢を激進したるより農戶業を轉じて商利を逐ふもの多く而して政府が農業に對する意思も自ら舊時に比して冷淡なるを免れざるに至れり然れども四千年來農を以て國本とせる國是の餘效は今



尙ほ見るべく其の農耕の術の如き未だ以て全からざれども巧妙獨得尙ほ稱すべきものあり且近年に至て漸く開墾せる所もあり農産物の如きも時勢の變遷に誘はれて反て大に發揚せしものなきに非ず今其の農業の一般を畧述せん

南清地方は地狭く人多し是を以て山嶺澤湖の剩地に至るまで耕耨して遺すなく或は溝を穿て灌漑し或は隄を築きて潦を防ぎ經營實に盡くせりと云ふべく地味亦一般に肥沃なり殊に長江沿岸の地に至ては穰々たる沃野水利と共に長へに横はりて實に清國主要の富源地たり西南部地方は山嶺多きを以て苟も平地あれば山上と雖も開墾して寸壤を遺さず其の平地なきの地に於ては則ち崖傍岩畔に據り石を以て臺を築き土を其内に實て之れを植うるが如き民性勤勞にして孜々として倦まず北清地方に至りては地頗る廣しと雖も人口少なく地味は黄土にして劣氣候亦漸く寒く南清に及ばざるを以て荒蕪の地少ならず然れども近年に至て開墾漸く進み年を逐うて盛なるの勢あり農法農具は概ね秦漢時代の遺物にして粗笨不便見るべきものなし但犁耙に至ては輕捷便利なる或は我國農具の上に出づと云ふ耕作には多く牛馬を使用す土地の所有は概して小農制なり土地家屋の賣買は是を官府に登録せらる而して其賣買は重

に親戚間に行はれ親戚中に於て買取るもの絶無なるにあらずんば決して之を他人に讓渡すこと能はず借地權は一般に狭少なり

耕地面積 清國の耕地面積は正確なる調査なきを以て容易に之れを知るべからずと雖も今支那本部に就て在清帝國某領事の推算せる所を摘述せんに支那本部の總面積を町歩に換算すれば三億四千九百七十四萬町歩となる今之れを我日本總面積の換算四千一百九十八萬五千町歩(臺灣を除く)に比すれば約八倍の大きあり而して我が總面積四千二百萬町歩の内耕地の割合は田地二百七十萬餘町歩畑二百三十萬町歩にして合計約五百萬町歩なり即ち總面積の八分の一二割二分を占む清國の耕地にして若し我が國耕地と同一比例とせば清國耕地の面積は約四千三百七十一萬町歩なるべし然れども我國耕地の割合と同一事狀にあらざること種々の原因あり今清國の耕地面積を考ふるに今より七十年前清國欽定戸部則例所載の地積を見るに(一頃ハ百畝)

直隸省	六八八、四一〇、六四	山東省	九八四、七二八、四六
山西省	五三三、八五四、〇一	河南省	七二八、二〇八、六四
江蘇省	六四七、五四七、二七	安徽省	三四〇、七八六、三三

清國



江西省	四六二、一八七、二七	福建省	一一八、六二六、六四
浙江省	四六四、一〇〇、二六	湖北省	五九四、四三九、四四
湖南省	三三三、〇四二、七三	陕西省	二五八、四二〇、一一
甘肅省	二三五、三六六、二一	四川省	四六三、八一九、三九
廣東省	三四三、九三九、〇九	廣西省	八九、六〇一、七九
雲南省	九三二、七七〇、九	貴州省	二六、八五四、〇〇

總計七百三十七萬五千二百二十九頃三十八畝にして、其の換算町歩は四千九百九十六萬七千五百二十九町歩なり此の耕地々積約五千萬町歩は全面積に對する約七分の一(一割四分)を占むるものにして、我日本の八分の一即ち一割二分に比すれば寧ろ我國耕地の比に優れり且つ清國に於ては高山峻嶺比較的多からずして、到る處河水瀰流し、土地平坦にして開拓に適するが故に七十年前の戸部所載の數は、今日に至ては其數を増加したるは疑ふべからず是を以て清國農民の知識發達と其の人口増加との趨勢により照合すれば、清國に於て其の耕地々積の割合は今日既に二〇%以上に達せるは蓋し違算にあらざるべく、此の計算を以てすれば現今清國耕地の總面積は約七千萬町歩(一人口に付一反七畝十五歩)

ならざるべからず、然れども酒匂農學博士は左の前提により他の推定をなせり、  
 參考の爲め茲に記述せん

(一)支那は土地廣大且多く平坦なり、農法は日本より粗にして收穫從て少なし、  
 力役に動物を使用すること多し、普く畜禽を飽養し、其の飼料は専ら耕作物  
 に仰ぐ、是等の事情なるが故に歐米の如き牧草地なしと雖も人口一人に對  
 する農地は日本に倍すべし

(二)人口衆多なるにより北米大陸の如き農地比例を保つこと能はず、之れを歐  
 洲大陸諸國に比するを以て事實を得るに近しとなり

右の前提に従ひ余は清國人口一人に付少くも三反五畝の農地ありと推定す、  
 今支那本部の人口を四億萬人と概算するときは農地は一億四千萬町歩とな  
 り、全面積三億四千九百萬町歩の四割に當る、各省に就て各差異ありと雖も要  
 するに全面積の三割より五割半位として、平均四割は蓋し事實に遠からざる  
 を信す云々(以上酒匂農學博士の説)

以上兩説は何れが正、何れが否なるやを判定すること甚だ容易ならずと雖も、要  
 するに之れを我國農業の狀態に比すれば良好なる成績と謂はざるべからず我



國の耕地と人口との比例は一人口に付厩に一反一畝七歩にして清國耕地總面積七千萬町歩とするも一人口に付一反七畝十五歩にして一人口に付六畝八歩多く之れを酒匂説とすれば我國の耕地と人口との比の三倍餘に當る抑、清國の人口は世界中に於て最も稠密の部に屬し、而して其の住民の多數は農業者なり、且つ開拓日久しき古國なるを以て支那本部に於ては今や殆ど開拓し盡され、大陸的未墾地は殆ど皆無にして耕地々積を擴張し得る餘裕極めて少なく、農産物と國內需要とは畧平均せり、故に清國に於ては農法を改良して收穫高を増し、品質を善良にするは最も必要の事なるべし。

農民の狀態 清國農民の狀態は市街附近にして交通の便宜を有するものと、又市街より遠ざかりて交通の便を有せざるものにより自ら異なり、市街附近の農家は容易に産物販出の便益を有し、又市街に於て勞役に服して賃銀を得、婦女子の如きは農閑の時を以て機織縫箔の業を營み、副業の利益を享受し居れり、反之、市街を距ること遠きに從ひ、農業經濟に就ての諸材料を得ること難く、又生産物の販途を得難くして全然自ら各衣食住の材料を作りつゝ、あるの狀態なり、要するに清國農民の狀態は大體に於て世人の想像せるが如く窮境にあるにあら

ず、何となれば生産物の價格は甚だ低廉なれども、農家の生活費用は極めて低額なるが故に其の純益の割合は決して少額にあらざればなり、若し清國政府に於て農産物の自由輸出を許すこととあらしめば、農民生活の狀態は自ら改良進歩すること疑なし。

次に農家の大小を述べれば、其大なるものは二三百畝を有し、一村中百畝内外を有するものは大抵一二軒に過ぎず、又五十畝より三十畝に至るまでを中農とし、其の小農なるものに至ては尙ほ二三畝を出でざるものあり、其中農と稱するものは我國の七八反歩を有するものに相當す、富者は自ら耕耘せず、多くは人を備ふ、其の期限の長きを長工といひ、短きを短工と云ふ、長工は所謂奴隸にして終歲家主の嚴勤に呻吟し、春耕秋收の外は則ち庭中を洒掃し、薪を拾ひ糞を検し、水を汲み、飯を炊き、苦役辛勞實に憐愍に堪へざるものあり、而して歲に若干の錢と蔬食菜羹とを家主より給するのみ、短工は春分以後始めて之れを備ひ、毎日三餐の外或は日給或は月給大約毎月平均五六圓なり、又小作に就ては或は小作證書を要するものあり、或は口頭を以て契約するものあり、其の契約は一箇年にあらずして一期なり、小作料として納むるには米を以てするあり、穀を以てするあり、



一種の耕を用ふるあり、其量は貸田者と地主との相互の契約によるものとす、而して牛馬其他車盤を貸與するが如きことあらば別に收米をなすと云ふ

農産物 清國の主要なる農産物に就て一々左に述べんとす

棉花は元と南來のものなり、北方に於ては之れを産せず、南方に於て江蘇、浙江、湖北、四川の地方を最も多しとし、其他の地方は之れを産すること多からず、種類には黄白の二種あり、黄なるものは紫花と稱し、産出極めて少なし、白なるものは其産多く、俗に大皮。又は皮花。と稱し、棉中の籽を去り、皮を附帶して斤数を量るものなり、又籽花。と稱するものなり、棉花の籽を除せざるものにして、其籽及び皮を除去せしものは之れを淨花。と云ふ、大皮は湖北省内黃州、麻城、武昌地方及び新提近傍、又は天門、沔陽等の産最も名あり、皮花、籽花は漢川に産すること多く、淨花は天門、岳家、仙桃地の産を稱す、其他家郷花、邊紅、内府又は府河等と稱するものあり、概ね皆な湖北の産なり、機器花。と稱するものは近年上海に於て製する所のものにして、通州と呼ぶものは江蘇地方に産する古來有名なる棉花なり、南翔と名くるもの品質稍之れに次ぐ、浙江省にては餘姚に産するものを以て最も多しとなす、然れども品質は概して中等なり、四川地方より産出するものは頗ぶる多額なる

を以て、日用外常に餘裕あり、此外の各省に於ては多少の産棉あり、品質の佳良なるものは首として江蘇を推すと雖、湖北省黃州地方の産棉は常に通州と稱する棉花よりも高價なるものなり、總じて湖北の産は良好にして産額亦多し、清國より毎年海外に輸出する棉花は一千三百萬兩以上に及べり

米は清國に於ける輸出禁制品たり、而して人民多くは米を常食とすること及び、輸入外國米の數量甚だ多からざることを照合すれば、清國産米の數量は蓋し尠少なからざるべし、北方の地は旱田多く、南方は水田に富む、故に米産地は重に南省にして江蘇、浙江、江西、湖南、湖北、安徽の諸省は其の主要なるものなり、其他清國疆土中滿洲、蒙古、西藏、新疆以外の地にありては必ず多少の産米あらん、就中米質の佳良なるものは江蘇、浙江の産なりと云ふ

砂糖は清國重要輸出品の一にして、其の種類は大畧三種あり、白糖、精糖、赤糖、黃糖、冰糖是なり、其の産地は廣東省潮州府下潮陽縣、黃岡縣、澄海縣、海陽縣、普寧縣、揭陽縣を第一とし、福建省の漳州、泉州之れに次ぐ、廣東省のものは大概汕頭より輸出し、福建省のものは廈門より輸出す、廣東、福建兩省に於ける砂糖の産額は詳に知る能はずと雖も、洋糖即ち輸入糖と馳聘して、支那各方面の需要に應ずるを以て



其數は巨額なるものあらん  
茶は清國産品中最も重要なるものなり茶は元來一類なれども各地製法の同じからざるに由りて之れを綠茶紅茶の兩種に分つ其の産地は皆な南方に屬し雲南四川湖南湖北江西安徽浙江福建の各省を以て最も盛なりとす而して綠茶の最も著名なるものは浙江省の龍井(茶)四川省の毛尖(茶)安徽省の珠蘭香片(茶)等に於て各省尙ほ銀針白毫鶴古毛尖と稱する品質良好なるものありと雖も其の産額多からず紅茶の著名なるものは烏龍(茶)を以て第一となし福建省武夷地方の産たり又江蘇省の六安雲南省の普洱湖南省の安化(地名)安徽省の家園(茶)の如きは何れも曩日の佳品と稱するものなり現今に至ては江西省の義寧安徽省の祁門湖北省の崇陽通山羊樓洞湖南省の長沙岳州常德澧州等の地方は皆な烏龍を製する法に倣ふ江西省の産を以て上等とし湖南湖北兩省最も多産なり其他江西省の九江湖北省の漢口福建省の九江及び湖北省の羊樓洞よりは磚茶を産す抑も茶は唐の陸羽之れを發明して以來喫茶の風全國に傳播し其の消費額必ず莫大なるべしと雖も尙且つ毎年外國に輸出する額二千六七百萬兩に達し支那富源の一となれり茶を培養するは農家自ら之れを爲し官許茶引商人の至るを

待ち引(鑑札)に照して之れを賣る引を有せざる商人の茶は私茶として官之れを沒收すと云ふ

麥は生産地域米に比して廣く主として北方の旱田に産す但し南地も亦之れを産す皆な山地湖郷江河水岸の陸地に植う北省の食糧は概ね麥黍を主とし南省に於ては麥を以て餅麵點心等を製すること多し故に清國に於ける麥の生産額も亦頗る夥し蕎麥は一に烏麥と名け北清に産す其他莜麥と稱するものあり一に蕎麥又は累麥と稱し多く北地に産せり

黍は北地に産すること多し南地に於ては甚だ微々たり俗に其粘なるものを呼て糜子と云ふ其黍と名くるものは糯にして品質良好なり山東直隸陝西山西等の地方は之れを以て日用の食料となす糯は燒酒熬糖(アム)糕餅等を製す

梁は清國重要の農産物なり梁に二種あり一を包谷と名け一を齊梁高粱と名く齊梁は頂上に穂を結ぶものにして古昔は之れを黍と稱し其實は黍に似て粒大なり粘糯黑白赤黄の各種あり包谷は枝傍に於て實を結び亦齊梁と同じく各種に區別し往時は之れを稷稷又は蘆稷と云ふ共に各省の乾燥地に於ては生産せざるはなし最も山地を以て多しとなす故に山西直隸四川陝西貴州湖北地方



の農民多く之れを植う、就中高梁は滿洲、山西、直隸の地方に多く産す、其の色黑白なるものは糯多く、赤黄なるものは粘多し、四川は産出すること多くして、且良好なり、故に又蜀黍とも云ふ、總て春季に於て早田に種植し、秋季に晚收す、而して糯なるものは農家自ら酒を醸し、糕を作り、粥を煮る等需用少なからず、粘なるものは貯蓄の糧に備ふるの外、山西、直隸、四川、湖北地方に於て造酒の用に供するのみ、其の稗梢は箒を作るべく、莖は箔蓆等を編む、是れ又農家耕餘の業なり、稷は黍の如くにして形小なり、多く北地に産し、南地は之れを産する處少なし、俗に粟、又は黄米、小米と稱し、其の質糯なるものは糖酒を製するの用となし、質の粘なものは専ら邊地人家の日常食品に備ふ、産時も亦黍に同じ、豆類に八種あり、黄豆、綠豆、豌豆、蠶豆、赤豆、豇豆、扁豆、刀豆、是なり、重に北地の産にして、南地に少なし、滿洲を初めとして直隸、山西、陝西、湖北、浙江等の地方に産す、我國に輸入する大豆、即ち黄豆は重に滿洲の産なり、支那人は之れを副食物となす、是より製したる油を豆油と云ひ、點燈用、料理用、油紙製造用等に用ふ、其の油糟は即ち豆餅にして、肥料及び魚、豚飼養料に用ふ、皆な外國輸出品の主なるものなり

## 蠶業

支那は蠶の原産地にして、太古の世既に此業ありて、世々の執政者之れを獎勵したり、故に今も尚ほ世界最盛の蠶業國にして、蠶絲の産額夥しく、國內に於ける需用莫大なるに拘らず、尚ほ毎年八千萬兩に垂んとする輸出額あり、支那は栽桑に適し、氣候溫和にして、飼蠶に便なり、是を以て粗放なる飼育法を以てすら尚能く相當の利益を收む、然れども國民固陋にして、飼蠶製絲の業に改良を加ふることなく、其の法極めて拙劣なり、故に其の生産品は數量に於ては、世界に冠たり、雖も品質に於ては劣等にして、世界の蠶業中最下等に位す、蠶業の最も盛なるは江蘇、浙江の兩省にして、四川省、廣東省之れに次ぐ、江蘇、浙江の兩省中にては蘇州、無錫、湖州、杭州、嘉興、紹興、四川省の嘉定、眉州、成都、順慶、合州、廣東省の順德縣、下大良地方最も盛なり、是等の地方は概ね萬頃の沃野にして、數萬の桑園、其中に鬱蒼たり、故に其法未だ幼稚なり、雖も既に此の地利あり、之れに加ふるに人力を以てせば、斯業の前途大に好望なりと云ふべし、抑も清國の蠶業は全く副業的、片手間的なり、江蘇、浙江の如く、蠶業隆盛にして、其の區域廣大なる地方に於ても、本邦の如く、特に蠶室を設けて、專業的の大養蠶をなすものなく、各地皆な中産以下の農民の副業たるに過ぎず、是を以て其法は簡畧にして、粗雑に流れ、品質劣等にして、絲



量の少なる蓋し亦止を得ざるなり、若し断然改良を施さば一變して世界の蠶業國を壓倒するに至らん、現時に於ても既に幾分か改良發達の必要を認め、當業者は翕然として之に向はんとし、蠶絲の輸出額は輸出總額の四割以上を占め、其の輸出は年々増加の傾あり

栽桑 清國蠶業の最も盛なるは概ね平原の地にして、此等の土地は皆な數多の河溝相縦横するを常とするを以て、桑園の如きは亦皆な河流の沿岸に位せる沃野に於て最も發達せり、而して中部江蘇浙江の諸省と南方廣東省とは飼蠶の情況に大差あると同じく栽桑の事情も亦大に其趣を異にす、先づ江蘇浙江の地方に於ては桑樹の種類本邦の如く各種雜多なるものにあらず、圃土栽培桑は皆な魯桑なり、而して浙江省湖州の産を以て最良とし、苗秧を此地に購うて移植すること多し、其の仕立方は彼國の所謂舉式と稱するものにて本邦の高刈又は中刈と其趣を同うす、而して其の準備の正しきこと我國桑園の比に非ず、廣東省地方は最も溫暖なる地方にして一年六回の收穫をなし、一省にして殆ど本邦全土に匹敵するの産額あり、省内最も盛なるは廣東港附近とす、桑園は廣東川其他諸川の沿岸に繁茂せり、桑樹は大良地方附近にありては魯桑なれども、他は概ね我

國の鼠返と稱する桑に似て葉形稍大なるものなり、要するに清國の桑園の栽培は地方により多少の差異あるも概して土地肥沃にして水利に富み、桑葉の繁茂頗る佳良にして收穫の多きは到底本邦一般の桑園の企て及ぶ所にあらず、北清の地は栽桑に適せず、故に野蠶柞蠶を飼育し、其蠶より大繭を得べし、其の産額甚だ多し、其繭より柞蠶絲及び繭軸を製し、海外に輸出す、山東省を第一とし、盛京省之れに次ぎ四川、河南、直隸、安徽、湖北の各省にも亦多少の産出あり

蠶種 清國蠶種製造の方法は甚だ不完全なり、其の製造に於ては未だ蠶種製造家と絲繭養蠶家との區別なし、即ち桑樹の培養より肥料種類の選擇、蠶兒の飼育に至るまで更に絲繭用と種繭用との區別なく、唯、各養蠶家の絲繭用のため自家の飼育せる收穫中より、薄皮繭を除きたる部分を、製種の原料に供するを以て最良となし、種類の選擇、繭形の良否の如きは關する所にあらず、古來蠶種地として有名なる浙江省餘杭縣に於てすら、近郷養蠶家の自家飼養の成繭の幾分を生絲とし、其の幾分を蠶種に製し、之れを市場に出して、蠶種商人に賣り、商人は之れを店頭で販賣し、或は需用地に行商す、是を以て其の價格低廉にして、我蠶種に比して殆ど五分の一なり、此の如き不良低廉の蠶種を以て善良なる品質を得んこと



は到底不可能の事に屬す、況んや蓋種一定の如きは清國人の未だ夢にだも想像し能はざる所なり、故に其の成繭の粗雜にして劣等なるは驚くの外なしと云ふ

牧畜業

支那は有名なる彼の馬隊及び驛站到に許多の馬、驢、駱駝等を要するのみならず、一般に騎馬、騎驢を好むの風あり、且つ北方は茫茫たる高原多く又廣く運輸に馬車及び駱駝を用ゆるが故に馬、驢、駱駝の類甚だ多く、又南北一般耕耘に牛馬を用し、且つ國民皆な肉食を尙ふを以て牛、豕、羊、雞、鴨の類亦極めて多し

馬の産地は少なからざれども主に口馬、川馬の二種を稱す、口馬と稱するは蒙古の産にして直隸省の張家口及び山西省の殺虎口より來る、其數多く、各省皆之れを用ふ、川馬とは四川省に産し、體格口馬より小にして且つ其の産出少なく、廬に四川、雲南地方に於て山路を跋渉するに使役するものなり、貴州省の西北に於ても亦此種の馬匹を牧すると云ふ、牧場には官有のものあり、亦放牧と稱する私有の牧場あり

驢は陝西、甘肅、直隸の地方に最も多く産し、身軀馬より小にして毛色美なり、山東、河南、直隸又は四川の北部、湖北の荊州、襄陽地方にも亦牧場あり、其の用途は貨

物を負はしむるにあり、或は騎乘し、或は拉磨の用に供する等一様ならず

騾は直隸、山東、陝西、甘肅、山西、河南、四川、湖北の諸地方に産するもの多し、其の用途は馬、驢と同じ、騾は體力強く、且つ其數多からざるを以て其價甚だ貴し、然れども其の嘶聲甚だ哀し、我國人は戲に亡國聲と云ふ程なり、騾に二種あり、一を驢騾と云ひ、一を馬騾と云ふ、皆な驢と馬との雜種なり、騾の同種は容易に相交尾せざるものにして、時に交尾するも受孕することなし、之を以て専ら體軀強大に毛並一色なる牡驢を畜養し之れを叫驢と云ふ、其の叫驢の牝馬に交し生む所のものは體格大にして佳良なり、若し牡馬の牝驢に交して生む所のものは身軀小にして力弱し

駱駝の牧畜場は蒙古、沙漠の地方を以て多しとなし、甘肅、山西の各地亦此の産あり、其形は身高く、蹄大にして頭長く、三百餘斤の重荷を負ひ、能く渴に耐ふるを以て、沙漠の地を行くに便利なり、陝西、甘肅、山西、直隸各省に散在せる駱駝なるものは何れも運賃のため設けたるものなるも、南省に於ては絶て是れなし、其の使役は驛傳及び乗用、運搬用等に用ふること南部に於ける馬疋と同じ、其の性寒を喜び、暖を惡むを以て、夏日は牧場に放養して自然の毛換を待つ、其の脱落せし毛



は毡を製すべく、其の項下の鬚も亦績織の需用となる。駝毛は羊毛と共に北清の重要輸出品の一たり、駝毛は其の價驟よりも貴く、就中其の大步快行するものは一千數百兩以上なりと云ふ

羊は其の種類を分ちて四となす、一を棉羊と云ひ、二を山羊と云ひ、三を中古羊、四を羚羊と云ふ、其の山棉の兩羊は之れを牧畜するの場少なからず、蒙古の各部には大抵大群の牧場あり、其他直隸、山西、陝西、甘肅地方も亦少なしとせず、山東、河南亦是れあり、四川、湖南地方は近來に至り之れを畜ふものあり、棉羊は概ね白色或は花斑色なり、尾大にして毛捲くものなり、其皮は敷物衣類を作り蹄角は器物を作るべし、山羊は尾小にして、毛直に灰色白色の兩種にして、皮は以て敷物となし、毛を取て毡となし、毫は以て筆となし、羶は紅、綠、黑等の色に染め種々の需用に應ず、中古羊は蒙古の中古と稱する地方に産するものにして、形は山羊の如く、毛は棉毛に類せり、其の生産數甚だ少きを以て其價頗る貴し、羚羊は棉羊に類して、身軀大に重き或は百斤を越え、毛長くして皮輕し、之れを以て裘となせば暖かにして、且つ輕し、故に其價も貴く、其の産地は僅に蒙古阿拉山の一地方なり

羊毛及び駝毛の産地は甘肅省にては寧夏、甘州、涼州、蘭州の各府等にして、其の産

出の羊毛、駝毛殊に多し、羊毛は淨良にして光澤あり、堅韌にして毛長きを以て天津に集中する羊毛中佳良第一等に位す、寧夏府の産最も多く、寧夏府城は甘肅省羊毛の大市場たり、駝毛も亦此の地方の産最も多く、品質亦最も佳なり、山西省にては歸化城、西、包頭、西、嘴子等より羊毛及び駝毛を産す、毛質は甘肅産に劣り第二等に位す、歸化城は山西省の最大市場たり、其他直隸の張家口、外喇嘛廟、熱河哈連の地方に産する羊毛は沙土を帶有するを以て劣等品にして第三等に位す、駝毛も亦之れに准せり

豕は支那人之れを猪と稱す、支那人は肉類中最も之れを好むを以て各省皆な之れを蓄ふ、其最も多きは廣東、湖南、四川、河南、江西の地方なれども、別に牧場を造りて群養することなく、每家之れを一の圈中に入れて畜養するのみ、其或は郷間に放畜し、或は郊野に牧養す、其の種類は黑白の花斑あるものと、淨黒なるものと、二種に分つのみ、其肉は一般の常食に供し、毛は刷子を作り、骨蹄糞洩は皆以て肥料に充つ、血汁は漆に調合し、膽は藥品に充つべく、膾は食品に用ふべく、又年節祭祀ある時は牛羊と同じく供養するを以て賣買最も盛なり

牛に兩種あり、一を黄牛と云ひ、蒙古地方に其の牧畜場多し、概ね婦女童子に任



せて飼養せしめ、乳を取り、其肉を食ひ、皮尾及び蹄角等を鬻ぐ、南省に於ても此種ありと雖も、偶、農家厩に一二頭を畜ひ、其の耕耘を助くるのみ、然れども體力稍弱きが故に水田の用に堪へず、故に其の水田に使用するものは水牛なり、體力大にして色灰角潤、性柔和にして婦女兒童の命を奉じ、能く勞に耐ふるものなり、農家は概ね二三頭を畜ひ、耕耘を助けしむ、凡て支那に於ては、牛は運搬の用を示さずして、専ら耕耘に従事せしむるを以て、其の農家の良工を失はんことを恐れ、政府大に意を用ひて、四民をして食牛せしめざることに勉め、今や習慣となりて中等以上は勿論、下等のものと雖も之れを食ふを屑しとせざる風あり

● 雞 は各地之れを飼養せざるはなし、其の種類數種あり、概して其形は西北の地方のものは大にして東南に至るに従ひて小なり、各地各家之れを飼養すと雖も、別に養雞所の如きものなく、郷間野放するに止まり多きも、其數百羽を越ゆるもの少なし

● 鵝鴨 は只南方各省の水近き處に於て多く之れを畜ふ、廣東地方最も盛なり、長江、大河反て是れなし、北省は偶、家畜することあるも三四羽に過ぎず

## 林業

山林の業は昔は山農と稱し、頗る保護したりしが、後世に及び其の制漸く敗壞し、元明以來全く廢滅するに至れり、故に現今山林の荒廢甚だしく、到る所の山岳は草生にあらざれば秃山にして、稚松類の生ずるもの尙ほ稀なる有様なれば、蔚葱たる森林の如きは容易に見る能はず、殊に北清に於ては其の樹木は只に平原廣野の内に點在せる墳墓の周圍に叢生するか或は寺院の周邊に於て、僅に綠色を見るのみ、是れ氣候の關係大に然らしむるものあり、北清は嚴寒なると大氣乾燥せるとにより、塵に雜草の生せるのみならず、往々山骨を露はせる不毛の山峰、少なからざるに反し、南清は蒸熱にして、濕氣を帯びるを以て、樹木を生ずるの地亦北に、二大森林を有するのみ、大森林の一は滿洲にして、一は福建省を中心として西及び北に亘る山脈中に存在するもの、是れなり、前者は吉林、盛京兩省に跨る長白山脈の一大圍地より、黒龍江省の興安嶺、伊勒呼里山の大山脈に連續するものなり、後者は福建省より起りて、江西、湖南、貴州、雲南の各省、又は浙江省より安徽省に連亘する山脈中に於て、樹木の繁茂するを見る、又雲南、四川の如き亦森林なきにあらざるも、其の地僻遠にして、未だ利用の途開けず、黒龍江省亦然りとなす、山



東省の内部の如き森林なきにあらざるも良材に乏しく、盛京省遼陽附近、錦州附近及び直隸省の密雲縣等處に材木の産出あるのみ

北方森林 滿洲方面に於ける森林は蕪鬱たる天然林にして、概ね人跡未だ到らず、斧斤曾て入らざる所あり、近年利用の途開けて林木を産出するは長白山脈に屬する森林にして、鴨綠江により南方大東溝に搬出し、松花江により北方吉林府に搬出し、陸または河により西方奉天府に搬出す、就中大東溝に最も多く、吉林府之れに次ぎ、奉天府は遙かに劣れり、大東溝に搬出する木材の原産地は長白山脈の一帶及び鴨綠江本流及び其の支流たる混江の水源地にして、樹木の種類は紅松、杉、松、最も多く、黄花松、楸木、椴木、榿木、楚榆を主とす、而して其最も貴重なるは黄花松、應用の廣きは紅松にして、杉松之れに次ぐ、紅松一名黒松、實は食用とすは我國にては五葉松と云ふ木材は黄褐色を帯び、其の用途は家屋建築用、支那船材、又は卓子、箱類を作り、或は中等以下の棺材に供する等、其の用途頗る廣し、杉（松）一名白松、樅（松）の一種なり、木材は白色柔軟にして、我國の樅及び白樺に似たり、其の用途は畧、紅松に同じ、黄花松は我國の落葉松にして、前二者に比すれば遙かに鴨綠江の上流地方に産す、其の用途は支那船の大桅、橋用材、宮殿等高貴なる大建

築物の柱梁材とし、最も貴重す、楸木は我國の胡桃にして、其の産額多からず、椴木は材質我國の桂に似たり、柞木は我國の櫟にして、産額楸木より少なし、楡木一名山楡は我國の楡（楡）なり、楚楡（南清にて楡）は我國にて「ミネバリ」と云ふ、紅松等より稍、下流の地方に産出す

滿洲方面に於ける森林區域は清韓兩國に跨り、其の韓國に屬する森林は鴨綠江に沿うて延長六十里内外、其の幅員十里乃至二十里内外の廣袤を有す、清國に屬する部に於ては其の延長は畧、韓國に似たりと雖も、其の幅員に至ては殆ど無限にして、盛京、吉林界を越え、斷續して遠く黒龍江省に及ぶ、其中長白山脈のみにて一、千清里に亙ると云ふ

南方森林 南方林は主に人工林にして、福建省を以て最も盛なりとなす、其樹種は所謂福州杉木即ち廣葉杉なるを以て、林相の狀況は我國の杉單純林に似たり、南方林木の原産地は安徽、浙江界より遠く湖南、貴州界に連互せる山脈中にある森林にして、其山脈の北面は安徽、江西、湖南、貴州、南面は浙江、福建、廣西の諸省にして、地勢の關係、運搬の便否により、其の木材搬出は閩江を下り、福州に集るものと、長江の支流及び本流によりて漢口及び蕪湖九江に來るものと、錢塘江によりて



杭州に集るものとあり、其中福建省の閩江を下るものを最盛とす、抑福建省は我臺灣と深き關係を有し、其の地勢は山岳多く平地に乏しきを以て、農産物乏しきも、其の内部は樹木繁茂して鬱蒼たる林相をなし、人民亦最も植林を勉む、其の山林の所在地は閩江の上流地方にして、江西省界に近くに従ひて良林を産す、尙ほ進んで省界山脈を越え、江西省に入る、亦林木の産地あり、其他浙江省界も亦林木少からず、之れを要するに福建、江西、浙江の三省に連る山脈は、一帯に杉木の産地にして、殊に福建に屬する方面に於て豊富にして、且良材を産出す、其材木産出地方は延平府、建寧府、邵武府、汀州府地方最も良材を出す、就中汀州府最も大木に富む、福州より輸出材の大部を占むるものは杉木にして、其他松、樟等あれども僅少なり、杉木我國廣葉杉は建築材、器具材、棺材等用途最も廣し、樟は我國の樟と同種なり、之れを細別するときは紅樟、白樟等あり、紅樟は材質多少紅色を帯ぶ、樟腦を製するに適すれども、清國にては多くは器具材に重用す、龍眼肉樹は材質堅牢緻密にして彫刻用に供す、種實は食用及び藥用に供す、其他橄欖、榕樹、梧桐等數多あり、漢口に集合する材木は其數一二に止まらずと雖も、大部分を占むるものは杉木なり、其他松、木楠、柏、桐、木、榿、椿、木、檀、木、梓、木、等種々あり、杭州に集まるものも杉

木最も多く、其他柏、松、楠、梓、銀杏、紫檀等あり

### 工業

支那人は手工に長じ、且つ其國は往古より文化既に開け、工藝製造の發達夙に著しかりき、就中算數、醫學及び船舶、羅針盤、火藥、活字版、紙、陶器、織物等の製造は歐洲人の發明に先だつこと實に一千餘年前にありと云ふ、然れども古來農を以て國本とし、工藝製造の業は唯、自然に放任し、嘗て之れを獎勵せしものなしと雖も、歴代の王侯相將時ありて、大に倣奢華侈を極め、直接間接に其の進歩を促したるものなきに、あらず、明代に至て、帝室の奢侈殊に甚だしく、大小の臣僚相倣うて、驕奢華麗を争ひ、ために大に工藝の發達を來したり、彼の長髮賊に破毀せられたる南京の磁塔の如きは、世界稀有の偉工にして、精緻華麗實に天下の智巧を極めたりと云ふ、清朝に至て、儉素を以て國是となし、王公貴顯相戒めて奢侈を禁遏せしを以て、自然工業の發達を害し、却て退歩の兆あり、現に、今代の美術諸品と明代の製品とを比すれば、其の精粗同日の論にあらず、故に清代の工業は全く沈滯の姿なりと謂ふも可なり、往々陶器其他の美術品の海外に輸出するものは、大抵元明の古物なり、然るに近世文明の風潮は、遂に清國を驅りて、漸く新式工業の開發を促



さしめたり、故に支那の工業は舊工業及び新工業の二様あるに至れり  
 舊工業に係るものは支那舊來の工業にして陶磁器、織物及び諸種の細工等なり  
 陶磁器 四川、湖南の地方に多く産す、泥製のもの、は宜興及び四川に産し、土鉢、沙  
 罐の類は各所皆な是れあり、其精巧なるものは江西省九江附近の景徳鎮を以て  
 獨歩となし、世に所謂九江燒と稱し、其名天下に高く、其製作の技頗る見るべきも  
 のあり

木細工 南方は佳木多きを以て器具製作は南方に多くして技術も亦北方より  
 巧なり、而して南方の中、廣東省は産木地に近く亦輸出に便なる開港場あるを以  
 て器作の工殊に多く、卓子、椅子及び諸般の彫刻各器は其名海外に顯著なり、其の  
 用材は多く紫檀とす、又江蘇、浙江も之れに依りて床卓、椅子の類を作れり、而して  
 紫檀の材料已に缺乏し、今は紅色の梔を以て之れを作り、紫檀の煎汁を以て染塗  
 するのみ、上海、漢口の各埠に於ては他木を以て器具を作り、蘇木の煎汁を以て塗  
 り、山梔に擬するものあり、元來支那人は理想に長じ、又手藝に達す、故に繪畫と彫  
 刻とは古來より有名なり

織工 支那人衣服の料に布、絹、麻の三種あり、布の原料は綿にして、絹は絹麻は葛

を用ゆ、布を織るは大約女工多く、絹は男織多し、絹を織るの外亦絹織綾紗帛等あ  
 り、其の花鳥山水雲物の如き紋趣をなす、其質の美なる、其技の巧なる他邦の及ば  
 ざる所なり、四川省の成都、江蘇省の蘇州、嘉定、浙江省の杭州、寧波及び廣東等其主  
 なる産地なり、就中蘇州、杭州の産價最も貴し、織工の外に綉工あり、衣服綉緞の上  
 に花卉鳥獸人物を繡するもあり、其繡の精巧華麗なるを以て有名なり、日本繡は  
 意匠を以て、聞え支那繡は精巧を以て名あり

紙工 支那は文字國なれば、其用に供する製紙業は大に發達し、其の種類甚だ多  
 く、大別して粗細の二種となす、粗なるものは草を以て之れを製し、細なるものは  
 粗紙を精製す、江西省最も盛に之れを産出す、浙江、四川の兩省之れに次ぎ、福建、湖  
 北、湖南又之れに次ぐ、支那紙は所謂唐紙にして、質脆く實用久しきに堪へず、近來  
 或は破布を以て紙を製するものあり、貴州、雲南の如きに至ては別に綿紙あり  
 玉器 玉は支那西部の特産にして、崑崙山系を最とし、塔里木河上流は古より著  
 名の産地なり、支那人は最も玉器を愛す、翡翠、白玉の玉器は近來外國に輸出する  
 もの多く、ために此業の旺盛を見るに至り、紅蘇、廣東地方は俄然工作者の増加を  
 來たしたり



筆墨 支那固有の産にして其の需要亦内地に止まり、外國は唯、日本之れを用ふるのみ、湖南の筆、安徽の墨は古來有名なる産地にして、其の販路南北各省に普く利益頗る大なり

地席 地席は草を以て之れを織る、江蘇、浙江、四川、廣東の四省之れを産す、就中江蘇、浙江の産は草均しく、工細なる故に蘇、浙と稱し、最も名あり

竹工、刻工 竹器は南方に多し、是れ原料たる竹多きを以てなり、雲南、四川、貴州及び諸南省最も名あり、其の器具は箱、櫃、床、杖、卓、椅より玩物、茶盤、酒盤等を作る、小竹器には人物、花卉、山水等を彫刻し、其工極めて精巧なり、又杉木の彫刻をなすものを刻字匠と云ふ、廣東、四川を有名とす、其他刻字の工は各省巧にして支那刻工の名あり

麥稈、眞田 是年々非常の勢力を以て輸出するに至れり、山東、河南、安徽の北部、直隸の南部最も盛に産出す

新工業は造船所、造兵廠、火藥製造所、製絨所、製鐵所及び造幣局等にして悉く政府の營む所なり、其の民間に開業せるは紡績織布、摺附木製造等にして皆な洋式の器械に依る、其他外國人の支那にありて營む所の製造業亦少からず、其最も著し

きものを製茶業とす

造船所 是三箇所あり、福州馬尾造船所、上海江南造船所及び廣東黃埔造船所是なり、福州馬尾造船所は同治初年の創設にして、最も盛大なり、江南造船所は上海の南方一里半高昌郷にある江南機器局に屬し、其規模亦小ならず、黃埔造船所は英國人より購入せしものにして、規模亦小ならず

造兵廠 是其の個所少ならず、北京及び其の近傍西山、天津、保定、濟南、上海、杭州、寧波、廣東、慶雲、南成都、吉林省等にあり、孰れも洋器機を使用して、銃砲、彈藥及び軍用諸具を製造す、其中最も盛なるは上海、天津の兩所にして之れに次ぐを南京とす、上海にあるものは江南機器局と云ひ、同治五年の創立にして其の規模最も大なり、天津には二箇所あり、一を河東機器局、一を海光寺機器局と云ふ、共に同治初年の創設に係る、河東は専ら火藥を製せしが、中頃レミントン銃を製し、今は製鐵、製銅機、火藥、砲彈、銃砲等を製造す、海光寺機器局は河東に比すれば其の規模小なり、其他各所の製造所は規模皆な狭小、彈丸、小銃、水雷器具、火藥の製造に過ぎず、製絨所 甘肅省の首府蘭州府にあり、羅紗を製す、光緒六年の創設にして、一切洋式の器械を用ふ、此地方は大に獸毛に富み、原料豊多なるを以て製出甚だ盛なり



製鐵所 湖北省武昌にあり、湖廣總督張之洞の創設、明治三十三年起工に係り、専ら軌鐵銃砲を鑄製す、其の規模頗る大なり。

磚茶製造所 漢口に六箇所、九江に二箇所、福州の各所に九箇所あり、皆な蒸汽機を使用して盛に製造せり、規模皆な宏壯なり、悉く露國人の設立にして、製品は皆な本國に運びて販賣せり。

織布局 上海及び武昌織布局最も有名なり、上海のものは上海機器織布局と稱す、其の目的は外品輸入を防遏するにあり、政府の勸誘に出たるを以て、官は之れに特別の保護を與ふ、武昌織布局は張之洞の經營にして、其の目的紡綿織布を以て、金巾布の輸入を防がんとするにあり。

紡績業 紡績業は頗る盛なるが最も盛なるは上海にして、廣東其他各地に於ける製絲業之れに次ぐ、上海には二十六の生絲紡績會社ありて、八十五臺の紡績器械を有し、年々製出生絲高は一萬二千擔以上に達す、千八百九十年清國人の經營せる綿製造所二箇所あり、千九百一年に至て綿絲紡績所十五箇所の成立あり、紡績數實に四十六萬の多數に達し、毎年約六千封度の紡績綿を産出するに至り、尙ほ盛に勃興せんとす。

### 礦山業

支那人は夙に金屬鍛鍊の術を知り、盛に之れを使用せしが、故に礦山業は頗る發達したり、銅坑は黃帝の代に始まり、金、銀、鉛、鐵、礦は堯舜の代に起り、周に至りて、礦制を立て、春秋の世には、礦山學あり、戰國以來既に丹、青、鐵、礦あり、秦、漢の際に至りて、礦山學尙ほ存せしが、其後滅して傳らず、南北朝以來、鑿、礦あり、唐以來、石、炭、礦あり、宋に至りて、礦山の開くこと漸く多く、明に至りて、一步を進め、清朝に至りて、亦、礦制を定め、官司を置き、之れが經營に従事したり、然れども、其の經營は概ね官業にして、人民の自由に營むを得ず、其の採掘の方法極めて幼稚にして、採取する諸礦は地上に現はれ、人目に觸る、所のものに止まれり、且つ地氣保存又は風水爲祟の迷説ありて、採掘事業を阻碍すること少なからざりき、然るに日清戰爭以來、列國競うて各種の經營を清國の上に施すに當り、其の礦産の富は各國の最も注目羨望する所にして、其の掘採權を獲得するや、舊礦は之れを改め、新礦は之れを開き、爲めに鐵道を敷き、道路を開き、全國未開の寶庫は其健今や歐米人の手にあり、是より應に開かれんとす。

支那廣大の領域中諸種の礦物の多き舉て數ふべからず、今其の概觀を述べれば



滿洲には石炭及び鐵の礦脈多く、黒龍江一帶に砂金あり、北清なる直隸、山東、山西、河南、陝西、甘肅の六省間には無量無盡の炭田あり、黃河流域の石炭のみにて優に全世界の工業數百年の使用に堪ふと云ふ、其他金、銀、銅、鉛、錫、硝石、石油等の諸礦も亦乏しからず、中清なる浙江、江西、安徽、湖南、湖北、貴州、四川の八省に亙りては、金、銀、銅、鐵、安質母尼、硫黃、石炭及び石油等の諸礦あり、南清なる福建、廣東、廣西、雲南の四省間には銀、銅、含銀硫化鉛、錫、鉛、鐵等の諸礦に富みて石炭も亦乏しからず、殊に雲南の境内には各種の寶石ありと云ふ、就中最も多量なる産地を擧ぐれば鐵は山西省最も多量に産し、製鐵業も古くより此地に従事せらる、銅は雲南省最も多く鑄銅業も夙に此地に開けたり、鉛、銀、亦雲南省に多く殊に蒙自附近最も多量に産出す、諸礦山中最も重要視すべきは石炭坑なり、支那本部中最も所石炭あらざるはなく、實に清國の一大富源にして列國の羨望措く能はざる物は是なり、其最も著名なるは直隸省の開平炭坑、並びに房山縣炭坑にして其産頗る多し、之に匹敵するものは山東省の博山縣炭坑とす、鞏、邱、縣、沂州縣、濰縣等も亦有望なる炭田なり、甘肅、江西兩省亦炭田に富む、山西省東部の炭田は頗る廣く、其内にある諸炭坑は皆な優良なる無焰炭を産す、其の西部に於ても亦泥炭坑あり、湖南省

東南部にも石炭坑ありて年々の採掘極めて多く、萍醴鐵道は炭業を目的とし盛に採掘運搬するに至れり、亦四川省の中央及び北部は多量の石炭を産し、滿洲遼東地方にも亦多量の産額を見る、今各省礦山の概要を擧ぐれば左の如し、  
 滿洲の金礦 黒龍江沿岸及び松花江の低地、圖們江の低地、松花江の低地、齊古塔地方及び長白山脈中等は皆な金礦に富めりと雖も未だ採掘に至らざるものあり、或は採掘せる處あるも其の方法未だ幼稚なり、  
 滿洲の炭礦 には蕪河水、賽馬集、太子河上流の沿岸、曩に我占領せし煤礦、本溪湖、錦州府、寧遠縣、中後所及び北字河、後州邊等ありて從來露人が擅に採掘せしものにして其の産額詳ならず、  
 直隸省の金銀礦 は關外熱河一帶の地方にありと雖も採礦甚だ幼稚なり、  
 直隸省の炭礦 は開平炭坑を以て第一とし、房山縣、保定州、蔚州、西寧府等之れに次ぐ、開平の炭坑は炭質左程良好と云ふべからざるも、其の産額の多き優に東洋諸炭坑中第一に位し、一日の出炭高約二千數百噸ありて、殆ど我三池炭坑に同じ、  
 山東省の炭礦 の重要なるものは博山縣、淄川縣、沂州府、章邱縣、濰縣にして、萊蕪縣、臨淄縣、新泰縣之れに次ぐ、就中博山を以て主とし、其の面積も亦頗る廣大なり、



諸坑は多く獨逸經營の鐵道附近にあり

山東省の諸金屬礦 山東省は金屬諸礦物の產地として、久しく支那に知られたる砂金の如きは結晶質諸岩の山中より流れ出づる河流には處々に之れを産す、然れども饒富なる砂金產地未だ發見せられざるもの、如し其他銀、銅、鉛、鐵、錫等を産するも規模小なり

山西省の炭礦 山西臺地は多く古生界にして石炭及び鐵床多く、炭礦は分量に於ては支那全國中第一位に居る、リヒトホーフン氏の說によれば炭田の面積は一萬三千五百方哩に互り、而も其の炭脈の割裂崩斷せるあるを見ず、且炭層は二十五呎より五十呎に至り平均確かに四十呎に當るべし、而して炭質は無焰炭にして其の優良なること英國の上等品に譲らず、現今東洋各地より採出する諸炭に至ては、恐らく之れに比肩するもの無かるべしと云ふ、其の著名なる炭坑は東南部及び西南部の炭坑、五臺縣、大同、寧民府間の炭坑、ツムル及びシーキンツコの炭坑なり

山西省の鐵礦 山西省の鐵礦床の面積は炭田の如く廣からざるも、其質は最純良の褐鐵礦及び鏡鐵礦なり、其既に知られたるものは平定より孟に至る地方と、

潞安より陽城に至る地方とす

河南省の炭礦 河南省の礦區は黃河の南北に互り、山西省の礦區と相接せり、炭坑は魯山附近及び南召縣にあり

陝西省の礦區 は省の東部にありて、山西省との接境に連れり

安徽省の炭礦 安徽省内宣城、南陵、太平、繁昌、銅陵諸縣の地は炭山に富み、現今盛に採掘せらる

甘肅省の炭礦 甘肅省の地亦炭礦に乏しからず、其の有名なるものは蘭州府、大通縣、浪縣、定羌縣、山丹縣の五坑なりとす

江蘇省の炭礦 江蘇省の西方安徽省の界に至るに従ひ炭脈を存せり

浙江省の銀礦 浙江省霽波府奉化縣には銀礦ありと云ふ

江西省の炭礦 江西省は支那本部中礦山の豊富なるもの、一なり、元來江西省の炭礦は西部湖南省の境に多し、其の有名なる炭坑は豊城、新喻、萍鄉、興安、樂平、饒州の六坑とす

福建省の諸礦 福建省は諸種の礦物に富む、石炭は梨山最も有名にして、鐵礦脈亦乏しからず、其他銀、鉛、錫、銅等の礦脈あり、廈門よりは花崗石材を出だす、然れど



も其の豊富の度は未詳に屬す

湖北省の礦山 湖北省の大冶地方の礦山よりは鐵礦の產出多く、品質亦優良なり、是れ我枝光製鐵所の原礦供給所なり、又此の地方よりは石炭及び石炭岩等を産し、宜昌府下及び荊州府下にては良質の石炭を産すと云ふ

湖南省の礦山 湖南省も石炭脈甚だ大なるべきも精査未だ届かず、今日まで世人に知られたるものは唯、獨り衡陽縣あるのみ

湖南、湖北兩省には安賀母尼礦山あれども、採掘製鍊未だ甚だ幼稚なり、湖南に於ける、其の産地は新化縣、岳州、長沙府下等なりとす

廣東省の金礦 廣東省内德慶州及び開建縣下の涌流地方には精良なる金礦脈ありと云ふ

廣西省の金銀礦 廣西省内潯州府貴縣の天平山には豊富なる金銀礦脈ありと云ふ

雲南省の諸礦 雲南省の諸礦脈豊富なること、支那全國に冠たり、凡そ支那の各地方にあるものは概ね鐵及び石炭なりと雖も、雲南省に於ては鐵、銅、合銀、硫化鉛、亞鉛、錫及び鉛に富み、且つ金及び寶石を産す、寶石には紅寶石、黃寶石あり、碧

寶石あり、此等の寶石は他の各省に於ては多く見るべからざるものなり

貴州省の諸礦 貴州省は硃砂、水銀の原料、水銀、銀、銅、鉛、白鉛、黑鉛、鐵等を産し、盛に各地より採掘せらる、就中貴陽府開州、銅仁府の硃砂は其の著名なるものなり

四川省の金礦 四川雲南より西藏に互る一帶の地方は夙に礦物富饒を以て知られ、金の産額亦其一に居る、四川省の金は概ね砂金にして、各地皆な殆ど之れを産すと雖も、殊に産出地として數へらるゝは雅州府下打箭爐、成都府附近、川北管下中壩場、建昌及び嘉定府一帶の地方とし、就中打箭爐を以て最とす

政治

支那は現今大清帝國と稱し、其の政體は國法學上純然たる君主獨裁國なり、然れども清國には大清會典なるものありて、立憲國の憲法の如く、現法規は悉く之れに則とり、重要な政務は咸親合會其責に任ず、故に清國は咸族政體とも稱すべし、現皇帝即ち光緒皇帝名は載恬、西曆千八百七十二年八月二日を以て生る、咸豐帝(文宗)第七皇弟醇親王の子にして、千八百七十五年一月二十二日先帝即ち同治帝(穆宗)の後を承けて帝位に陞れり、千八百八十九年二月二十六日現皇后を冊立す、現皇帝は千六百四十四年を以て明朝を滅したる清の太祖康熙帝より第九世の



主に當る。同治帝俄に崩するや、西太后、醇親王と謀りて現皇帝を立つ。齡穉かに四歳なりき、帝幼少にして萬機を親らする能はざりしを以て、西太后政を攝す。千八百八十九年攝政を廢して萬機を親裁し、以て千八百九十八年九月に至れり。然れども周圍の事情は久しく、帝をして政を親らするを得ざらしめ、西太后再び出でて攝政の任に當ることとなれり。西太后は咸豐帝の皇后にして、權勢常に皇帝の上に出で、政務一に其の裁斷する所たり。

政治は主として祖宗の遺法に遵ひ、近來少しく新制を交ふるに至れり。官制は凡て、大清會典に範る。是れ清朝の祖先が千古不易の大典として其の子孫に傳へ、歴世世襲今日に至りしものにして、自由に變改すべからざるものなり。

中央政府は之を分ちて十三部と爲す

- (一) 軍機處
- (二) 內閣
- (三) 總理各國事務衙門即外務部
- (四) 通商大臣
- (五) 海軍衙門
- (六) 六部
- (七) 都察院
- (八) 通政司
- (九) 大理寺
- (十) 翰林院
- (十一) 五寺
- (十二) 國子監
- (十三) 理藩院是れなり

軍機處は軍國の大事を翼賛し、上諭を書して內閣に傳ふ。皇帝毎朝茲處に親臨して萬機を處決す。其の議官を軍機大臣と云ふ。其の員數一定せずと雖も、概して五

名以上に出でず。親王大學士尙書侍郎の内より之れを兼任す。之れに屬する官僚六十名あり。之れを章京又は小軍機と云ふ。軍機處は我内閣樞密院參謀本部を合したる如きものにして、清國政權の主腦なり。明治三十四年四月二十一日の上諭により更に督辦政務處を置き、政務大臣五名參預政務二名を置く。

内閣は前朝に於ては國家の最高機關なりしも、清朝に及びては其の實權軍機處に移り、今は恆例に屬する奏疏の敷奏又は詔諭の頒出を掌るに過ぎず。其の最高官は大學士(宰相若しくは相國とも云ふ)四名、内滿漢各二名。是れ清國官吏中の最高位にあり。次に協辦大學士二名、滿漢各一名、各部尙書より兼任するを常とす。次に内閣學士あり。是れ即ち我局長とも云ふべきものにして、定員十名。其他内閣侍讀、内閣典籍、内閣中書等あり。

總理各國事務衙門(總理衙門)と畧稱す。は千八百六十一年即ち咸豐十二年創設する所に係り、専ら外交の事を掌る。通商貿易を初めとして、海關稅務、公使領事の任免等一に其の權力の下にあり。日清戰爭の後、此の衙門の勢力漸く高まり、今は殆ど内閣軍機處をさへ凌ぐに至り、軍機大臣の兼攝するが如き觀あり。主務大臣を王大臣と云ひ、重望あるものにあらずんば一切の事務を綜攬する能はず。今の



軍機大臣を以て之れを兼攝する如きは、其の職司の重大なるが爲めなり、近來外交の事務益々頻繁を加へ、通商貿易等の管掌に遑あらず、茲に於て新に商務部を置き、當分の内之れを外務部に隸屬せしむ、皆な宇内の大勢に懸られて、多少の變形を見るに至りしなり、されば今の總理衙門を又一に外務部と云ふ我外務省の比にして其權力頗る重大なり、新設の商務部は今は外務部に屬すれども、早晚獨立の官衙となるべきものにして、鐵道、輪船、礦山、電信、郵便等の各課を總轄し、從來の路、礦會辦大臣の事務は擧げて此官衙に收集せられしなり、是れ元と六部に一部を増して七部となりし者とするも、今は便宜の爲め之れを外務部に附す

通商大臣は清國に於ける通商事務長官にして、直隸總督は天津にありて、北清、芝罘、牛莊、天津の通商事務を主管し、兩江總督は南京にありて、南清、右三港以外の貿易港の通商事務を監督し、南洋大臣、北洋大臣を以て名あり

六部は吏部、內務部、戶部、農商務部、禮部、文部、兵部、海陸軍刑部、司法部、工部、(土木)にして、各部皆其の組織を一にし、管理事務一名、尙書二名、侍郎四名、郎中員外郎、堂主事、主事、司官部、守司庫、司務部、院庫使、司獄、司匠等の諸官員を以て組織す

都察院は元と大清會典の規定により立法、司法、及び行政内の諸監督權を掌握し、

官吏の邪正を辨じ、主上に密奏して綱紀を維持するを力ひ、親王大臣と雖も其彈劾を免る能はず、其規定する所によれば、都察院は事朝政の得失、民政の利弊に關するもの及び大臣私に徇ひ注航したる者は實に據りて陳奏するを聽す、官民の冤枉を所司受理せざるものは、院に赴き陳懇するを許して鞠實す、(中略)且百官に授與する任命敕寫は、都察院皆之れを掌るとあり、其官は左右都御史、左右副都御史等にして、定員五十六名を以て、全國五十六道を分轄す

通政司は文書傳達の廳にして、明朝に在りては各省よりの諸文書を開披記録して、之れを内閣に傳達したるものなれど、現今にては單に文書を取扱ふに止まり、多くは封緘の儘之れを軍機處に傳達す、其官は通政使司二名、通政副司二名、通政司參謀二名より成る、之れは殆ど無用の府なり

大理寺は即ち覆審院にして、刑法執行上の監督權を有す、管理事務卿、少卿等の官吏あるは他の五寺と同じ

翰林院は國史を編纂し、經書を講侍し、制誥を草定し、進士の入院するものを監督するを掌る、掌院學士二名及び侍讀學士、侍講學士、侍讀、侍講の官吏ありて、院の實權を握れり、又殿試に中りて擧げられたるもの、(一)修撰、(二)編修、(三)檢討、(四)庶子とな



す、其他國史館ありて院に隸屬す、是れ亦無用の府たり  
 五寺は大理寺(前出)大常寺(聖拜局)大僕寺(帝室牧馬所)光祿寺(帝室饗宴局)鴻臚寺(帝  
 室典禮局)是れなり、五寺には各管理事務卿、少卿の官あり  
 國子監又一に大學とも稱す、管理國子監大臣、酒祭司、業監、丞、博士、典譯、典籍等の諸  
 官あり  
 理藩院は蒙古、青海、西藏、回部其他游牧の政令を掌握す、院内六局を置く、其の組織  
 は畧前の六部に類す、管理事務一名、尙書二名、院務を綜理し、左右侍郎各一人之れ  
 を輔佐す、是れ亦無用の府たるの觀あり  
 清朝は滿人を以て一朝中國に君臨し、自家の前途を慮り滿漢鉗制の制度を立て  
 其の中央政府には滿人漢人を併用して之を組織し、兩者の權衡を保つに深く意  
 を用ひ、以て政治の圓滑に行はれんことを期せり、故に各省概ね滿漢相交へて各  
 其の要路に置く然れども互に相軋して、政務を滯せしむるの弊あり、北京は  
 皇城中央政府の所在地なるを以て、殊に歩軍統領衙門を置き、北京の警察を司ら  
 しめ、又府尹、府丞を置きて市政を主宰せしむ  
 地方制 地方政治に於ては支那は特殊の制度を有し、支那本部を分ちて十八省

となし、省を分ちて府、廳、直隸州、我國の郡の如きものとなし、更に細別して州、縣、  
 (郷)の二となす、本部十八省には總督巡撫を置きて之を治め、駐防八將軍を以て地  
 方の軍政を統べしめ、東三省には滿洲三將軍ありて、兵馬の全權と地方行政の大  
 權とを掌握す、其他尙ほ蒙古、伊犁に將軍、都統を置き、西藏に辦理大臣を置き之れ  
 を統治せしむ  
 總督は正二品に班し、最高の地方長官にして、其の管内の文武官を統轄す、總督は  
 職務上の資格を以て、當然兵部衙門長官及び都察院長官を兼務す、十八省中山東、  
 山西、河南の三省を除き、他の十五省には總督八名を置く、通常二省、或は三省を兼  
 轄す、但直隸は京畿の地なるを以て特に總督を置く、又四川は地積廣濶、他省と隔  
 絶して交通不便、且つ省内物産に富み重要な地方なるを以て特に總督を置け  
 り、今其の駐在地及び管轄區域を掲ぐれば左の如し

總督名	駐在地	管轄區域
直隸總督	天津	直隸省
兩江總督	南京	江蘇、西江、安徽三省
閩浙總督	福州	福建、浙江二省
		四川總督 成都 四川省
		陝甘總督 蘭州 陝西、甘肅二省
		湖南總督 武昌 湖北、湖南二省

清國



雲貴總督 雲南 雲南、貴州二省 兩廣總督 廣東 廣東、廣西二省  
 巡撫は撫院、撫臺等の別稱あり、従二品に班し、總督に次で地方の重權を有す、各省一名を置く、但直隸、四川の二省は總督一省を專管するを以て之れを置かず、總督と相議して文武を處理す、總督の下には中軍、文巡撫、武巡撫あり、巡撫の下には按察使、司鹽運使、司布政使、司道臺、知府、知州、知縣等あり、按察使は一省の法律治獄を司り、各府縣の刑案を審察監督す、鹽運使は一省の鹽課を綜理し、奸宄を糾察す、布政使は一省の財政、雜稅、關稅の諸項を管理し、各州知縣徵集額の儲蓄支出を掌る、道臺は一省内の糧儲或は鹽法驛遞或は兵備、海關或は巡守等の事務を管理し、各府縣の政務を監督す、其の錢穀を掌りて布政使の統下にあるを分守道と云ひ、刑掌の種類により糧儲道、管河道、鹽法道、兵備道、督糧道の名あり、大抵分巡二道を以て他職を兼任す、知府は、各省各府に一人を置き、府下の行政、民事、訴訟、賦稅の諸務を施行し、知州は直隸各州及び府屬各州、屬各州に一人を置き、知府と同一の事務を執る、知縣は各省每縣に一を人置く、知府或は知州に隸屬し、縣下の行政、民事、訴訟、賦稅諸務を行ふ

尙ほ河東河道總督及び漕運總督あり、前者は黃河保存、土木を監督し、後者は南京地方より北京に米穀を輸送するを支配指導するの任なり

今清國現政府の要路に當る執政者を擧ぐれば左の如し(明治三十八年現在清國顯官一覽)

軍機處 慶親王○王文韶(浙江)○鹿傳霖(直隸)○瞿鴻禨(湖南)○御前大臣步軍統領肅親王

政務處 慶親王○崑岡(滿人)○王文韶(浙江)○鹿傳霖(直隸)○瞿鴻禨(湖南)○張之洞(直隸)○袁世凱(河南)

外務部 慶親王○那桐(滿人)○瞿鴻禨(湖南)

吏部 兼政務學務大臣孫家鼐(安徽)○世續(滿人)○兼政務大臣鹿傳霖

戶部 兼軍機大臣榮慶蒙○張百熙(湖南)

禮部 溥興○徐郢(江蘇)

兵部 裕德○徐會澄

刑部 葛寶華(浙江)○奎俊(滿人)

工部 松桂(滿人)昌海(順天)



商務部 尙書貝子載振 ○左侍郎伍廷芳 ○右侍郎陳璧 ○左丞陸世昌 ○右丞唐文治

總督 直隸袁世凱 ○兩江江蘇安徽江西魏光燾 ○陝甘陝西甘肅著蒼 ○閩浙福建

浙江李興 ○湖廣湖北湖南張之洞 ○四川錫良 ○兩廣廣東廣西岑春煊 ○雲貴

(雲南貴州)丁辰鐸 ○奉天將軍趙爾巽 前將軍は増祺

汪洋大臣 (海外派遣公使)

日本楊樞 廣東 ○英國張德懿 滿洲 ○韓許台牙 浙江 ○佛陳寶琦 浙江 ○獨陰昌 滿

洲 ○米日秘梁賊 廣東澳洛 吳德章 福建 ○伊許珏 江蘇比 楊兆孝 浙江 ○露胡惟德

浙江

軍制

各地方の軍政を司るに八將軍あり、江寧將軍は江蘇に、荊州將軍は湖北に、福州將軍は福建に、杭州將軍は浙江に、西安將軍は陝西に、寧夏將軍は甘肅に、成都將軍は四川に、廣州將軍は廣東に駐在して各軍政を統轄す、此外滿洲に三將軍及び蒙古將軍あり、將軍は從一品に位せるを以て、其の地位總督巡撫の上にあり、其の職行政に與らずと雖も、其の權力は遠く總督の上に由て、往々兩者の間に多少の扞格

なきを保せず、將軍の下に副都統協領佐領防禦驍騎校委署騎校前鋒領催等の諸官あり、又廣西雲南四川の如き土民苗種の行政官吏あり、其の組織野蠻國に於ける首長制と異なる所なし

陸軍 日清戰爭以前は清國の軍備の完全なるべきは清國自ら信するのみならず、列國も亦認むる所なりき、然れども世運の變轉昨日の強國は今日の弱國となるに至れり、今先づ陸軍を述べれば、支那の陸兵に三種あり、八旗兵、綠營、鄉勇是なり

八旗兵は清の太祖愛親覺羅氏が勃興の時に於ける驍兵にして、銳鋒能く明朝を倒したり、初め滿洲兵を其の旗色によりて八旗に分ちしが、後蒙古を降し、支那本部を畧するに及び、蒙古族、漢族を以て各八旗を組織し、蒙古八旗、漢軍八旗と云ひ、合せて二十四旗、其の總數三十萬と號す、れども戰時の兵員は八萬乃至十萬なりと云ふ、其内凡そ三萬七千人は滿洲に屯營し、四千人乃至六千人は北京附近の各營に留りて禁旅となり、或は諸省に出でて駐防となる

綠營兵は綠旗兵にして、清廷が支那本部を平定せし後、漢土の人民を以て組織したる常備軍にして、之れを十八軍團に分ち、各省に一軍團を置き、總督之れを管



す、其の兵數總て五十四萬乃至六十六萬と稱すれども實際兵事に堪ふべき兵數は大凡二十萬なりと云ふ其最も有力なるは袁世凱の管する天津軍團にして、其の兵數十萬と號するも其實凡そ三萬五千なり、此兵は新式の組織訓練を受け武器も有り、天津の兵營太沽其他の砲臺の守備に従事す、以上の八旗綠營の二者を額兵と云ふ、其の口糧額定るを以てなり、兵職は世襲にして結婚も亦其の種族間に限らる、宛も我徳川時代の旗本八萬騎と相性質を同じくせり、幕末旗本の墮落其用に堪へざるが如く支那世襲の兵職も今や其名のみを持する者多し、郷勇は義勇兵にして綠旗の闕乏を補充するものにして、長髮賊騷亂の際英國のゴルドン將軍の初めて組織したる傭兵なれども、後年内亂相踵ぐに及んで所在に之れを常置するに至れり、是れ額兵外の招募兵なり、其他蒙古には不規律なる騎兵二十萬ありと云ふと雖も實際は二萬位にして兵士たるの價値なし、此等を悉く通算すれば平時の兵凡三十萬にして戦時には凡そ百萬に達すべしと云ふ、平時の餉銀は年々三千餘萬兩以上を要す、然れども訓練は只體育に止まり武器は舊式を用ひ、輜重運輸の備なく、又軍醫なし、兵に一致協力を缺き無用のもの少からず、是に於て乎裁兵節餉の議、無用の兵を淘汰し併せて餉銀を省減せんとなす

る事起り、上諭屢下り其の實行を促したりと雖も督撫等之れを奉行せず

海軍 清國の海防には北洋防禦、南洋防禦ありて、北洋艦隊は元と旅順及び威海衛を根據となし、南洋艦隊は馬尾灣(福州)及び廣東を以て根據となし、其の海軍は充分戰鬥力あるものと信せられたりしも、日清戦争に於て遂に其の價値を暴露せられたり、日清戦争の當初即ち明治二十七年七月二十五日我吉野艦と支那の濟遠號の海戦の結果、運送船高陞號は沈没し、小巡洋艦廣乙號は淺瀬に乗揚げ破壊せり、同年九月十七日黄海の海戦に於て支那の砲塔甲鐵艦經遠號(二千八百五十噸)巡洋艦致遠號(二千三百噸)超勇號(千三百五十噸)揚威號(千三百五十噸)廣甲號(千三百噸)は撃沈或は燒棄せられ、續て威海衛に於て戰艦定遠及び巡洋艦一隻は沈没し、甲鐵艦鎮遠號は捕獲せられたり、此の如く有力なる軍艦を失ひ且つ其後進水したる水雷破壞艦四隻は北清事變の際、敵軍に捕獲せられ英佛獨露の四國各一隻を分取したり、故に今は只巡洋艦合せて六隻あり、其の艦名を擧ぐれば海天、海容、海地(各四千噸)の三隻を主とし、海濤、海濟、海探(各三千噸)の諸艦あり、其外尙は數隻の小艦あれども殆ど老朽にして用をなさず、佛國技師ドリエール福州造船所を再興し、水雷砲艦(八百十七噸)一隻及び水雷艇一隻を造り將に竣工を告



げんとす、要するに清國の海軍は未だ甚だ微弱なり。防備清國は其の境域廣大なるが故に其の内地に進入して縱横に馳騁するは外國軍の最も難しとする所なれども北京を始めとして其他重要な都府多くは海岸に近きを以て一擊其の急處を擣くに難からず之を以て支那防備上に於ては不利益の地位にあり而かも其の防備未だ充分ならず。海防清國が海防に最も意を用ゐたるは北部地方にして揚子江口之れに次ぎ南部に於ても諸處に砲臺を築造し各河口を擁護すと雖も其多くは數十年前の設計にして今日の用をなすべきものにあらず。北部に最も堅固なりしは旅順口及び威海衛なりしも前者は再度我國の手に落ち後者は英國に歸し清國は黃海に軍港を失ひて唯太沽の碇泊所あるのみ太沽の要塞は白河口にあり四十五年前英佛聯合軍に破壊せられてより修築に力を盡し中に南北兩部の主堡壘西部の舊堡壘次に稍大なる海岸砲臺あり又少しく河を溯て西南堡壘あり。膠州灣は今や獨逸の占領する所たり其の地形の如き既に清國の關する所にあらず。

福州は臺灣の對岸閩江の左岸にあり海を距ること三十哩馬尾の碇泊所よりは十哩江幅の狹隘なる所に二個の砲臺あり且つ江口には三箇所に防材を施せり之れを擊破するは容易の業にあらず廈門は南部福建の要樞の地にして古昔より叛亂海賊外寇等の事變ある毎に常に其の爭點となりき之を以て早く同港防備の必要を感じ廈門島の南岸に沿ひて數多の堡壘を築造せしも今日の戰術に照らして無効なるを以て之れを拋棄し更に既往二十餘年間に洋式の砲臺を其周圍七ヶ所に築けり其の西北隅に一の石造堡壘あり大陸に渡れば更に二個の堡壘あり前記の砲臺と相對す守兵にして勇敢ならば外國艦隊は到底此地を陥ること能はざるべし寧波は鎮海と相對して甬江口の重鎮をなす浙江省の沿海に於ける唯一の新式砲臺あり。廣州は香港より河航汽船三時間の程なり珠江は幅二千乃至二千五百米突にして其の中央に二個の巖島ありて自然の擁護をなす此の兩島及び左右の岸上に數個の堡壘あり之れを通過すれば江幅漸く濶く平汎島黃埔島等の群嶼あり此等の島上及び其の左右兩岸に又砲臺あり蓋し外國軍の之れを馭せしむるは優勢なる艦隊と雖も随分難き事なるべし。



江防 揚子江は支那人の所謂天下の中、數省の休戚之れに係れり故に頗る其の防備に心を用ゆ。吳淞砲臺は其の咽喉にあり、江南機器局設立以來著しく其の堅固を増し以て要塞前二哩を上下する船艦を撃破する力あり、又吳淞より溯ると八十哩許の左岸江陰は長江水師の根據にして其の近傍に第二の堡壘五箇ありて大小五十門の大砲を備ふ、其の對岸靖江にも二三の砲臺あり、江陰より上流六十哩許にして鎮江の側銀山に堡壘あり、其の對岸にも是れあり、此邊江幅凡そ三百五十ヤード之れを通過して又二箇の砲臺を望む、南京の北門に近接して丘陵の半腹に一堡壘あり、是より上流百二十五哩左岸の鷓鴣山に要塞あり、尙ほ湖ること二哩第二の要塞あり、次に安慶に要塞あり、其次には又潘陽湖の入口なる大孤山に要塞あり、而して湖畔の市府及び湖口にも亦堅固なる堡壘あり、揚子江沿岸最終の堡壘は同湖の上流四十五哩なる破額山の堡壘とす、其の對岸にも堡壘あり以上の砲臺は揚子江口より數百哩の上流に連互し、能く海上より襲來せる進撃に對して沿岸の地方を安全ならしむるに足れり

邊防 邊防の一事は古より常に支那の大患たり、清朝に至り四方皆な大國に接し、北は滿洲より沙漠を隔て、露國と境し、西は伊犁、新疆、喀什噶爾の事を以て時

時之れと憂を開き、南は西藏雲貴を介して英領と隣り、兩廣を界として佛領と相連る、邊防愈嚴ならざるべからず

清國軍隊の配備は曩に劉坤一の奏議により決定したる所左の如し

兩江總督	六萬三千五百人	湖廣總督	四萬八千人
湖北巡撫	一萬八千人	湖南巡撫	三萬人
江蘇巡撫	二萬四千人	安徽巡撫	二萬千五百人
江西巡撫	二萬六千人	浙江巡撫	二萬八千人
長江水師提督	四萬人	南鎮總兵	三萬四千人

其の方略に曰く海上警を傳ふれば兩江總督は清江浦を本營として揚子江沿岸の陸軍を總轄し分營を徐州に置き山東巡撫の率ゆる兵と連絡すべし、湖廣總督は揚子江の中央を護り洞庭湖の西部に於ては湖北湖南巡撫の二人其の捍禦の任に當るべし

揚子江の嚴戒は江陰を根據とし、長江水師提督之れに當り、南鎮總兵は南洋水師を都統し茲に麾下の各軍を率ゐて鎮江、以東崇明島及び吳淞の諸堡壘を扼守す、外國軍長驅して首府を犯さんか南方の諸軍は山東の兵を合して北上入衛し陝



山西西河内の都統は其軍を提げて、東路北京に赴くべし尙ほ江蘇江西安徽浙江の四巡撫は糧餉を籌りて各隊に輸送し併せて所管の地方を護るべし云々

財政

清國の財政は甚だ混亂して其の要領を會得すること頗る難し各省各獨立の姿にて其の歳出入に任し居れり但し其の形式上戶部は豫算を編制して皇帝の裁可批准を経更に之れを各省に傳達す各省に於ては之れを標準として之れに地方行政費を加へて課税すべきものとす然れども實際の徵收額は大に其額に越ゆ決算も亦戶部に於て之れを統轄するの制なれども極めて疎漏にして一も信據すべきものなし今左に千九百一年ロバートハート氏の調製せる清國政府最近の歳計收支概算表を擧ぐれば左の如し

入		歳	
科	目	科	目
地租(銀納)	二六、五〇〇、〇〇〇	釐金	一六、〇〇〇、〇〇〇
地方雜稅	一、六〇〇、〇〇〇	内地關稅	二七、〇〇〇、〇〇〇
地方稅	一、〇〇〇、〇〇〇	普通運貨物稅	一七、〇〇〇、〇〇〇
鹽稅	三、一〇〇、〇〇〇	海關稅	五、〇〇〇、〇〇〇
地稅	一三、五〇〇、〇〇〇	外國阿片稅	一、八〇〇、〇〇〇
總計	八八、二〇〇、〇〇〇	內國阿片稅	一〇、二〇〇、〇〇〇

出		歳	
科	目	科	目
十八省行政費	二〇、〇〇〇、〇〇〇	公使館費	一、〇〇〇、〇〇〇
陸軍費及海軍費	三五、〇〇〇、〇〇〇	河道土木費	九四〇、〇〇〇
中央行政費	一〇、〇〇〇、〇〇〇	鐵道費	八〇〇、〇〇〇
八旗營兵費	一、三八〇、〇〇〇	外債利子及償還金	二四、〇〇〇、〇〇〇
帝室費	一、一〇〇、〇〇〇	臨時豫備費	三、三〇〇、〇〇〇
稅關事務費	三、六〇〇、〇〇〇	總計	一〇、二〇〇、〇〇〇

上表に據れば清國の歳入は厘に八千八百二十萬兩にして其の歳出一億一千萬兩に過ぎず即ち歳出入合計二億兩に上らず政務の擧らざるも亦偶然にあらずと謂ふべし次に各税目に就き其の要領を述べし

●地租 清國地租は米納を本色と稱し其の代銀納を折色と稱す折色は官のため運賃を省くの便あり本色は其の運送費多く且つ運送中正米の耗損多し此貢租を正米にて納むるは江蘇安徽及び浙江江西の四省のみにして其他の諸省は多くは代銀なり是れ前記の四省は米の産出多く納米二十萬担は運河を経て北京に送り其餘の大部分は海運により南方より天津太沽に運送するを例とす

地租徵收は知縣の任務なり其手に於て徵收する穀價は其地の時價よりも高き



こと大凡二倍或は三倍以上なるを常とす、是れ運送諸費並に途中の耗損費をも一切包含せるが故なり

海關稅 外國貿易に對する輸出入稅の收納は清國官吏の掌る所にして其の弊害煩苛頗る多かりしが千八百四十二年南京條約によりて列國領事を各港に置くに及んで外國貿易貨物の輸出入稅は領事之れを徵收して清國政府に納むること、なれり然れども各國領事は自然自國に私するの傾ありしを以て清國は亦列國領事の手より其收稅權を奪へり、是亦内外通商の發達を阻礙する所頗る多きが故に清國政府は列國と協議して歐米人を擧げて其任に當らしむる事となしたり、現任總稅務司は英人ロバート、ハート氏にして北京に駐在して諸稅務司を總督す、支那には舊來行はれし舊海關あり、内國江海の通商に征稅する官司なり、故に外國貿易のために海關を創設するに及び之れを新關稅又は新關と稱す、沿江及び沿海を分ちて十八管區となし、每區中の重なる開港場の稅務司管內各港の稅關を監督す

新關稅は清國に於て海外との通商上、新海關の掌管する稅種は輸出入稅、沿岸貿易稅、噸稅、子口半稅、即ち通過稅及び鴉片釐金稅の總稱なり

輸出入稅は南京條約によりて從價の百分の五即ち五分稅と定まれり、其後多少の變更あれども稅率は概して五分なり

子口半稅は又通過稅とも云ふ、清國にては輸出入貨物に對し、海關稅の外に通過稅を徵收す、是れ即ち從來の舊關稅及び釐金の抵代稅なり、從來清國內地には舊關あり、到る所に釐局を設けて貨物の其地を經由する毎に幾回となく通過稅及び手数料を徵收するが故に、輸出貨物を内地に送り、或は輸出貨物を内地より埠頭に上すまでには、元價に倍するの稅額を徵收せらる、こと少からず、故に我國及び英國に於ては其の煩苛の重稅を免かれんために、清國と條約を訂結して、各便利の方法に據りて本稅を課すること、せり

沿岸貿易稅は沿岸の一港より一港への輸送貨物に對する輸出稅の附加稅なり、其の稅額は前の通過稅に同じ、例へば支那内地の貨物にして海關を経て内地の一港に向け輸出せらる、時には外國に輸出せらる、時と同率の輸出稅を賦課せらる、而して此貨物が輸出先地に輸入せらる、時に輸出稅の半額即ち沿岸貿易稅を徵收せらる、此の稅は輸入地の稅關に納むるものなり、噸稅は外國貿易のため開港場に入港する船舶に課するものなり



舊關稅 其の起源遠く周代にあり、全國江海要衝の地及び陸路四通の處に關門、を置き以て貨物の通過税を征す、現今清國中央政府の直轄に屬して、國庫の一稅源なり、其の稅率は原價百分の五を以て標準とせしものなれど、今や其の輕重加減一に關吏の掌中にありて、其の弊害少からず、關吏は監督と云ふ、巡撫或は道臺をして之れを兼ねしめ、或は專任の監督を置く所もあり

釐金稅 其の起源、太平叛亂の際、軍費に窮し、曾國藩は管内湖北の漢口に釐局を設け、舊關以外に一種の地方通過税を徵して、其の軍用に充てたり、次で胡林翼湖北に巡撫たるに及び、亦釐局を武昌に設け、之れにより二人共に天下の大亂を戡定せり、是れより各省督撫之れに倣うて所在に釐局を起し、此の制漸く全國に普及し、遂に永久の制度となれり

釐金稅の舊關稅と異なる所は、彼は中央政府に屬し、此は各省政府に屬するの差あるのみ、其の性質毫も異なる所なし、其の稅率に至ても舊關と同じく關吏の自由にして、從て各地方により區々として一定せず、以上兩稅の弊害多く苛酷なるを以て前述の如く我國及び英國に於ては釐金制度撤廢の條約を結ぶも、實際に於ては、其の清國人の進運する貨物に對しては、到る所釐金雜稅を重課しつゝ、あ

りて、其の實行覺束なし

鹽稅 鹽は政府の專賣にして、製鹽者は其製出したる鹽を皆な政府の代理店に賣り渡し、代理店は之に課稅額を加へたる代價を以て免許鹽商に賣却するなり

國債 清國の國債は千八百九十四年以來の起債に係る而して、其の擔保は海關稅收入を以て之れに充つ、但千八百九十九年の分に限り鐵道收入を以て之れが擔保となす、清國々債表左の如し

年次	金額	利息	年次	金額	利息
千八百九十四年	一、六三五、〇〇〇	七分	千八百九十八年	一六、〇〇〇、〇〇〇	五分
千八百九十五年	三、〇〇〇、〇〇〇	六分	千八百九十九年	一六、〇〇〇、〇〇〇	四分五厘
千八百九十六年	一、〇〇〇、〇〇〇	六分	千九百一年	二、三〇〇、〇〇〇	五分
千八百九十七年	一五、八二〇、〇〇〇	四分	千九百一年	六四、〇〇〇、〇〇〇	四分

拳匪事件の損害賠償のため千九百〇一年五月二十九日の條約により清國が我國並に列強諸國に支拂ふべき償金の總額は四億五千萬兩にして、六千四百萬磅向ふ三十九年間即ち千九百四十一年迄に毎年一月一日金貨を以て支拂ふべきものなり、其の利子は年五朱にして、毎半年に之れを支拂ふものとす、而して一箇



年に於ける其の利子の金高は二百五十六萬磅に上る。此の國債の擔保は海關收入にして目下海關收入を擔保とせる一切の國債に對し元利銷却を行ふ金額は凡て五百七十萬磅に達せり。

## 貨幣

清國價格の標準は兩を以て稱す。兩の端數としては錢、分、厘の三種あり。其の銀兩は皆な一種の銀塊(馬蹄銀)にして、各地共其の品位形狀及び價格を異にして毫も一定せざる故に、之れを授受する際には一々其の品質及び秤量を査定せざるべからざるの煩あり。此他墨銀即ち墨西哥弗なるもの盛に各地に通用せられ此の補助貨として、各銀元局に於て鑄造せられたる小銀貨及び香港日本等の小銀貨をも使用すれども、此の墨銀にも亦兩に對する相場ありて、日々價格に變動ありて一般價格の標準となし難し。

銅錢は支那歷代に鑄造せる各種の孔錢(烏目)にして支那固有の貨幣と謂ふべく主に日用品の賣買其他普通小口の取引及び諸賃金に使用するものなり。其の一千文は一串文又は一吊文(滿洲地方にては多く百文を一吊文と稱すと稱し、銀兩の一兩に相當すべき等なるも概ね一千二三百文を以て銀兩一兩と交換す、然

れども各地に相場ありて一定せず。内地に於て流通する銅貨錢の種類は從來の串錢の外近時廣東福建江蘇等の銀元局にて鑄造したる孔口なき五文と十文の新銅錢あり、我五厘及び壹錢銅貨に類似す。又我寬永通寶壹厘も上海其他の地方の通貨となり、而も其の價格は最上位にありと云ふ。

墨銀と圓銀 墨銀即ち墨西哥弗は其の品位形狀畧我壹圓銀貨に均しく支那各地到る所に盛に通用せらる。明治二十四年頃より廣東始め福建湖北吉林直隸江蘇の各省に銀元局を新設して墨銀の純分量に等しき支那銀貨所謂圓銀と稱するものを發行するに至りたれども其の信用墨銀に及ばず、墨銀及び圓銀は一弗を一元と云ひ、之の十分一を角、角の十分の一を分、(仙に相當す)分の十分一を厘とす、之れが補助貨として各銀元局に於て鑄造せられたる五角(五十仙)二角(二十仙)一角(十仙)五分(五仙)等の小銀貨あり。

銀兩 支那銀兩には紋銀、票銀、銀錠等の稱あり、之れを大別して小銀、中銀、元寶の三種にして元寶は俗に馬蹄銀と云ふものにして其形狀の馬蹄に似たるを以て、輒近此名を附す、外國人は支那婦人靴に似たりとて之れを靴銀と稱し、又サイシイ(純白絹絲又純銀の意)とも稱す。



馬蹄銀は外國銀行に於て英國又は米國等より輸入せる銀塊を以て鑄造す、而して此の銀塊を以て通貨となさんと欲するものは銀爐と稱する鑄造業者に托し、一個約五十兩の馬蹄銀を造らしむ、然れども其の價格は各地方によりて相異せるを以て、甲地の馬蹄銀百兩は直ちに乙地に於て同價額に之れを通用するこゝと能はざるは勿論なりとす、今上海規銀(上海相場)と各地銀兩とを比較すれば左の如し

上海港規銀百兩			
牛莊	九七三九七	九江	九三六八九
天津	九四二五五	蕪湖	九三五〇一
芝罘	九五五一二	鎮江	九三五〇一
宜昌	九八四二九	寧波	九五〇〇〇
漢口	九七六二一	溫州	九二六四〇
福州	九八七四二	北海	九九二五五
廈門	九一三三八	汕頭	九八八七八
海關兩	清國政府の官用の兩に庫平銀、海關兩の目あり、庫平は諸官衙の出納に		

使用し、價金の如きも庫平を以てす、海關兩は各開港輸出入税に用ふるものにして、上海に於ける其割合は左の如し

上海銀幣	一百〇九兩六分	庫平銀	一百兩
同上	一百一十一兩四分	海關兩	一百兩
上海海關兩百兩と各地通用銀との比較は左の如し			
牛莊	一〇八五〇〇	九江	一〇四三七〇
天津	一〇五〇〇〇	蕪湖	一〇四一六〇
芝罘	一〇六四〇〇	鎮江	一〇四一六〇
宜昌	一〇九六〇〇	寧波	一〇五八三〇
漢口	一〇八七五〇	溫州	一〇三〇〇〇
福州	一一〇〇〇〇	北海	一一〇五七〇
廈門	一〇一七五〇	汕頭	一一〇一五〇

紙幣 は政府にして發行せる事ありしも、其の方法宜しきを得ざるを以て、人民之れを信用せず、今は廢絶して通用せるものなし、只支那銀行の銀票、錢票等の預金手形及び外國銀行に於て發行せる弗手形、兩手形は盛に流行して、紙幣と異な



ることなし

次に我國貨幣と清國貨幣との最近換算比較左の如し

兩(十錢)	上海兩	我壹圓十錢二厘
	天津兩	我壹圓十六錢
	漢口兩	我壹圓十四錢八厘
錢(十分)	上海兩	我十壹錢二厘
分(十厘)	上海兩	我壹錢壹厘二毛
釐(十絲)	上海兩	我壹厘二毛

度量衡

現時支那國內に行はる、度量衡は種類多く各其の基本を異にし、錯雜極まるを以て其の比率を正確に測定するは頗る難事に屬す、左に其の概要を示すべし  
 尺度 米人ウイリヤム氏の調査によれば清國沿岸各地方に用ふる尺度は總て八十四種に及び若し之れに内地各地方に行はる、ものを合すれば恐らく數百種に上るべしと云ふ、而して其最も普通に使用する尺度を我國のものに比較すれば左の如し

里	凡我五町十五間	丈(十尺)	凡我一丈一尺七寸
尺(十寸)	凡我一尺一寸七分	寸(十分)	凡我一寸一分七厘
分	凡我一分一厘		

我臺灣總督府所藏の大清會典に板刻したるものにより檢定したる結果を見るに其の彼我の差は左の如し

周尺	一尺	我六寸一分五厘六毛
古尺(横黍尺又律尺と云ふ)	一尺	我八寸五分五厘
今尺(縦黍尺又營造尺と云ふ)	一尺	我一尺五分五厘八毛
一弓	五尺	我五尺二寸七分八厘
	一步(五尺)	我五尺二寸七分八厘
里程	一里(千八百尺即三百六十步)	我一里十六町四十六間八尺
	一鋪(十里)	我一里十六町四十六間八尺
	一平方尺	我一、一四二九一三六平方尺
	一步(二弓平方)	我二、七八五二八四平方尺
地積	一畝(廣一步縱二百四十步)	我六畝五坪七八一五二



又ウイリヤム氏の調査せる支那尺八十四種中其の數種を掲載して本邦尺に比較すれば左の如し(但し左記の中廣東尺は一千八百五十九年英清通商章程善後條約により恰も英國の十四吋一(我一尺一寸八分一厘四毛)に相當し税關の如きは皆此の尺によれり)

裁縫用	英尺支那一尺	日本尺支那一尺
反物卸商	十四吋六八五	一尺二寸三分〇八
同小賣商	自十四吋七二 至十四吋六六	自一尺二寸三分八七 至一尺二寸三分四七
細工物用	自十四吋三七 至十四吋五六	自一尺二寸四分〇三 至一尺二寸四分〇三
モンキンチ	十二吋七一	一尺〇八分五三
裁縫店尺	十六吋八五	一尺四寸一分二三
テン尺	十五吋	一尺五寸五分七二
タンテン尺	十一吋一八	九寸三分七〇
造船尺	十一吋五五	九寸六分八一
	自十五吋七六 至十五吋六九	自一尺三寸二一七 至一尺三寸一五七

我六町一段九畝一坪五二

又ウイリヤム氏の調査せる支那尺八十四種中其の數種を掲載して本邦尺に比較すれば左の如し(但し左記の中廣東尺は一千八百五十九年英清通商章程善後條約により恰も英國の十四吋一(我一尺一寸八分一厘四毛)に相當し税關の如きは皆此の尺によれり)

税關尺	十四吋〇九八	一尺一寸八分一六
裁縫店尺	自十四吋〇五 至十三吋八五	自一尺一寸七分〇八 至一尺一寸六分〇八
收税局用地尺	十三吋一八一	一尺一寸〇四八
大工尺	十一吋一四	九寸三三七
大工尺	十二吋三五	一尺〇三分五一
反物商用	十三吋七	一尺二寸四八二

天津

斗量 清國現行の量制は斗を本單位に採り、今尺三百六十立方寸を以て、一斗の容積とす、依て前記臺灣總督府檢定の尺度に基きて、彼我量制を比較すれば左の如し

一斗	我 零勺五七三
一合斗の百分の一	我 五勺七三一
一升斗の十分の一	我 五合七勺三一
一斗	我 五升七合三勺一
一斛(五斗)	我 二斗八升六合五勺
一石(二斛)	我 五斗七升三合一勺



然れども乾隆帝の制定せし嘉量一斗の容積は、今尺八十六、〇九三四四立方寸に、して、厘に我一升五合六勺一九七に當り其の一斛嘉量は十斗を以て一斛とすは我一斗五升六合一勺九七となり、實用の量制よりも著しく小量なり、又目下上海に於て用ふる所の枡は七升三升一升及び二合五勺の四種にして、其七升枡に容る、量は我三升九合四勺餘三升枡は我九合七勺一升枡は我五合二勺五二合五勺枡は我一合六勺に當る、今試に右四種の枡に對する一升を推算すれば

- 七升枡の一升 我 五合六勺二八五、
- 三升枡の一升 我 五合五勺六六六
- 一升枡の一升 我 五合二勺
- 二合五勺枡の一升 我 五合四勺

其の各枡の同一ならざること此の如し

又穀量の如き我邦の一石は、大約支那南部の二石五斗に當り、支那北部の一升は、大約三斤ありて、之れを南部に比すれば三倍の量あり、尙之れを我邦の枡に比すれば、頗る大にして、其の一升は我一升二合に當る、又四川地方は、大約四斤を以て一升となし、一石は四百斤位にて、之れを南滿に比すれば、凡四倍にして、其の一升

は我一升六合に相當する等、其の地方によりて、枡目に差異ある實に驚くべきものあり

權衡 其の秤量の稱呼は、黍、黍十黍、銖、十銖、兩、二十四銖、斤、十六兩、引、三斤、鈞、三十斤、擔、百斤、石、百二十斤の九種に分ち、又銀秤の稱呼には、兩、錢、分、厘等を用ふ、其の衡器は、凡そ三種に分ち、其皿ありて、鈞なきものを秤と云ひ、中央に横杆ありて、兩分には、皿あるものを天秤と云ふ、而して、英清條約に於ては、一擔を百三十三磅三分の一に相當するものと定め、現今海關に於て使用するものは、此の標準に據る、之れを我邦の衡に比せば左の如し

- 海關平一擔又は擔百斤 我 十六貫匁
- 同 一斤 (十六兩) 我 百六十匁
- 同 一兩 我 十匁

前記の如く一擔は百斤、一石は百二十斤とすべき規定なるも、各地方により、或は其の種類により、其の斤量に差異あること左の如し

- 廈門 一擔 赤砂糖を計る時 九十四斤
- 同 一擔 赤砂糖を計る時 九十五斤
- 同 一擔 赤砂糖を計る時 九十五斤



厦門	一擔	藍を計る時	百十斤
同	同	米を計る時	百四十斤
上海	同	米を賣買する時	百封度
福州	同	米を賣買する時	百八十斤
天津	同	豆を計る時	三百六十斤
同	一石	小麦を賣買する時	百六十斤
營口	同	米及豆を計る時(或は豆一石は三百斤三百二十斤)	九十一斤
營口	同	油を計る時	

又清國所定の權衡にして官平即ち庫平なるものあり、租稅漕米及び官業即ち鹽秤の如き等には皆之れを使用し、民間にては之れを曹平と稱す、此秤は所謂十足秤にして他の諸秤の標準となるべきものにて、庫平の一斤十六兩は我百五十八匁に相當す、又外國互市以來外人は清國秤の亂雜なるを以て、一秤を制して取引を始めたり、之を行秤又は洋例平と稱し、海關平の百五兩、曹平の百一兩五に相當するものなるが右の外各地方によりて種々の名稱區別あり、其營業の異なるに従ひて、用器を異にし、甚だしきは一地方にして、十數種を用ふるものありと云ふ

### 清國對外事情

東洋の多事は其の端緒スエズ、運河開通以後にあり、即ち全く對歐事件の繁頻、言を換ゆれば歐洲列強の壓迫にありとす、而して其最も多事なるは清國なり、とす、清國は日清戰役の結果により益、列強の壓迫を受くるに至りしと雖も、是より先き列強よりして種々の要求を受けたり、特に露國の如き其の界域相密還するを以て從來蒙古滿洲の境界に就きては屢、交渉事件ありたり、今諸外國との交渉事件を年代の順序に列擧すれば左の如し

- (1) 一六八七年露國と蒙古の境界上の締約をネルチンスクに結ぶ之れを「露清ネ、ルチンスク條約」と云ふ
- (2) 一七二七年再び露國と蒙古の境界を定む之れを「露清恰克圖條約」と云ふ
- (3) 一八四二年鴉片戰役の終局後英國と「英清南京條約」を結び此の條約によりて香港を割讓し天津牛莊芝罘九江漢口の五港を開く之れを清國に於ける外國貿易の端緒とす諸外國も亦清國と修好條約を結ぶ
- (4) 一八五一年露國とクルヂヤ條約を結び伊犁地方を露國に割讓せんとせしも清帝の批准なきを以て之れを止む



- (5) 一八五八年英佛聯合軍との戰役後南京條約を改訂して各條約國の權利を擴張すべき事を英佛兩國に誓ふ次で諸外國へも同様均霑權利を與ふるが爲め條約を改正す之れを天津條約と稱し今日まで諸外國と清國との關係は此の條約を基礎とせり
- (6) 一八五八年露清愛琿條約を結ぶ此の條約は露國が英佛聯合軍の北京進入の時調停の勞を採りし報酬として黒龍江の南烏蘇里江の東の地即ち浦蘆斯德を含める地を割讓したるものなり
- (7) 一八六〇年英清北京條約を締結し香港に對する英國の占領權を確認し又對岸の九龍をも貸與すべき事を豫約す
- (8) 一八七一年日本と修好通商條約を締結す
- (9) 一八八五年佛國との戰役後安南に於ける佛國の權利を承認し境界を劃定す之れを佛清媾和條約と云ふ
- (10) 一八九五年日清戰役後我國と媾和條約を結び台灣澎湖島及び遼東半島を割讓し蘇州杭州沙市重慶の四港を開くことを約す之れを馬關條約と云ふ
- (11) 一八九六年日清通商條約を結び之れによりて支那に於ける外人の權利を擴

張し列國も之れに均霑せらるにより天津條約と共に列國と清國との關係を可配する基礎たり

### 列國の對清經營

一八九五年日清戰役後は清國の眞價漸く歐米の間に明なるに至りしを以て列強の要求雨の如く清廷に集まり清國其煩に堪へざらんとす是れ獨逸が膠州灣租借を以て其の端緒とす即ち獨逸が膠州灣を占領したるを以て露國又旅順大連の貸與の許諾を強ひ英國は是に對して均勢を保つが爲め威海衛を借入し次で香港の防備の爲めに對岸九龍の地域を擴張し佛國も又廣州灣租借の許諾を得たり此等は列國が支那の領土に對して直接可配權を得たるものなり尙ほ此外に所謂各國勢力範圍の劃定あり即ち英國は揚子江流域に關し佛國は雲南廣東廣西の三省に關し日本は福建省に關し此等の地方を他國に割讓せざるの誓言を清國政府より得たり之れ勢力範圍の基礎と見做さるゝものなり露國の滿洲に於けると獨逸の山東省に於けるとは特に不割讓の誓言なしと雖も其の利益の關係より自ら勢力の範圍たり(以下は後節に詳かなり)斯く領土の借入勢力範圍の劃定と共に鐵道敷設權鑛山採掘權獲得も亦列國の競争する所たり領土



借入運動の一段落を告げたる後列國の特に熱中したるは鐵道敷設權の獲得なりき、英露の間には鐵道敷設及び其管理權に關して紛議を生じたりしが遂に英は長城以北に於て露の經營を防げず、露は揚子江流域に於て英の經營を防げざるの約を結びて(千八百九十九年四月)一時協和を遂げたり、英露協商なるものは是れなり、露國は益滿洲の經營に従ひ千八百九十九年三月には露清協同して其事に當ることを約し、滿洲、蒙古、西藏、新疆の各地に於て露國の經營及び自由行動を許せり、然るに千九百年米國の提議により清國の門戸を開放して世界共同の貿易場となさんとす、列國皆之れに賛せり、偶義和團の動亂に際し各國聯合軍を作りて在北京各國公使及び居留民を救ふ、獨り露國は滿洲の動亂鎮定を名として大兵を滿洲に送りて此地を永久に占領せんとす、然るに千九百二年以來は各國皆な清朝を倒すの不利なるを知り、支那保全の議は殆ど世の公論となれり、之を主張したるものは英國にして、日米之れに次ぐ、露は獨り尙ほ依然として滿洲を占領せり、此に於て各國露國に迫りて撤兵を求む、然るに露國は既に撤兵期(千九百二年十月)を過ぐるも尙ほ應ぜず、却て益大兵を滿洲に増遣す、日露の交渉、茲に初まり、千九百四年二月六日、日露外交斷絶して、今や露國は我軍の膺懲を受け

つ、あり

露國 千八百九十五年日清戦争の後、極東の面目に一大激變を與へたり、露國は獨佛と共に遼東遼南に周旋し、又償金支拂の爲め清國の要したる公債を保證せし其の報酬として、先づ西伯利鐵道短縮のため滿洲を通過するの許諾を得、又露清銀行の設立によりて、財政上支那を支配するの地を造れり、滿洲鐵道起工式を擧げたるは實に千八百九十七年(明治三十年)六月なりき、尋で千八百九十八年一月十一日、獨逸の膠州灣貸讓の許諾を得るや、露國は此機に乗じ、清國に迫りて旅順口及び大連灣の租借を要求せり、清廷之れを許諾し、同年三月二十三日を以て露清條約を締結したり、其の要項を擧ぐれば左の如し

- 一 露國は清國より旅順口及び大連灣を借入る事
- 一 借地區域は遼東角より北へ支那里數百五六十里、東西七八十里なるべき事
- 一 借地期限は向二十五年間とす
- 一 清國軍艦及び商船は借地區域内の港灣に出入する自由を有すること、猶ほ膠州灣に於けると同一なるべき事
- 一 露國は大連灣の一部を開きて貿易場となすべき事



- 一 旅順口は露清兩國の船舶に限り、出入を許す事
  - 一 伯都納より奉天府を経て旅順口に鐵道を敷設し、其の管理は一切露國人に任せ、其の線路は露國式を用ふる事
  - 一 露國は新に得たる借地區域の境界より、遼東の西方海岸に鐵道支線を敷設するの自由を有する事
  - 一 前記支線開通に至らば、其の終點たる海岸は旅順口及び大連灣と共に露國に貨讓せらるべき事
- 英國 日清戰爭後佛は遼東遼附の報酬として、東京境界を改正し、其の領域を擴張するや、南清に於ける英國の利益に影からざる影響を及ぼしたり、此に於て英國は遂に默視する能はず、千八百九十七年六月清國と左の條を締結せり
- 一 英國は、ナムワン、河南方の土地を承認して支那領となすを約す、而して英國は清國より永代借地權を得て左の地方を管轄す
  - 一 支那は「コーカン」の地約四百方哩を英國に讓與す
  - 一 縮甸支那間の商路は舊條約に特定せられたる「マイツイン」及び「タンシ」の外貿易を増進するに利ありと認めらるゝものを總て許可すべし

一 支那は雲南鐵道敷設の必要を調査し、敷設の際は緬甸鐵道との連結を通ずるに同意す

一 英國政府は思茅及びモメーン若しくはスンニン府に領事館を置くことを得、英國臣民は他の開港場に於けると同じく、前記諸地に住居を定め商業を營むを得

一 西江を開放して、蒸汽船の航行を許し、梧州を以て貿易場に充つ當時に於ける英國の對清政策を按ずるに、畢竟支那を廣く世界の爲めに開放し、專有市場のあることを許さざることを、之れが爲めに其の領土を保全し、分割を防遏すること及び他國が支那より利益を取得するに於ては、英國も同様の利益を要求することの三點に歸着せるが如し、故に千八百九十七年二月締結せられたる英清の約定は、此の政策の一端を實現したり、其の約定は左の如し

- 一 支那内地の水路は來る六月より英國並に列國の船舶の往來に開放すべし、故に今回の條約により、從來内國人の船舶を使用せし者も、向後は船舶の有主は内地人にあれ、外國人にあれ、勝手に使用往來することを得る事
- 一 揚子江沿岸の地を支那帝國の版圖として保存する事は、大英國に取りて順



る重要な事なるに因り、支那政府は英國政府に誓ふに、揚子江沿岸の地方は向後何れの邦國にも抵當借地若くは讓與等をなさざる事を以てせり

一海關稅總務司の職掌は、向後も是れ迄通り英國の商業にして、支那の諸開港場に於て、他の邦國の首位にある間は、英國臣民の一人を以て、必ず其任に充つべき事

一向後二年間に湖南省中に一の開港場を開設すべき事

此によりて英國の勢力範圍の劃定せられたるなり、且最後の一條により清國は間もなく湖南の岳州を指定して、英國公使に通牒したり、更に又福甯、秦皇島及び吳淞の開市を各國に通知せり、然るに千八百九十八年三月二十七日旅順大連借入に關する露清條約の成るや、是れ當に極東の均勢を破壊したるものにして、英國の對清政策たる領土保全支那開放は望むべからざるに至るべし、されば英國は露國の極東均勢の破壊を默視する能はずとなし、旅順口に對抗して威海衛の領有を要求し、同年四月三日清國より其の許諾を得たり、其の要項は左の如し

一英國は其の海軍の貯炭所として、威海衛を借受くる事

一威海衛借受期限は、日本軍の撤退後より、向二十五年間たるべし

一借地區域は日本軍の占領區域と同じかるべし、即ち劉公島及び威海衛の全沿岸より日本數五里なり

次で佛國も又均勢恢復を名として、廣州灣を借入れたり、こは南清に於ける英國の利害に影響を及ぼす者なるが故に、英國は更に清廷に要求して、北京條約により英國に讓與せられたる九龍の地域擴張の許諾を得たり、是れ威海衛貸讓後歴に十一日の間なりき

佛國 千八百九十五年日清戰爭の後、遼東還附に關する干涉の報酬として有形的讓與を支那より得たるは、佛蘭西を以て最初となす、千八百九十五年七月の清佛北京條約に於て、領土及び利益の讓與を得たり、其の要項左の如し

- 一東京境界を改正して、支那よりキアン、フンの東部を佛蘭西に讓與する事
- 一佛蘭西の貿易の爲めに思茅河口を開市する事
- 一東京鐵道を龍州に延長する事
- 一廣東、廣西、雲南に於ける礦山を開掘するに付きて、佛蘭西人は先優權を得べき事

是れ英國の南清に於ける利益に大關係あるを以て、英國は更に佛蘭西の利益に



對抗する利益を得たることは前節既に之を述べたり、而して佛蘭西は更に英國に超越すべき利益を占むるの機會を待てり、偶、膠州灣事件の起りし以來獨、露、英各領土を借入れたり、此に於て佛國又均勢恢復を名として、廣州灣借入の許諾を得たり、是れ實に千八百九十八年四月七日なりき、其の要項を上ぐれば左の如し

- 一 清國は雷州の東岸なる廣州灣を佛國に貸與して、貯炭所に用ゐしむる事
- 一 貸與期限は向二十五年間とし、必要に應じ兩國協議の上、更に期限を伸縮することあるべし

一 清國は揚子江以南の地、特に廣東、廣西、雲南の三省の如何なる部分をも、他國に割讓せざることを誓約す

一 東京鐵道を雲南府まで延長する權利を承認する事

一 前記鐵道線路に沿へる諸礦山開掘權を佛蘭西の獨占に歸せしむる事

一 清國內地の郵便事務を海關より分離し、其の長官には佛人を用ふる事

是れ實に南清に於ける佛蘭西の經營は此に至りて百尺竿頭番に一步を進めたるのみにあらざるなり

● 獨逸は近年に至りて、漸く東方經營に着目し、千八百九十七年清民の獨逸

の宣教師を殺害したるに對して、満足を求むるを口實として、獨逸艦隊は先づ膠州灣を占領し、海兵六百名を上陸せしめて支那の守備兵を追ひ、獨逸公使は直ちに清廷に向て、談判を開始せり、清廷は遂に被害宣教師遺族扶助料一萬兩以内及び會堂建築費二十萬兩以内を支辨することを承諾し、遂に將來の保證を口實として、要求せられたる膠州灣の借入をも承諾するに至れり、是れ實に清國版圖に於ける列強の土地租借の濫觴とす之れを千八百九十八年一月十九日の事とす、其の要項を擧ぐれば左の如し

一 膠州灣は向九十九年を期限として、獨逸に貸與する事

一 清國政府は兩國の衝突を避けんが爲め、借地期限間は、讓與地に關する一切の主權を獨逸政府に交附すべし

一 讓與區域は高水準時の膠州灣底の全體、灣口の南北に相對せる大地角の山脈により、自然に界限せらるまでの土地にして、灣の内外にある諸島嶼を含む

一 獨逸政府は其の讓與區域に於て、總て必要なる建物を築造し、又其の他方を防禦するため、所要の方法を企畫するの自由を有す



一他日膠州灣にして、獨逸最初の目的に適せざることを發見せらるゝ、あらば、兩國は更に協議して、一層適當なる地點を獨逸へ交附することを定むべく、其の場合には膠州灣に築造せられたる一切の建物其他の物件を買収し、又獨逸が特に投入したる資金を償還すべし

一膠州灣より濟南府に至る鐵道布設權は獨逸人に與へらるべし

一鐵道線路の兩側三浬以内の礦山開掘權は獨逸人に與へらるべし

以上述ぶる所により極東に於ける列國の均勢は恢復せられたりと雖も、日本に取つての均勢は益、傾倒せられたるなり

●日本は戰勝の結果、左の二項を約せり

一奉天省の南部の地及び臺灣澎湖全島を割與する事

一軍費賠償金として庫平銀二億兩を支拂ふ事

一日本人のために杭州、沙市、重慶、蘇州の四港を開く事

其後露獨佛の三國の忠言により、遼東半島を還附し、其の代償として金三千萬兩を出さしむ、此外勢力範圍としては千八百九十七年四月二十七日福建省を他國に割讓せざる事を約せしむ

### 地方誌

#### 直隸省

直隸省は現時支那中央政府のある所にして清國政治上の中樞たり、其の位置支那本部の東北部を占め、面積九千九百七方里約三十萬方浬あり、人口一千七百萬九十三萬あり、東は渤海に瀕し南は山東及び河南の兩省に境し、西は山西省に接す北は長城外に於て內蒙古に接し又山海關に於て滿洲に境す

省内大小の河川七十餘流ありと雖も皆な淺く只白河、灤川及び運河のみ舟楫を通じ得べし、故に交通は南方の如く水路に頼るを得ず多くは陸路に依る

●氣候は內陸性を帯び頗る不良にして夏季は暑氣強く、冬季は甚だ凜冽なり此地往昔は燕の地にして慷慨悲歌の徒多かりしが今や風俗落窶亦昔日の觀なし●產物は高粱、豆、鐵等にして北部には石炭多く就中開平炭坑最も有名なり首都は保定府にして直隸總督此地に駐紮し十一府六州を管す

●北京は現朝の首府にして本省の殆ど中央にあり、其の位置東經一一六度二分北緯三九度五七分にあり、堯帝の代に幽都と稱し後幽州となり燕國の首都なりしを以て燕京と云ひ、其後涿郡、廣陽、范陽等と稱したることあり、遼の北邊に侵



入するや南京折津府と稱し金も亦遷都して中都と改め宋の時燕山府と云ひ元には燕京路又は大都路と稱す此時彼の有名なるベネチアの旅行家マルコポーロの來り此地の事を歐洲に傳へしを以て歐洲にてはカンパルクとして知られたり明の時北平府と云ひ永樂年間都をこゝに遷して順天府と稱し又北京と稱す清に至り都を此地に建て明朝の稱に従ひ順天府と云ひ一に北京とも云ふ此地海岸を距る百八十軒海拔三十七米あり

府は城廓を以て繞らし内城外城の二部に分つ内城は北部にして其の南部に接するを外城とす内城は正方形にして毎邊五軒にして高さ十米幅十三米の城壁を以て圍まる四方に二城門あり東方に朝陽門或は齊化門と云ひ北清事變に我兵綿火藥を以て破壊し突入せし門其の北隣に東直門あり北方に安正門東得勝門西あり西方に西直門北阜成門平則門あり南方に三門あり中央を正陽門前門と云ふ此門によりて外城に通ず西に宣武門順治門東側に崇文門哈達門あり内城は明の永樂十九年築く所にして城内を八旗に區分し旗人(滿洲軍人)を居住せしむ故に韃靼街の名あり内閣以下の諸官衙及び各國公使館等皆な内城にあり内城は元旗人のみ居住せしが今は漢人雜居せり街衢正しく各門内は各一條

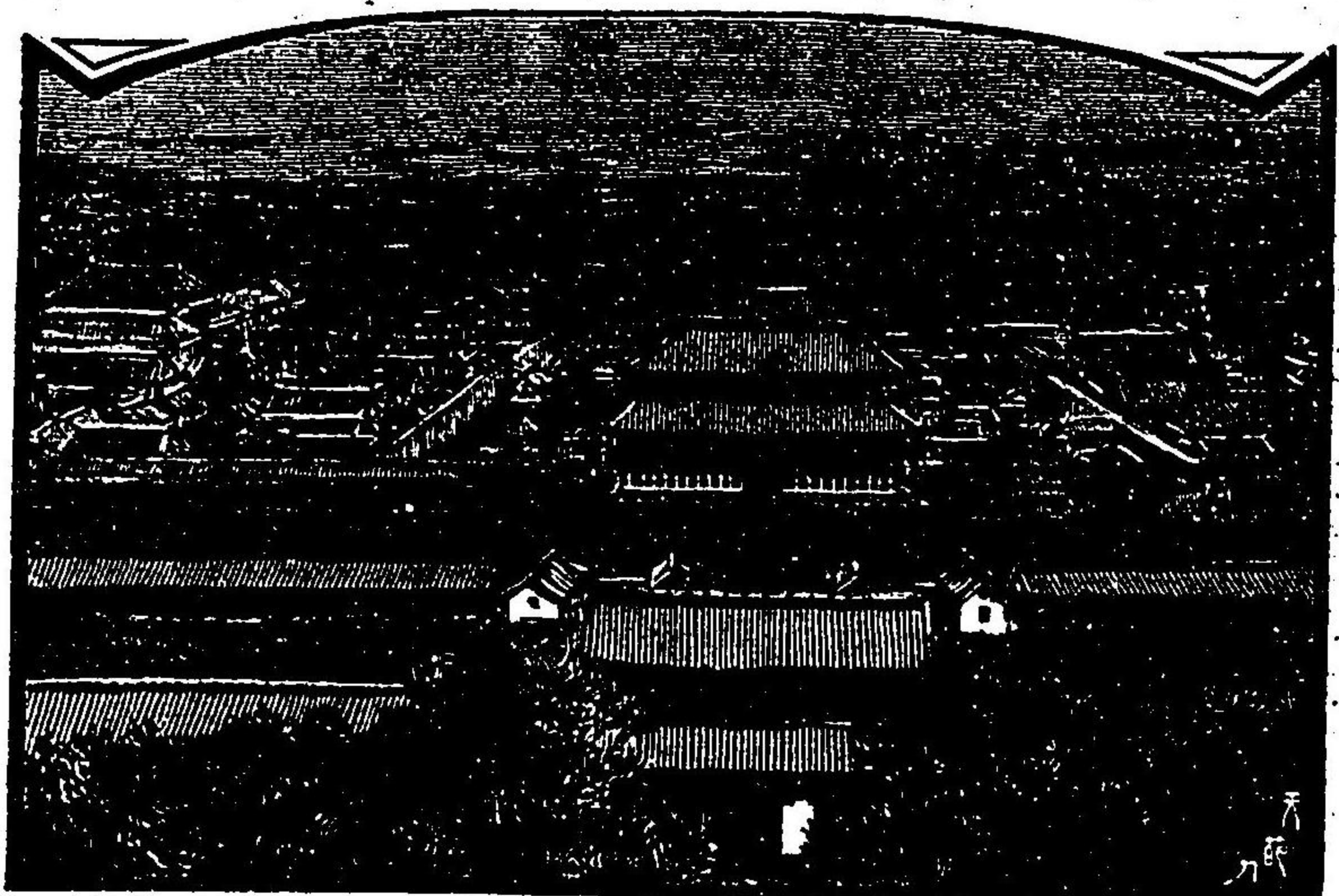
- (1) Khambalik
- (2) Peking

の街衢あり之れを大街と云ふ東雙牌樓西雙牌樓の二街最も廣く單牌樓街之れに次ぐ大街より左右に通ずるを衚衕と云ふ大街は總て商舖にして家屋輒を以て造れども大厦高屋なく且つ道路廢壞して雨水瀦して池をなし街中の池に游泳し或は溺死する者等あり車馬雜沓の狀は旅客の驚く所なり

外城は内城の南に接し正陽門大街によりて相連る其の形長方形にして東西に長し内城と同じく四方に城門を設く南方に三門あり中央を永定門右を右安門左を左安門とす永定門は北京府の出入口にして鐵道は此の門内に達せり東方に廣渠東便の二門あり西方に廣寧西便の二門あり北は内城との間なる正陽門より直に永定門に通ずるものにして之れを正陽門大街と云ふ外城は明の嘉靖中増築する所とす外城内は我東京の下タ町と稱すべき部にして商舖軒を並べ熱鬧雜沓の區なり特に琉璃廠の一廓の如きは最も雜沓す

皇城は内城の中央にありて又別に一廓をなす其の城壁は輒を以て之れを磬み赤色に塗抹す城廓は正方形にして毎邊一軒餘あり四面に城門あり南門は即ち正門にして之れを天安門と云ふ繞らすに溝渠を以てし之れに五個の大理石橋を駢架す東方に東安門西方に西安門北方に地安門あり皇城の南隅に南華園





北 京 紫 禁 城

あり、西華門の西に西苑あり、苑中に大液池あり、又北に景山あり、山形五峰をなし、高百五十尺、各峰の頂上に小亭を設け、登臨の便に供す、之れを北京第一の勝とす、此等は皆な禁苑たり。

皇城の内更に一廓をなせるは即ち紫禁城にして、是れ國帝の宮殿のある所なり、紫禁城の壁は方形にして、南北の長六町餘、東西八町餘あり、城壁は赤瓦を以て之れを覆ふ、四面に門あり、南方は正門にして午門と云ひ、東方を東華門、西方を西華門、北方を神武門と云ふ、紫禁城内の内容は余明治三十四年夏、拜觀の榮を得たるを以て其の拜觀記の一節を記すべし。

### 北京の紫禁城

余は北京皇城の祕密宮を仔細に拜觀せんが爲め、兩回まで紫禁城の拜觀を遂げたり、一は八月の第四月曜日、次は九月の第一金曜日、に凡そ拜觀者は午門即ち南大門より入るを例とす、此門を守備する米國兵に拜觀券を示して入るなり、此午門は皇城の正門にして、其の壯大なること比類なし、廣さ各九間ある門闕三つあり、其左右に又各一掖門あるを以て都合五門闕あり、故に或は五鳳樓と云ふ、中央の門闕は天子の駕の出入する所にして、左闕は文武百官、右闕は王公宗室の出入する所なり、門上には重樓を置き、鐘鼓を備ふ、駕出づる時は鐘を鳴らし、太廟を祭らる、時は鼓を撃ち、百官參朝の時は鐘鼓共に鳴らすと云ふ、門を入り、大理石を敷ける道を進めば、内金水橋と稱する、總て大理石を以て造れる、五個の大橋相駢びて架せり、其の橋板大理石にある、龍及び波の彫刻の如きは實に精巧を極めたり、橋を渡りて太和門あり、門を出づれば廣庭に出づ、前面遙に太和殿あり、百官の拜賀を受け、或は百官に位階を授けらる時は、此殿に御せらる、と云ふ、前面の廣庭には大理石道を中央とし、左右には品級山なるものあり、即ち正一品從三品等と彫せる銅製の標を建てたり、是れ位階に應じて百官の拜賀すべき座班なり。



と右を文官とし左を武官の班とす試に正一品の班より太和殿を望むに玉座までは凡そ二百間もあるべきか薄暗き殿中の人影の有無も定かならず太和殿は陛を昇ること十一丈の高さにありて廣さ十一間縦五間あり檐重りて脊は四方に垂れたり其の建築寺院に異ならず前後には金屏四十、金鎖窓十六あり中央に御座あり陛の間には鼎十八、銅龜二、銅鶴二、日圭、嘉量等の寶器を置けり殿の正面に乾隆御筆と署せる「建極綏猷」の大額を掲ぐ風露殿中を荒らして勅額既に破れ殿中の絨氈塵埃積むこと寸許、廣庭の品級山は人肩を没する雜草に埋まり荒野の古墳を見るの感あり、昨夏の變に逃げ後れたる宦官等今尙ほ宮中に在るもの四百名、拜觀者を見れば憔悴として尾し來り憐を乞ふ狀、喪家の狗に異ならず憐れとも亦哀れなる哉、其の動作婦女に異ならず容貌亦變性女子の如し、太和殿を出れば中和殿あり正面に乾隆御筆の「允執厥中」の額を掲ぐ、此殿は祭日に祝詞を視玉ひ耕籍に五穀農具を視玉ふ所と云ふ、中和殿の後に保和殿あり、正面には例の乾隆御筆の「皇建有極」の額あり、此殿は毎歲除夜に外藩の使節を饗せらる、所と云ふ、後に乾清門あり、乾清門を入れば乾清宮あり、順治御筆と署し「正大光明」の額を掲ぐ、此宮は親王に宴を給ひ大官を引見せらる、所と云ふ、又康熙

帝の時千叟宴として破格を以て國內の六十歳以上の老人を饗せられし有名の宴も、此宮に開かれたりと云ふ、盛徳仁政の餘香今見るべきなし、只目を惹きしは精密なる大天球儀と凡千を以て數ふべき蒙古語の高宗實傳と長三尺幅一尺八寸の瑪瑙ありしことなり、又宮前には金盤の口徑六尺高四尺なるもの一對及び金獅子の高さ六尺あるもの一對あり、曾て無垢金とて有名なりしが今見るに其實は鍍金なりき

乾清宮の後に交泰宮あり、此宮は最も大切なる宮にして日本人にあらざれば入るを許さずと入れば金銀珠玉目を奪ふ迄に饒め是迄拜觀せる各宮殿の内に入りては最も美麗なり、或人は日光の東照廟と如何と云へり、宮中には御用寶璽二十五を奉藏す、即ち天子の御印璽なり、皆高さ各五尺許りなる見事の臺に載せ帛を以て之れを覆ふ、二十五璽の一例は「大清受命之寶以章皇序」と刻す、臺玉にして方四寸四分厚八分、交龍の紐高さ一寸七分あり、御座の右には洋風時計の高さ一寸なるあり、左には所謂水漏あり、其の製造頗る奇なりし、交泰宮を出づれば坤寧宮あり、是れ慈禧皇太后(西太后)の便殿なりしと云ふ、正面には西太后御筆の額幾個か懸け連ね、右方は御居室にして廣やかなる椅子の左



右には許多の珍奇なる重寶を列ねたるが中にも珊瑚琥珀、玉、ルビー、翡翠等の寶石を以て造られたる菊、柘榴等の盆栽、獨逸製の花瓶、象牙製の人形等は別けて結構なりし、只其製作は頗る幼稚にて美術園に生れたる余等の目には美麗なれども生氣なき心地せられたり、正殿の左方は御寢殿にして支那風の床に白絹の厚き褥を布き長三尺にも餘る枕あり、壁間に極々の悪書一幅掛れり、怪みて諦視すれば奴才連英敬書と署せり、是れ太後の嬖臣との噂高く、當時西安朝廷に於て怪腕を奮ひつゝありとの説ある、李連英の書なり、坤寧宮の左右に東暖殿及び西暖殿あり、冬時寒を凌がる、殿なるべし、坤寧門を出づれば一壁の長く互るあり、門あり、順貞門と云ふ門を入れれば御花園なり、種々の花卉樹木を植ゑ奇石、怪巖諸所に蹲まれり、藤の棚塗るに朱漆を以てす、頗る結構を極めたれども、雜草深く茂りて陰濕特に甚だし例の宦官等頻りに尾して茶を勧め、喫烟を勧め、五月蠅きこと限りなし。

御花園の瓊園門を出でて西一長街を南に進み右に折るれば養心殿あり、是れぞ痛ましき光緒皇帝及皇后宮の便殿とぞ聞えし、謹んで殿内に入れば正面には乾隆御筆の「人君たる鑑」を記し玉へる大字の大幅壁間に掛けられたり、其前に御座

を置き左右に青玉の香爐、孔雀の長羽團扇を立つ、總て是れ唐畫に於て見る宮殿其儘なり、其右は皇帝の便殿にして一方に御寢床あり、青絹の褥あり、周邊には金銀製の置時計、幾十個、洋風の安樂椅子、寢椅子、錦繡の頗る美麗精巧なる掛物、又使臣が外國にさせる土産に獻せしにやあらん、歐洲製の花瓶、大小數個となく列れり、中に日本九谷焼の花瓶一對をも見受けたり、是より暗黒にして足元見えざる廊下を過ぎれば、狹隘なる幽暗の一室あり、是れ皇帝の御書齋なりと云ふ、乾隆御筆にて三希堂と書されたり、又壁間には皇帝御筆の畫二三個掛けられたり、是を罷りて正殿に返り、左手の一殿は皇后宮の便殿なりと、流石に御女性丈けに拜觀する物盡く優婉華麗の御品なれど、其製作は幼稚なるを免れず、御寢床は緋絹に金紋ある薄絹にて作られ、長さ三尺餘の御枕二個を並べたり、傍に二個の便器を供ふ御座の近りには玩弄様の器具、幾個か列べられたり、余は前に書することをお忘れたる一事あり、即ち皇帝便殿に大地球儀と上海益智書會發行の見事なる世界全圖の大幅ありしことと、皇后宮便殿に「ピアノ」二臺を供へありしことなり、養心殿の拜觀を了りて天子の御經筵なる有名の文華殿、傳心殿等數個の大宮殿を見たれども、之れを畧す、又西方に當りて幾十個の宮殿を見得しが、是れは女官の



住む所にして今尙ほ百餘の女官あれば拜觀を許さずと云ふ、遂に北門なる神武門此門には我兵の嚴然として守備するあり此所を出でて拜觀を了れり莊殿は則ち莊嚴宏大は則ち宏大なれども其の建築幾多の寺院を集めたるが如し屋根には飴色瓦を被ひ内飾は祭日の山鉾の如し總て一時的のものにして永久を期せしものにあらず其の最盛時は乾隆帝の時なりしなるべく其後絶えて修繕を加へず風の荒らすまゝ、雨露の漏るまゝ、雜草の茂るまゝに任せたるを以て一見其の荒廢に驚かざるを得ず試に昨變亂後荒廢せしやを問へば幾十年來斯くの如しと云ふ、甃石間の灌木決して一年生の物にあらず殿内の鳩糞積んで寸餘是れ又昨夏來のものならず嗟乎是れ果して何等の兆ぞや拜觀記了抑支那北部の人は發明の性質に乏しきを以て北京に於ては有名なる製造物なく、日用の諸品を除くの外大抵は他の諸省より輸入するを常とす其の氣候は暑氣烈しく冬は河水堅氷を結んで解けず、且春秋溫和の時候短し、北京は沙地にして天風屢起るを以て紅塵萬丈をなす然れども濕地多き南方諸省に比すれば、瘧疾病等少なく只肺病に罹るもの間々是れあるのみ

北京近郊に於ける著名の名所舊蹟を擧ぐれば北京の西北三里に萬壽山あり是

れ清廷離宮のある所にして彼の有名なる圓明苑の荒廢後經營せし所に係り北京近郊第一の名勝なり苑は萬壽山の丘陵に據り昆明湖に臨み佛光閣の高厦隆として水に映じ苑内の設備甚だ壯大なり此苑は西太皇の好んで臨遊せられたりして北清事變に頗る破壊せられたり、次に永定門を去る南方三里の處に南苑あり此地森林鬱葱として綠翠深く田畝よく開け最も幽境の所なり、昌平州の西四里に居庸關あり兩山徑を夾みて一水傍を流れ懸崖峭壁古來京師の要險なり涿州の西南二里に樓桑村あり蜀漢の照烈帝の生地なり涿州の東南に督亢陵あり古荆軻の地圖を請ひて秦に入りし地なり

保定府は直隸省の首府にして府城は北京を距ること西南六十里清苑縣にあり北京より山西河南に通する要路に當り京漢鐵道又此地を過ぐ市街頗る繁盛にして百貨輻輳商賈の往來頻繁なり直隸總督此處に駐在す氷解の季節は天津に駐在す近時師範學堂を設けて府下の教員を養成せり易水は北京保定の間を流れて遂に白河に入る、燕丹が荆軻に別れし所とす此地別燕丹壯士髮衝冠昔時人已没今日水猶寒

天津府は北京を距る二十九里太沽海口を距る十四里半なる南北兩運河及び永定河の三水會合する所の左岸にあり北緯三十九度十分五十五秒東經百十七



度十三分五十五秒に位す、人口六十萬あり保定、大名、德州等の大市場を控へ水陸、要衝の地に當るを以て、其の貿易の盛なる漢口の次にありとす。此地平坦開闊なる曠野にして、四周一の山陵を見ず、唯、衛河、西より來り北河、北より下り合して白河となり、蕩々として海に向て流る、を見るのみ、府の周圍は元と三哩の城壁を繕らせしが、北清事變の時各國之を破壊せしめたり之を環る市街は城の内外にありて、商屋櫛比熱鬧雜沓商業甚だ繁盛にして殊に北東二門外を然りとす。但城内は道路狹窄甚だ不潔を極む、天津機器局、海光寺機器局あり盛に軍器を製造修繕す、城内に大倉庫ありて新造の武器を貯蓄す、此地直隸總督毎年白河水解の候に至れば保定府を出で居を茲に定め内外百般の事務を視るを以て獨り貿易上の要地たるのみならず、又對外交治上の樞區たり、此地支那北部の要地に當り陝西、甘肅、山西及び長城外の地方に運輸する貨物は皆な馬車を以てし、水路には運河民船の便あり、白河には汽船の利あり、以て芝罘、上海及び朝鮮、日本に往復す然れども水淺く幅狭く大船巨舶を入港すること能はず、而して年々十二月初旬より結氷し船舶の交通を絶ち貨物は小舟又は橇車に載せ氷上を滑らして本港に達す或は氷の未だ堅固ならざる間は之れを破りて太沽に陸揚し該處より更に

汽車の便を取る、其の翌年二月若しくは三月初旬に至り氷解るや汽船先を争うて來り、急に天津の風雲を一變す。居留地は白河の南岸殆ど一哩を距つる紫竹林にあり、外人は概ね英佛二國の居留地に住す、本邦領事館及び郵便局あり、日本の商店は三井物産會社支店、樂元堂、武齊號の三店にして、三井店は茶、昆布、材木等を卸賣し、樂元堂は日本綿布類及び藥を、武齊號は雜貨を販賣す、其他日本人の散髮洗衣等に從事するものあり。天津の風俗は頗る不良にして狡黠なる上に稍、慍悍の氣を帶ぶ、又無賴の徒頗る多し、郊外の地に至れば人民淳良質朴にして阿片を喫するが如きもの甚だ稀なり。物産は鹽を第一とす、天津は千八百五十八年六月二十六日英人ロード、エルデン氏の清政府と訂結せる所謂天津條約によりて開かれたる港なり。太沽は白河の河口に近く天津を距ること鐵路二十七哩の所にあり、北京の門戸に當るを以て砲臺を設け兵備を嚴にす、支那人は常に之れを東西に分ち砲臺附近の村落を東太沽、又其西にある本村を西太沽と稱す、嘗て團匪の亂に北京の形勢危急に陥るや列國軍艦を太沽沖に集合して陸戰隊を上陸せしめて、北京に向はしめ砲臺は列國軍の占領する所となれり、現時尙は軍事上の一要所なり。鐵



道は是より稍上流の左岸なる塘沽より生まれり人家稍集密し日本郵便局の設あり

河間府 北京を距ること南六十里の地にありて一州十縣を領す滹沱河と高河との間にあるを以て山東省に通ずる國道は此地を過ぐ且水路の要衝に當るを以て旅客運搬の往來絶ゆることなく民勤儉にして耕耘を務む其の物産は布棉花等とす桂巖は幽縣の内にあり傳へ言ふ河間獻王の讀書の所なりと

正定府 北京の西南九十里にありて治下縣州各一あり西方に太行山脈の險を控へ河北の要を絶ち京漢鐵道此地を過ぐ風俗剛にして勇を好む土地廣潤にして民物頗る蕃衍す其物産は粟棗とす汝水の獲鹿縣の西南に井經口あり往昔韓信が險を涉りし所なり箕山は行唐縣の西北にあり許由の隠れし所とす

順德府 は本省の南端に位し九縣を管轄す河北の襟要にして河東の藩屏なり河南に通ずる國道此地を過ぎ京漢鐵道亦之れに沿うて通ず風俗質素にして専ら稼穡を務む

承德府 北京の東北七十里灤河の上流に位し一に熱河と稱す北は大陰山脈連互し七老圖山は府の東境をなし南西には燕山山脈を控へ形勢の雄塞北に冠

たり此地古山戎東胡の地にして漢初匈奴の地となり其後烏桓鮮卑の占有する所となりしが清朝に至りて熱河廳を設け雍正十一年承德州と改め次に府となせり咸豐十年英佛同盟軍の北京に迫りし時清帝避難の地たるを以て其名最も著る風俗醜壞今に至るも甚だ美ならず

永平府 治下縣六州一あり城内灤河の瀆流する所にして西北に山を負ひ東南海に濱し頗る險要の地なり濱海一帶に鹽田を有し産鹽頗る多し風俗淳良にして浮華を尙ばず民勤儉にして農業を務む府は北京の東九十里にあり山海關及び秦皇島は境内の要所なり山海關は撫寧縣の東界にあり所謂臨榆の地にして長城其北に連り南は海に臨み其間僅に數町即ち關を設けて滿洲の咽喉を扼す關門には榜して『天下第一關』と云ふ榆津鐵道は此地に終りて關外鐵道に連る北清事變後我兵の久しく駐屯せし所なり現時日本郵便局の設ありて我邦人の在留するもの數多あり近傍に二郎廟の勝地あり秦皇島は山海關の東四哩の處に位し開平唐山の石炭輸出のために開かれたる開港場なり西南は渤海灣に面し東北は半島海中に突出し其高さ凡五六十呎にして全丘古生界の巖石より成れり是れ即ち秦皇島にして往昔秦始皇の東巡して登臨せし島なりと云



ふ港は弓形に渤海の水を擁して一小灣を形くれり冬期も氷結することなく且海深きを以て岸に近く船を寄することを得現在港の左方殆ど一哩の突堤を作り榆津鐵道の楊河驛より此突堤上に鐵道を布設し直ちに船舶の積荷を上下することを得されど港形宜しからざるため天候悪しき日は積荷すること能はず唐山は開平を去ること數哩の所に位する小村落にして石炭に富めるを以て名あり普通開平炭と稱するものは唐山附近に採掘する處のものにして毎日大凡三千噸を採掘し此内凡一千噸は天津及び塘沽に送り二千噸は秦皇島に輸送すといふ唐山には開平礦務局に屬する鐵工場鐵道器具製作所煉瓦製造所等あり大名府は商の舊都にして明朝之れを大名府とし清は之れに因る北京の南百六十六里にありて一州六縣を領す直隸省中最南の位置にあり古來史上の事蹟少なからず俗禮を重んじ亦力を農耕に力む馬陵道は府東にあり戰國の時龐涓樹下に死せし所なりとす

宣化府 北京の西北五十里にあり地北邊に密邇して塞外の咽喉たり風俗素朴にして勤儉雅を好む北京より蒙古及西伯利に通ずる要所に當りて張家口あり關門を設け往來を警察し通商の貨物に課税す從來塞外地方との通商地にして

其の交易品は南清地方の磚茶を主とし送り出し蒙古地方の駱駝羊毛獸皮等を入る

尙は本省の管下に屬する易州遵化冀州趙州定州深州あれども今之れを畧す

### 山東省

山東省は古の齊及び魯の故地なり西は直隸省に接し東は山東半島海中に突出し北は渤海及び黃海に濱して遼東半島に對す全省の面積約十四萬五千方杆人口凡三千六百二十五萬域内の水利唯運河と黃河の貫するあるのみ半島の地勢は古代の岩石性の山地にして礫山に富めりといふ五岳の一なる泰山は其の西端にあり氣候は順良にして身體に適すといへども物産は裕ならず唯繭綢は最も名あり二州十府を領す

濟南府 は山東省の首府にして山東巡撫此處に駐紮す北京を距ること南百五十里の處にありて南清より北京に至る大路に當り又山東鐵道は青島より膠州灣を経て此地に達するを以て内外の物貨悉く此地に集まり實に盛況を呈す附近多く繭絲綿を産し民半は機械に業に従事す近時師範學堂を設け本邦人を聘して専ら新學問を獎勵しつゝあり歴山は府の南五里にあり即ち舜の耕せし所



とす。歷城縣は古齊の管下にして韓信、齊軍を此に襲ひたり。  
 泰安府は濟南府の南三十里の地にありて一州九縣を領す。府北に泰山あり、五岳の一にして東岳又岱山と稱す。此山屈曲磬道ありて絶頂に至る高さ六里三峰あり、名けて日觀、泰觀、越觀といふ。古帝王の封禪を以て著はる。此府附近土地發育の速なる所なることは天然地理の都に説けり。  
 袁州府は泰安府の南にありて南北兩清の通路に當る。府下曲阜縣に宜聖廟ありて孔子を祀る。即ち孔子闕里の古地なりとす。其他孔子に關する古蹟頗る多し。

沂州府は本省の南端沂水流域の地を占め、府城は北京に通ずる大道に當るを以て頗る要害の位置にあり。山東鐵道此府を通じ、益、重要な地となれり。艾山は府西にあり、魯の隱公、齊公と會せし所とす。  
 東昌府は濟南府の西、黄河の北岸一帯の地を占め、九縣一州を管す。衛河は源を河南省衛輝府に發して東北に流れ、府西館陶縣を経て臨清に至り、會通河と合す。漢代之れを屯氏河と名け、隋疏して永濟渠となしたり。  
 青州府は濟南府の東にありて古太公望の封せられたる地なり。府城は山東鐵

(1) Kiau-tschou

道の線路に當り、府内に産する黃絲は悉く此地に集る。博山は有名なる炭産地に於て諸城、長山は産繭の額大なるを以て著はる。

萊州府は青州府の東に隣り、治下五縣二州を管す。沙河は府城の西にありて麥稈、異田の中央市場なり。即墨の故城址は平度州の東南十里の地にあり、齊の田單、火牛を以て燕兵を破りし所とす。其西に膠州灣あり、膠州灣は清國の暴民が獨逸、宜教師殺害の要價として一千八百九十年獨逸の爲め占領せられ、北京條約に由り九十九年間租借を許したる所なり。灣内圓形にして直徑凡十五哩あり、水淺く船舶の碇泊に便ならずと雖も灣の東南に青島の半島突出し、其の兩岸海水深くして大船巨舶を碇泊するに足る。青島は内地の市場より陸路遠く交通不便なりしを以て寂寥なる一漁村に過ぎざりしが、獨逸の占領後大に面目を一新せり。諸般の工事を起して着々其歩を進め、宏壯美麗なる官衙ホテル、住家、續々建築せられ、恰も歐洲の港灣を望むが如し。近時築港工事竣成し、堤上には鐵道を敷設し、且海上には浚渫船を浮べて土砂の浚渫に従事せり。

登州府は萊州府の東に隣り、山東半島の大部分を占め、九縣一州を領す。芝罘は山東省唯一の開港場にして北緯三十七度三十五分五十六秒、東經百二十一度二



十五分の所に位し我國岩代の若松と畧緯度を同うす昔は渤海灣頭の一漁村に過ぎざりしが南北兩清の交通頗る頻繁なるに従ひ支那船の寄港するもの多く其後外國貿易開始せられてより上海以南及び我國より天津牛莊に航行する汽船は概ね當港に寄港するに至り商業益繁盛に赴けり日露の役に旅順口の我封鎖に逢ふや其の水雷艇等數當港に逃竄し來れり此地本來の各稱は烟臺といふ芝罘とは本港の北面に突出せる小半島の芝罘に似たるを以て名けられしものにして歐人錯て港に名く附近の地勢平坦にして高山なし只海面に突出して烟臺山あり高さ凡五六十米突山上亦家屋多し山南凡半里許の間は外人居留地にして三面海に臨み高厦相連り道路亦堅良なり海岸は曠漠たる砂原にして地脈稍西北に延び綿々として相連り海面之れに依て灣をなす此間即ち船舶碇泊の處とす灣内の錨地は五尋より七尋に至り水深充分なりと雖も北西の烈風に堪へざるの不便あり道臺衙門及び海關等此地にあり芝罘土人の家屋は石を用ひ半ば瓦磚を用ひ稍清潔なれども大廈なし氣候は天津に比すれば稍溫和なり山水清秀にして風土人意に適するを以て近年支那在留の外人時々此地に來遊し就中夏に至れば暑を此地に避くるもの頗る多し

威海衛は芝罘の東にあり劉公島其口を扼して要害堅固の軍港なりしが征清の役我軍の爲め北洋艦隊は此處に於て全滅せられ砲臺は全く破壊せられたり當時英國の租借地なり榮城灣は山東角の東端に位し征清の役我軍此處に上陸し威海衛の背後を襲ひたり

### 山西省

山西省は其の首府を太原府とし北京を距つる百三十里の西南に位す全省の面積約二十一萬二千方斤人口凡千二百二十萬あり東は直隸省に接し西は陝西省に隣し北は蒙古と界す其地勢は西に大行山脈の峻嶺南北に糾紛し北に陰山山脈連互して平地甚だ少なく地味貧劣なるを以て人民生活に苦み塞外の地に移住するもの年を逐うて増加す西南二面は黃河の環流するありと雖も地勢險阻にして交通に便せず其の支流汾水は少しく水運の利あり氣候は大陸性にして南部は少しく溫和なり風俗儉素にして上を敬す喫烟を好む最も甚だし其他省にあるものは廣東人と同じく射利富を致し豪商となるもの甚だ多し太原府は本省の首府にして北京を去ること西二百里汾水の東岸に位す俗甚だ財を重じ命を喪ふも財を喪はず此地毛氈の産出あり

(1) Wei-hai-wai



平陽府 是太原府の南にありて府城は汾水の東岸に位す太原より西安方面に出る要衝に當る風俗功名を重んじ民力を耕耘に致さず介山は靈石縣の東にあり介子推の隠れし所なりといふ

蒲州府 是本省の西南隅にありて舜の都したる所なり首陽山は府の近傍にあり伯夷叔齊の隠れたる所なり

大同府 是長城の内部にありて邊疆の要地たり遼金の宮垣は府城の西門にあり匈奴漢の高祖を圍みし白登山は府の東にあり

河南省

河南省は東は安徽に接し南は湖北に境し西は陝西北は山西直隸に隣す全省の面積十七萬六千平方呎人口二千二百萬あり地勢は三部に分れ西部は山地にして秦嶺伏牛山脈及び太行山脈の走る所たり 太行山脈は水蝕風化を受くること甚だしく高度甚だ大ならずと雖も秦嶺伏牛山脈は連山重疊峻巖屹として聳立し嵩山最も高し是れ五岳の一なり河は皆西部の山地より發し東部の平原を流れて淮水に合す黄河は省の北部を貫流し洛水之れに合す河底は南岸の地より高く屢に氾濫して中國の憂をなす故に堤防を嚴にして之れに備ふ 氣候は純

乎たる大陸的にして寒暑の激變甚だしく且無涯の黃風朔北より來る風俗朴直にして能く農耕に力む

開封府 是河南省の首府にして北京を距ること二百六十里揚子江の南岸にありて直隸省の境上に位す山地より中原に出づるの要地に當り東に淮陽を控へ北趙魏に連り西に咸陽洛陽の固めありて蘆漢鐵道此處を通ず古人此地を以て天下の腹心となし事あれば必ず爭亂の中心となる有名なる黄河の長堤は開封府の東に起り長さ二十五里之れを決する時は淮南萬里の地悉く魚鼈の棲所となると云ふ此地は古の大梁或は汴にして汴の故宮は府内の正北にあり陳橋驛は府北四十里にあり宋の太祖黃袍を着せし所とす

河南府 是洛水の北にあるを以て洛陽といふ洛水は源を家嶺山に發し東流して鞏縣に至り遂に黄河に入る其下流土地肥沃にして五穀豐饒し隋の時代には一千里の空藏三千を設けたりと傳ふ 洛陽の故城は府東洛水の北にあり周公の營造せし成周是なり 東漢西晉後魏皆な此に都す有名なる天津橋は府外洛水に架せり宋の邵雍杜鵬を聞きし所とす白馬寺は府の東にあり漢の明帝の時西域より白馬經を傳へ始めて此寺を建つ支那に於ける僧寺の始なり偃師縣



は古へ帝嘗の都せし所府北北邙山は偃師鞏孟津三縣に連り東漢の諸陵及び唐宋名臣の墳多し登封縣の西十里に嵩山あり五嶽の一なり新安縣の東に函谷新

關あり項羽秦の降卒十萬人を坑せし處なりとす  
衛輝府は開封府の北にあり古殷紂の都せし所なり前に河を帯び後に山を負ひ太行山脈は西南懷慶府の界に連り頗る險要の地にして舟車の便あり北京に入るの要路に當り商業稍繁盛なり府の南に牧野あり周武王紂を討ち師を陳せし所とす

彰德府は本省の最位に位し國都北京に通ずる要路に當り頗る樞要の地にあり此地魏に鄴都と云ひ後趙前燕並びて都す書錦堂は府の北にあり宋の韓魏公之れを建て殿陽永叔其記を作る碑刻今尙は存す又光里は湯陰縣の北にありて村が文王を囚へし所とす

汝寧府は開封府の正南にありて道路の集合點に當り蘆漢鐵道又此地を通ず商業や、繁盛なり風俗不良にして民甚だ財を吝めり  
歸德府は開封府の東に位し開封府より安徽省宿州に通ずる道路の衝に當るを以て稍繁華なり風俗淳良にして古來碩儒の輩出する所なり

南陽府は汝寧府の西に位し陝西より河南に通ずる南道に當り頗る險要の地たり民農を務め士は詩書を重んじ風俗淳良なり

陝州は直隸州の一にして河南府の西にあり黄河の南岸に位して陝西より河南に出る咽喉に當り函谷關は靈寶縣の南にあり老子西に度り田文東に出でたるは皆な此關なり關郷縣の西に潼關あり黄河の折れて東する所なり

陝西省

陝西省は支那本部の西北部を占め面積約十九萬五千平方杆人口八百萬餘東は黄河の幹流に劃せられて山西省に連り西は甘肅に境し南は湖北四川の兩省に接し北は長城によりて内蒙古に接す北部に六盤山の高臺地あり中部に秦嶺山脈横はり南部は泯山の本山脈ありて巴山脈に連り地勢秦嶺の脈によりて二分せらる北は渭水の流域にして關中盆地の平野をなす渭水は甘肅に發源して西安の北を流れ潼關に至り黄河の本流に合す大抵急流險隘にして舟行甚だ難し洛水及び漢水の上流はや、舟運の便あり南は漢江の上流にして漢中盆地の平野なり氣候は南北によりて多少の差あり北緯三十五度以北は大陸性の氣候なりと雖も南部は稍温和なり其の物産は羊毛藥材麻を以て主なるものとす本省



は甘肅省を合して陝甘總督の統轄する所にして七府五州を管す  
 西安府は古の長安にして渭水北を流れ、南流東を奔り、南方秦嶺山脈横はり、府南七里に終南山聳ゆ、實に四塞天險の地、霸者之屢、此に都せし決して故なきにあらず、交通不便にして、商工振はず、白耳義國の要求により、河南の開封府より此地に通ずる鐵道敷設を許したれども、未だ起工の運に至らず、唯、此地は漢唐の古都なるを以て、當時の遺蹟多く、歴史上の地點として尊重せらるゝに過ぎざるのみ、此地秦に關中と云ひ、漢初渭南と云ひ、内史といひし處にして、周、秦、漢、晉、西魏、後周、隋唐皆、此に都す、今や未央宮、趾は荒廢に歸して、栢梁臺、墟の朽梁空しく、過去を語るのみ、今主なる古蹟を擧ぐれば、阿房宮、趾は咸陽縣の東四里渭南上、林苑中にあり、秦始皇が築きし所とす、始皇の儒を坑にせし坑、儒谷は臨潼縣の西南にあり、藍田關は藍田縣の東南にあり、もと秦の驍關なり、漢高祖此所を繞りて秦軍を撃ちし所にして、非常の險路あり、秦嶺は秦嶺山脈の一部にして、藍田縣にあり、藍田關と共に韓退之の事蹟を以て名高し、雲橫秦嶺家何在、雪擁藍關馬不前、未央宮趾は府城の西北二里にあり、漢武帝の築きし宮殿にして、其の當時は實に壯麗を極めしと雖も、今や塵に過去を思ふの遺蹟となりぬ、其他遊賞の遺蹟枚舉に遑あらず

此府は明治三十三年匪團の役に各國兵の北京に進軍するや、光緒帝、西太后、皇后等難を避けらるゝこと一年餘なり

同州府は西安の東北にありて、渭水に跨り、黄河に際し、風俗甚だ不良なり、百姓極めて剛勁にして、尤も農を重ず、龍門は韓城縣の東北十二里にあり、黄河龍門に至れば大水奔湧して、直に下る、實に黄河第一の險と稱す、太華山は華陰縣の南にあり、古の西嶽なり、潼關は華陰縣の東にあり、歴代皆な要地となす

鳳翔府は本省の西南部にありて、地形險阻なれども、渭水其南を流れ、土地肥沃にして、種植最も易しとす、風俗忠厚にして、士は儒雅に習ふ、七縣一州を領す、岐山は府の東にあり、山勢兩岐に分る、故に此名あり、太王岐下に居りしといひ、文王の時、鳳凰の鳴きしといふは、此山なり、五丈原は府の東南にあり、諸葛武侯が兵を屯し、大星渭南に落ちし所なりとす

漢中府は縣八州一を領す、本省の西南隅に位し、北は秦嶺山脈南は巴山脈に接する盆地の中にあり、漢水は南流して、沔水に合し、又東して本府を狭む、府の南に漢山あり、眞に秦蜀咽喉の地、險要他處の比にあらず、漢の高祖都を此地にトす、偶然にあらざるなり、風俗浮華にして、最も農業に力む、布漆の産あり、米倉山は府の



南にあり蕭何韓信を逐うて至りし所、褒谷は府の西北にあり張良が棧道を焼き諸葛の斜谷を出でし所とす。

延安府は本省の北部に位し十縣を領す、黄河は府の東北を流れ實に形勝の要地たり、風俗勤儉にして奢侈を賤しむ。

榆林府は省の北境にあり北は萬里長城に接し邊陲の要害たり四縣一州を領す、風俗果敢にして武を尚び且つ忠を懐き法を慎む鹽及び皮類を産す。

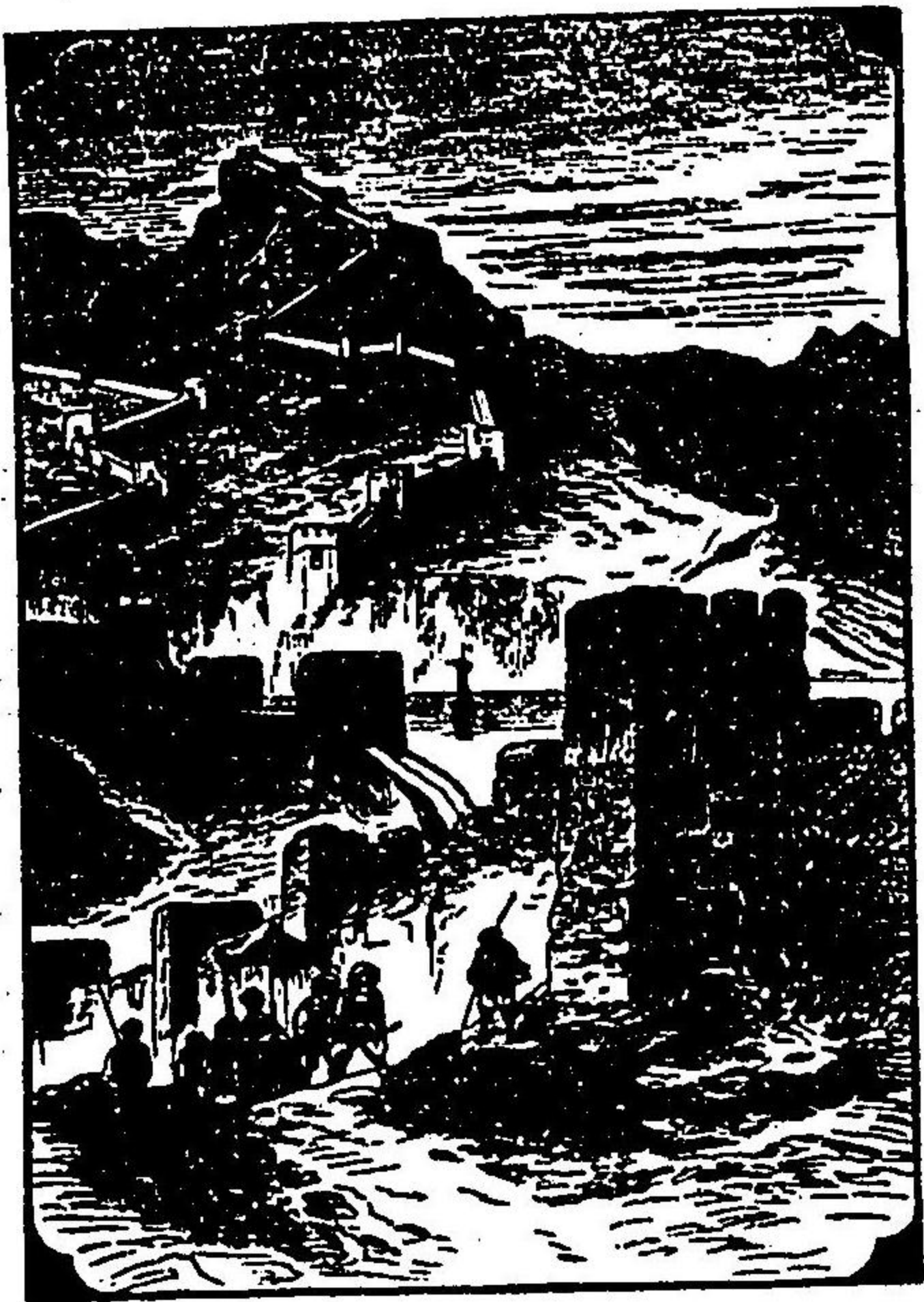
興安府は省の南部にありて六縣一州を領す地吳越の際に位し風俗甚だ好からず賦税極めて小なり其の物産は鐵銅紙等とす。

甘肅省

甘肅省は支那本部の西北に位し北は蒙古に接し東は陝西省に境し南は四川省に西は青海に相接す而して西北の一部は遠く塞外に突出して新疆蒙古青海に圍繞せらる面積三十二萬五千方杆人口九百七十萬北には祁連山脈相連り南部には秦嶺山脈東西に連互するを以て省内山多くして平地少なしといへども黄河の本支流貫通するを以て地味肥沃にして物産亦豊饒なり殊に金銀獸皮等を以て有名なりとす。氣候は不順にして殊に塞外の部分は純然たる大陸性の氣

候を有す風俗淳朴にして民武勇を好む

蘭州府は本省の首府にして黄河の南岸に近く位す民俗勤悍勇を好む北京より新疆省に通ずる要路に當り頗る重要な位置を占む北京を距ること六百五十里陝甘總督此處に駐在す府の南方五里の地に阜蘭山あり山下の地勢平夷にして百萬の兵を屯することを得漢の霍去病匈奴を撃て至りし所とす。



萬里長城

の東南に蘇武山あり漢の蘇武の故事を以て著はる。

甘州府は涼州府の西十里にあり漢以前月氏の地にして後匈奴の據りし所なり府の西南十五里の地に祁連山あり此山も天山と名けしが匈奴天を祈連といふ故に祈連山といふに至れり。

肅州は直隸州にして甘州府の



西にあり塞外に對して重要なる一都府なり長城の起點なる嘉峪關は府の西にあり

### 江蘇省

江蘇省は蘇州府を以て其の首府とす安徽江西を合して兩江總督の統轄する所別に江蘇巡撫を置き俱に江寧府に駐紮す全省の面積八千九百九十四方里人口三千八百萬東は黃海に面し西は河南安徽兩省に接し南は浙江に連なる長江は其の南部を貫き大小の河川縱橫蜘蛛の如く水利最も便にして土地極めて肥沃產物豐饒なり殊に米蠶茶を以て主なるものとす支那帝國の最も繁榮せる地方の一なり 三國の吳及び東晉宋齊梁陳皆建康即ち江寧府に都す唐に至りて淮南節度を以て領し後南唐國となり明に至りて直隸府治となせしが清は之れを江蘇安徽の二省に分つ風俗概して奢侈遊惰にして輕薄なり府を有すること八直隸州三あり

蘇州府 は江蘇省の首府にして揚子江の南方に位し支那六大湖の一なる太湖に接近せり江蘇巡撫此處に駐在す清人は一に姑蘇或は吳郡といふ蓋し古へ姑蘇臺のありし所にして又吳王闔閭が此地を開き始めて都せし所なればなり水

路縱横に互り水運最も便にして上海を去ること二十八里彼の有名なる隋煬帝の開きたる大運河は吳江縣を過ぎ浙江省の嘉興府に出で杭州府に達して船舶の往來絶ゆることなく貨物集散唯一の中心點と云ふべし府城は繞らすに城壁を以てし周圍七里六門を通じ規模宏壯街衢熱鬧清國有數の大都會たるに耻ぢず城の東門を胥門といふ伍子胥死する日其目を抉りて門に懸けしとは此處なり城の四周は繞らすに運河を以てし官船は胥門外に碇泊し商船は閶門の外に投錨す該港は馬關條約によりて開きたる四港の一にして日本租界は城南吳門橋外にあり郵便局警察署等あり又日本領事館は城内にありて蘇州府常州府を管す此地は南京及び杭州と共に紡績絲繅子製造を以て著はる即ち帝室附屬織物場及び商務公司の管掌する經絲廠等ありて各種絹織物の產出全國に冠たり故に内地貿易は絹織物を以て第一とすまた土地肥沃なるを以て米粟に適し其の產額頗る多く北京に輸送する額毎年四百萬兩に達すといふ支那人は蘇州の風俗を概評して君子は禮を尙び庸庶は敦龐風俗清澄にして道教隆盛なりと稱す然り此地は古より碩學鴻儒輩出し文藝を重すること深きが故に今に至つて讀書の士多し然れども元來此地は内地通商の要衝に當り富商甚だ多く商人

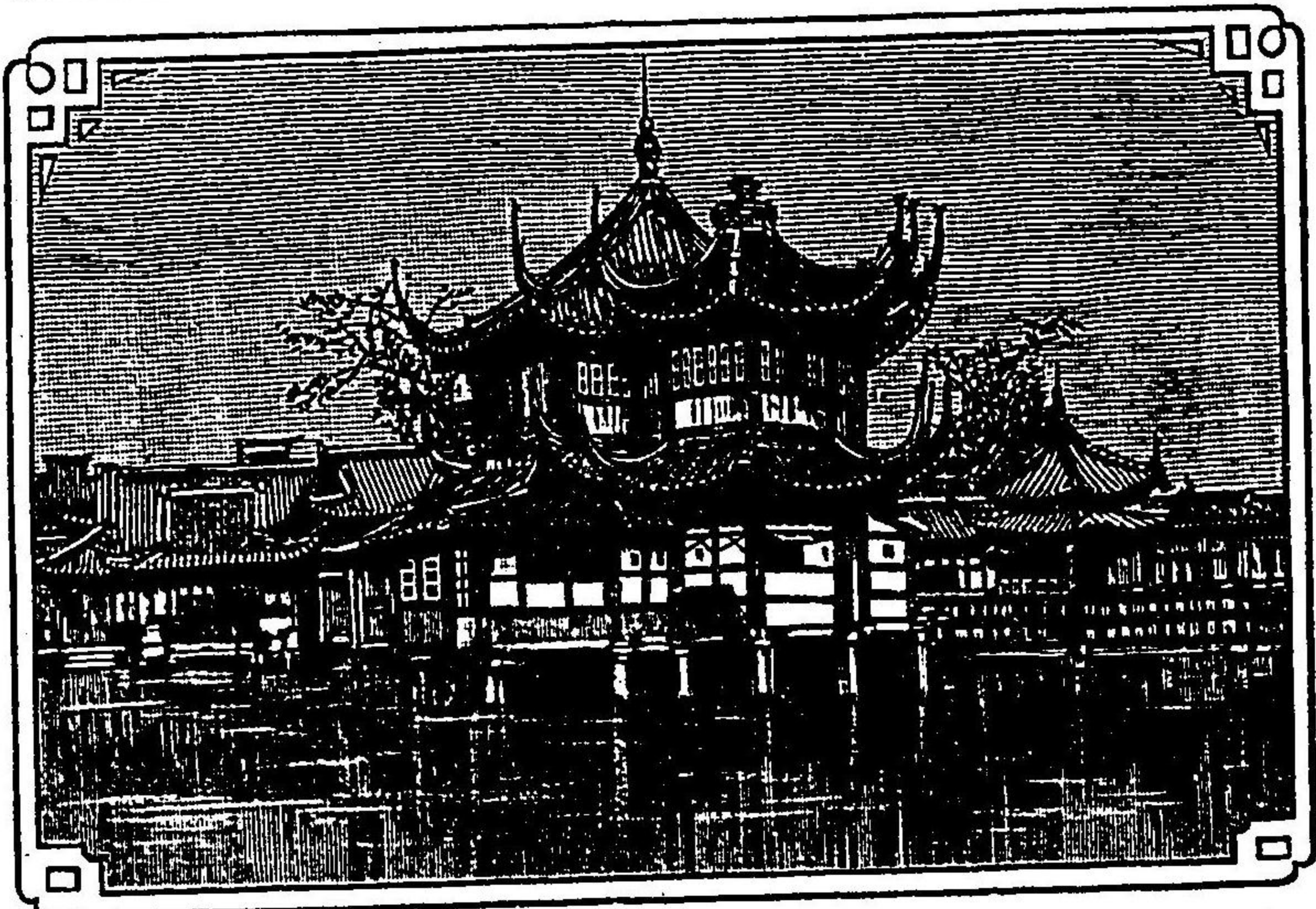


の如きは奢侈に傾き珍奇を喜び支那に於ける婦女の服装流行の淵源とす  
府下の要地として常熟吳淞の二地あり常熟は蘇州府を去る約十五里にあり人  
口四十餘萬上海及び蘇州に水路の便あり物産は米麥大豆蠶豆等にして就中米  
を第一とす其の産額品質共に兩江中の首位にあり吳淞は揚子江と黃埔江の  
會流點に位し上海の東北にあり一八九八年四月列強の要請を防遏せんが爲め  
秦皇島三都峽と共に清國自ら進んで開放したる開港場の一たり江口にありて  
最も海に接近する故諸航海船は先づ第一に本港を経過すされど港内風波を防  
ぐに難くして船舶の停繫に不便なるのみならず貨物の上下上海の如く便なら  
ずなほ本港は上海税關管理の下にありて假令本港に陸揚せられたる貨物も一  
と先づ上海に轉送せられざるべからず故に貿易は未だ注意を惹くだけの盛況  
に達せず然れども黃埔江は年々泥沙を流出し大船巨泊の溯航を遮斷するが故  
に將來有望の地なりと云ふ居民は農漁業に従事す  
府城の西二里の處に楓橋あり山紫水明の勝地なり是より半里にして有名なる  
寒山寺の故地あり姑蘇の山は府西六里の地にあり姑蘇臺其上にあり伍子胥の  
廟は府西六里に在り今尙ほ香花絶えずと云ふ

江寧府は江南省江蘇安徽の首府にして明の帝都たりき北京に對し南京と稱  
せしを以て現今尙ほ南京と稱す今兩江總督此地に駐在す府の周圍殆ど十四里  
人口凡そ四十萬とす其の城壁の高さ五丈より七丈に至る外部に城壕あり總て  
明の洪武年間に於て創建する所に係り實に宏壯偉大なりしが咸豐年間長髮賊  
の侵襲を蒙り大に損害を受けたり然るに曾て彼の英傑左宗棠總督となり大に  
回復に務めしを以て稍舊觀に復するを得たり家屋の構造雅致に富み風流の人  
多く彼の南朝四百八十寺今猶ほ多少の樓臺烟雨の中に殘存す兩江總督以下の  
諸官衙海陸兵學校同文書院等各種の學校あり此地は歴代其名を異にし金陵秣  
陵建業建康應天府などいひしが清に至りて江寧府と名く一八四二年清英媾和  
の際より歐人に知られ其の後長髮賊の根據となり愈其名を高うせり一八五八  
年清佛條約により開港場となす日英佛の租界ありと雖も未だ盛況を見ず物産  
は陶器絹織物筆墨等なり氣候は夏時炎熱や、強く且四時氣候の不良なるに  
よりて病に罹るもの多し特に盛夏の候は熱病腸胃病を患ふるもの多しといふ  
此地は文華風流支那第一の地にして名區勝蹟實に多し今其の著名なるものを  
擧ぐれば府城の東北に鐘山あり近傍の高山にして地を抜くこと七百尺半山亭



あり宋王安石が故宅なりとす  
 府城南門の外に雨花臺あり一に聚寶山といふ之れに登れば城中を俯瞰すべし  
 山下に金陵機器局あり  
 松江府は七縣一州を領し風俗善良にして文を貴び業を勵む三十年前英人と  
 約して上海縣に外國貿易場を開く上海は一に申江又滬江といふ揚子江の支流  
 たる黃埔江口を距る十三哩の上流に位置す喫水二十尺を越えざる船は出入す  
 るを得べし人口凡四十萬日本郵船會社の上海線は此地を以て終點とし一週一  
 回期を定めて航海す港灣良好にして百貨輻輳帆檣林立實に東洋第一の貿易場  
 とす縣城は黃浦江の西岸にあり市街狹隘にして不潔なり道臺衙門此中にあり  
 上海の貿易は悉く居留地内に於て行はれ縣城の商家は只若干の雜貨を賣るに  
 過ぎず居留地は縣城東北の郭外に在り分ちて英佛米の三租界とす英租界は南  
 洋涇濱河に始り北吳淞江に達し廣袤殆ど一英方里にして上海居留地中最も繁  
 華の處とす市街は東西南北に通じ東西の大街六條南北の大街も亦六條あり其  
 他小路縱横に通じ市街整然としてトリニター寺院を始めとし上海俱樂部其他  
 家屋の構造頗る壯麗なり 佛租界は城壁と英國居留地の間及び洋涇濱より南



清園

上海茶亭

小東門溝に至る一英里の間にあり羅  
 馬教堂の建築頗る美なり 米租界は  
 吳淞江の北岸に沿うて虹口と稱する  
 所にあり我領事館此所にあり黃埔江  
 は城市及び居留地の前面を流れ大船  
 巨舶常に河の全面を蔽へり古は一小  
 運河に過ぎざりしが十五世紀の初に  
 於て大河となり今を距る二十年前に  
 は干潮の時といへども其幅千八百尺  
 なりしも漸次縮小して現今僅に千二  
 百尺となれり又吳淞江は古へ海より  
 蘇州に至る要路にして一千年以前に  
 於ては河幅三英里なりしが現今廣潤  
 の處といへども三百尺に過ぎざるに  
 至れり 吳淞口には砲臺を設け黃埔



には江南機器局を設く此地は元來地質低濕にして堅固ならざるが故に道路は人工を以て之れを固め現今良好なる街道となれり亦郊外數里に通ずる馬車道あり公園は黃埔吳淞雨水の會合點に在る淺所を埋めて建設せしものにして二面江に臨み風景絶佳なり北京の圓明園に象りしを以て一に圓明園といふ其經費は専ら外人の負擔に係り中央に音樂堂あり居留人民の娛樂に供す又吳淞江畔に一の公園あり重に支那人の遊覽に供せらる規模小にして圓明園の比に非ず此地は溫帶にありて良位置を占むると雖も土地卑濕にして河面の水平と均しきを以て健康を害するの患あり又寒暖の變化急速にして冬夏の差二十五度より九十六度に至る春秋の候は二十四時間に二十度の變化を生ずること多し鎮江府は條約港の一にして運河と長江の會合點にあり江寧の咽喉を扼して其の門戸を占め所謂長江の要鎮たり一八四一年鴉片輸入の禁により英國と露を開き其の翌年英兵の占領する所となり清廷遂に南京條約を以て此港を開くを約し爾來一八五三年長髮賊の陥る、所となり全市殆ど破壊の慘狀に遭遇せり其翌年天津條約に依り始めて通商を開き今日に及んで稍繁盛に赴きしも猶ほ舊時の繁榮を恢復する能はず府周繞らすに城壁を以てし人口約十四萬を有

す安徽江西湖南湖北四川等の諸省に通ずる要衝に當り舟楫の便運輸の利最も宜しく今や南部支那より北京に至る貢米の如き其の半數は海によると云へども此地を経るもの亦少なしとせず外人の居留地は運河より揚子江に沿ふ一帯の地にあり南岸に近き所江流急にして土船安穩に投錨するを得ず爲めに汽船は居留地の碼頭に停泊す  
 常州府は大運河の沿岸にありて八縣を領す江蘇殷富の中に座し農産の利交通の便實に其の富饒を極む域内廣大ならずといへども家屋充滿して人口大畧十餘萬あり。其の物産は米蠶絲土布等なり。無錫は太湖の北方に位して蘇州鎮江間大運河の通路に當り支那人は之れを錫山といふ蘇州を去る十三里其の府治常州を去ること十一里四周繞らすに城壁を以てし市街の規模小なりと雖も清潔の點に至りては寧ろ蘇州の上に出づ人口十萬繭生絲米の取引場として有名なり。蜀山鎮は府下荆溪縣にあり支那に於ける最古の陶業地にして茶壺茶瓶茶碗の製造甚だ盛なり此地はもと宜興縣に屬せしを以て今尙ほ宜興窯の名あり

楊州府は縣六州二を領す府は江都縣にあり古來風流繁華にして今尙ほ舊態



を存し民俗華奢にして佚情なり古支那の繁華を數ふる者揚一益二と曰ひ或は「十萬錢を腰にし鶴駕此州に遊ぶを欲す」甚だしきは終身還るを忘れ遂に國家を失ふ者あり」と云ふに至る從て名勝舊蹟頗る多し文選樓は府城東門文樓巷内にあり即ち今の旌忠寺なり相傳ふ昭明太子文選の處なりと謝安宅は新城内にあり晉謝安廣陵を鎮する時此に居る

安徽省

安徽省は江蘇及び浙江の西に隣り南は江西に接し西方一體湖北河南によりて圍繞せらる全省の面積十四萬二千方杆人口約二千六十六萬餘揚子江省の南部を横流し淮水其北を流る江南一帶の地は南嶺の餘脈相重疊して一般に山地なり而して淮山脈は江淮の間にありて西より東に走る故に本省は南部に山岳重疊し其他は大抵平野多く地味中庸氣候温和なり土産豊ならず儉自ら給するに足るのみ此地は古來往々英傑を出す近世にては李鴻章を始め當路の政治家少なからず

安慶府 是大江の左岸にありて江水府城の三面を環りて流る本省の首府にして江蘇江西を合して兩江總督の統治する所別に安徽巡撫を當府に置く交通至

便の地にありと雖も市街は實に寂寥を極む

徽州府 は本省中最南の地を占め府城は錢塘江の上流に位し墨の産地を以て世に聞ゆ

太平府 是江蘇省に接する揚子江岸の地を占め僅かに三縣を領す蕪湖は太平府に屬し揚子江の右畔に瀕する條約港の一なり上海を溯る三百四十英里鎮江の上流百十英里にあり人口約八萬を有す其の港灣は緩に弧形をなし風波靜穩なる良港なり運河二條あり南五十英里寧國府に通ず減水の時と雖も五尺乃至六尺に下らず夏季に至れば十尺乃至十二尺に上り運輸交通頗る便なり他の一は其の西南産茶地なる太平縣に達す此地春秋の時吳の地たり其の要衝に當るを以て爾來戰亂を経る甚だ多し税關あり衙門あり商家櫛を連ね生意甚だ盛なり市街廣潤にして家屋の結構粗陋ならず附近蠶絲製茶の業盛なるを以て將來有望の地なりとす蕪湖より江を下れば揚子江の左岸に烏江あり項羽が軍敗れて還りし舊蹟なり

廬州府 は本省の中央巢江の西北に位し諸省に通ずる要路に當り市街繁盛なり民俗質朴にして農を貴び商を賤むの風あり府の東北に合肥縣あり即ち李鴻



章の生地なるを以て有名なり  
 鳳陽府は蘆州府の北方淮水の右岸に位し南北通路の要衝に當る風俗古道を重じて輕薄を賤しむ明の太祖此地に生れたるを以て中都城を府城の西三里に建つ周回七里頗る壯麗を極む八公山は肥水の北淮水の南にあり秦の符堅が百萬の兵を率ゐて恐懼せし所とす虹縣の西七里に垓下あり漢軍の項羽を包圍せし所なり

### 江西省

江西省は北は大江によりて安徽湖北兩省に對し西は湖南省に接す南は廣東省に隣り東は福建浙江二省に境す面積一萬二千方里人口二千六百萬あり故に人口密度は殆ど我國本州全部の平均密度と伯仲の間にある地勢西南東の三面は支那山系の主脈及び支脈によりて圍繞せられ北の一方のみ開きて長江を通ず省の北部に鄱陽湖あり江西盆地に下れる諸水皆之れに朝宗し更に溢れて揚子江に注流す就中大なるものは贛江にして省の南境に發源し東西より來る數多の水を合して鄱陽湖に入る水運の便甚だ大なり  
 南昌府は江西省の首府にして一州七縣を管し江西巡撫ここに駐劄す府は贛

江の右岸に立ち北京を去る七百餘里鄱陽湖口に至る百六裡あり順風に帆を上ぐれば二日にして達す其他湖岸の諸都市及び贛江の上流等に水運の便あり管内に鐵金銅石炭等の礦脈あり古吳楚兩國の交に當り南唐ここに遷都して以來南昌と云ふ風俗士は經學を好み民は稼穡を勤む  
 饒州府は鄱陽湖の東方に位し府城は湖の東南岸に臨み鄱江其の南門外を流れて鄱陽湖に入る地味肥沃にして物産豐饒なり  
 廣信府は南昌府の東にありて浙江福建兩省と界を接す府城は上饒縣にあり府北茶山あり唐の陸羽が住せし所なりといふ  
 南康府は鄱陽湖西岸の地を占め治下四縣を領す府城は鄱陽湖の西岸に臨み湖口縣に至る三四裡のみ良港といふべからざるも巨大なる埠頭ありて湖水滿漲の時に於て吹き來る南風を防遏し支那船の爲めには安全なる碇泊所たり土地確確にして民貧し風俗質朴訟事少なしといふ其の物産は廬山茶を以て有名なるものとす

九江府は南昌府の北鄱陽湖口の地を占む春秋の時楚吳に屬す明の始め九江府を置き清之れを襲ふ其の治下五縣あり府城は揚子江の南岸に臨む河港にし



て咸豐九年即ち西曆一八五八年の天津條約により一八六二年一月開港せり、地水深さも流れ急にして碇泊に便ならざれども江西省の鎖鑰にして全省の形勢實に茲に繋がる揚子江上第三繁盛の開港場たり此地古來繁盛の都府なりしが咸豐三年長髮賊のために陥られ府城の過半は破壊せられしが近時漸く衰勢を挽回し日に繁盛に赴きつゝ、あり現今府城の全周二里半、墻の高十五尺あり六門を開き城内知府、知縣、城守營、道臺衙門あり城内の居民は農戸多く又船手は三分の一に居る夏候臭蟲及び蚊蟲甚だ多し其の飲水は井水及び河水を混用す居留地は城市の西方に位し郭外市街の西端より起り龍芥河口の邊に至る面積約方二百五十間とす始め英國の此港を開きしは安徽、江西の所産なる綠茶貿易の利を博せんと欲するにありしも其の位置鄱陽湖口の稍上流にあるを以て江西の物産は皆先づ鄱陽湖に由り湖口より此地に達するには支那船を以て五十清里の急流を遡らざるを得ずして商賈上妨害を與ふる勢からずこれがため英國は其の企望を満足する能はざるも茶時に際すれば遠近の茶悉く集まり出入の船舶實に夥し殊に麻下景、德鎮の陶磁器製造は古來有名なるものにして其の製造は清國第一等なり頗る精巧を極め閩國至る處此地の陶磁器を用ひざるなく

北京帝室の用度も此地の産とす

建昌府 是南昌の東南五十里にあり管下幅員廣濶にして民農耕を力む又麻姑酒の産地あり府城は南城縣にありて南昌府より福建省の邵武府に通ずる道路の衝に當る

撫州府 是建昌府の西南昌府の東南三十里の地にあり府城は汝水の岸に立つ汝水は其の源盱江に接し流れて金谿縣の南を過ぎ曲折百餘里東流して遂に鄱陽湖に入る

袁州府 是南昌の西八十里湖南に接する一帯の地を占め府内に萍郷の炭田あり地勢上之れを袁州地方萍郷地方の二に分つ袁州地方にては贛江の支流淪水を溯ること約五十里の邊より炭層の露出するもの少からず袁州の西北數十清里に數坑ありその中最も名あるは宜春炭坑にして炭質は開平炭と伯仲の間にありといふ袁河により南昌に出し此地より九江に送りて長江沿岸各地に配布せらる萍郷地方は西醴陵に西北瀏陽に南永寧に通ずる四通八達の地にして袁山袁州の西方蘆溪より雲居舖附近にあり明治三十二年鐵路總辦盛宣懷一切歐式の設備をなし大規模なる採掘を始め萍郷鐵道の便により漢陽に轉送し鐵政



局の用途に充てらる。府城袁州は宜春縣にあり秀江城北を流れ臨江府を経て贛江に入る。

贛州府は南昌の西南百五十里にあり閩粵の咽喉にして江湖の管鍵たり府城は贛江の左岸に近く位し贛江城北を流れて萬安に向ふ其間十八險灘あり

南安府は南昌の西南百五十里東粵に通ずる門戸なり省城は廣東省の境に近く位し廣東省韶州に通ずる道路の要衝に當る

### 浙江省

浙江省は北は江蘇省に接し西は安徽江西の一部に接し南は福建に境し東方一面渺茫たる支那海に臨む面積九萬五千平方杆人口一千百六十萬本省は支那に於ける大山脈の交叉點にして北部一帯は崑崙山系の支那に於ける最終點なり

淮山脈丘陵性より次第に低夷して平原となる其の餘波は海上に點々して舟山列島を作る此平原地は即ち太湖平野にして地味肥沃にして水利又便なり爲めに農産物の産出頗る夥しく人口の稠密なること一方里に村二千八百六十一人世界に冠たり浙江は省の西境に發源して遂に錢塘灣に注ぐ水利極めて便にして氣候溫和風俗亦淳朴なり

杭州府は本省の首府にして南宋嘗て此地に都し臨安と稱せり省の稱北部に位し東は錢塘江に臨み西は西湖を擁し南は山脈逶迤として湖江の間を縫ひ北は平野茫々として際涯なく河溝縱横に通せり浙江巡撫杭州府布政使此に駐劄す實に大運河の南部源頭に方り水路各所に通じ自ら本省に於ける百貨輻輳の中心となり其の繁華なること蘇州と伯仲の間にある然れども有名なる海潮荒き所にして時に三十呎に達する海嘯起るを以て大船直ちに大洋より入ることを得ず之を以て杭州の交通貿易は一に運河によりて上海に至るべきの不便あり絹織物の盛なること湖州府に次ぐ此地は南宋に至りて長く國都となり爾來其の盛況を保ちしが長髮賊の亂に當り數百年來繁華の地盡く兵燹に罹り又昔日の影を止めず然るに日清媾和條約により此市を開きて貿易港とし上海蘇州の汽船航行を許したるを以て他日舊時の盛を凌駕するの日あるや知るべからず

湖州府 杭州府の北にありて治下七縣を領す府城は太湖の濱に近く風俗淳秀にして民農耕を勤む蠶絲の産出本省第一と稱す湖州城内の絲行は凡そ十ありて各絲行は各自商標を有し絲類の良否を區別せり絲は湖州の郷民皆自ら製し



て蘇行所在の市に運送す

南潯は湖州府城を去る十里太湖の南に位し街衢繁盛人口七八萬に及ぶ

紹興府は杭州灣に臨める一帯の地を占め治下八縣を領す府城は西興より餘

姚に通ずる運河の畔に位し人口約二十萬商業甚だ繁盛なり支那人普通の飲料

たる紹興酒の産を以て其名著はる又生絲の産額多大にして本省中第三に位す

臺州府は臺州灣に瀕する一帯の地を占め治下六縣を領す臺州灣は廣からざ

れども海船を泊するを得生絲茶鹽を産す

金華府は縣八を領す地勢平坦にして土田多く農業甚だ盛なり風俗剛を好み

稼穡を務むるの風あり

温州府は温州に臨める一帯の地を占め治下縣五を領す府城は甌江の南岸に

あり人口約十萬芝罘條約により開放せられたる五條約港の一にして府周繞ら

すに城壁を以てす全長殆ど四英里之れを築くに磚瓦を以てす市街整然他の支

那都府に多く見ざる所なり道廳あり府廳あり總兵衙門あり其他種々の官署及

び塔堂伽藍遠く雲外に聳え就中其の結構の宏大なるは棄兒院にして一七四八

年の創立に係り内に一百有餘の房屋を備ふ人民は温厚にして文を貴ぶ然れど

も其の中等以下の人に至ては頗る慍悍にして鬪争を好む物産は茶、牛皮等とす  
府城の東門外に華蓋山あり又北門外甌江の中央に一島嶼あり孤嶼島といふ寺  
あり江心寺といふ宋末に文天祥の據りて以て四方の豪傑を募りて事成らず詩  
を留めて去りたる所なり

寧波府は甬江に瀕する一帯の地を占め治下六縣を領す府城は海口を去るこ  
と凡そ十一里の所にあり我國通商港の一にして長崎を去る二百九十六里上海  
を去る五十四里にあり水陸運輸の便を占め百貨輻輳戶口殷實省内樞要の一大  
都府にして人口二十五萬を有す一八四二年南京條約により開放せられたる五  
條約港の一なり初め一五二二年葡萄牙人の來りて港に居留地を開くものあり  
しが其後幾もなくして浙江總督大に葡萄牙人の專横をにくみ兵を以て其の居  
留地を圍み葡人の居留地にあるものすべて千二百其の内八百餘人を虐殺せり  
其後十七世紀の末東印度商會が寧波を距ること四十餘哩にある舟山島に根據  
地を設くるに至るまで歐人の來り交易するもの曾てあることなし而して東印  
度商會も數年の後之れを棄て去り其後鴉片戦争の起るや英國の艦隊廣東を陥  
れ一八四一年十月十三日更に進みて此港を占領せしも同四十二年三月和成り



寧波又清國の有に歸せり本府は渺茫たる廣野の中にあり川流其間を激流し風景絶佳なり府城の周圍は墻壁を以て繞らし城内は商店櫛比處々に寺院高塔の頗る壯麗なるものあり又有名なる書籍館あり書史の多きを以て有名なり此府往昔本邦との交通の衝に當り主たる上陸地點たりし又古來兵馬の事ある毎に其衝に當る元明の代尤も甚だしく加ふるに海寇の害毒を以てせり之を以て城を築き砲臺を設け江口の防禦に供す蓋し其地の最も樞要なるに由る殊に舟山島は厘に一葦帶水の地にあり往年咸豐の役英佛連合軍の取りて根據の地となせし所なり

福建省

福建省は北は浙江省に隣り東は臺灣海峡を隔て、我臺灣と相對し南は一部支那海に瀕し一部廣東省に接し西は一帶江西省に界す支那山系の殘片福建山脈となりて西南より東北に省内を貫通するを以て山岳多く平地少なし本省閩江の流域を占むるを以て閩越等の稱あり閩江は省の北隅に發源して數多の支流を合せ東流遂に支那海に注ぐ小汽船は福州まで上るを得建寧延平間は民船を通すと雖も所々に岩石横はり航行甚だ困難なり全省の面積十二萬平方斤人口

二千二百二十萬氣候夏熱稍強きも冬期頗る適順なり本省は我國に對し他國に不割讓を約せし省にして我國の勢力範圍にありて諸般の事業着々其歩を進めつゝあり

福州府は福建の東北閩江の左岸に立ち海を距ること凡三十五哩一名榕城と云ひ福建省中の大都會たると同時に貿易河港なり人口六十三萬餘此地周の七閩地唐の時長樂府明初福州府となし清朝は之れを襲ふ治下縣九あり商賈軒を竝べ市街裕通稍清潔なり府周繞らすに城墻を以てし城内には閩浙總督府を始め福州將軍福建巡撫糧儲鹽法道等高等官吏の駐劄せる官衙あり城外又市街あり南門外にあるもの最も大にして南臺といふ南臺は閩江の右岸にありて外人の居留地なり此間閩江の中央に架するに二個の石橋を以てし江南橋萬壽橋といひ長さ百四十丈風致極めて優雅なり日英米佛葡西蘭等諸國の領事館あり福州は古より有名なる茶の產地にして夙に外人の注目する所となれり且其の土商等廣東に密輸送をなし以て私かに輸出したりといふ一八三〇年に至り東印度會社の此地を以て互市場たらしめんことを請ひしも未だ確乎たる要領を得る能はざりしが一八四二年南京條約に基づき一八六一年始めて互市場となれ



り此地の物産は茶を以て最とし其他紙、木材、竹器、煙草等なり。馬尾港は南臺より閩江を下ること九哩の所にあり是れ福州の外港にして山岳四周天然の障壁をなし港内水深く大艦巨舶を碇繋するに足る江の中央に羅星塔島横はり岸上船政工廠、水師學堂あり。一八八五年清佛戰役に清國艦隊が佛國提督クルベールの率ゐる水雷艇に罹り撃沈せられし所なり。福寧府は福州府の東北に位し七縣を領す一八九八年開放せられし互市場にして茶の名産地なり附近に鐵、銀、鉛、銅の産地あり風俗信義を貴び民農耕を勤む府城の南に洪山、番童山あり共に幽邃の仙境とす。三都港は一に三沙と曰ひ又は福海島と曰ふ寧德縣の冲三都澳の中央にある周圍十二哩の小島にして港は島の南側と大陸の間にあり一八九七年伊太利の租借を要求せし所にして一八九九年勅令を以て開放せし互市場なり。邵武府は建寧府の西に隣り江西省と界し四縣を領す府城は福州より延平を経て江西省建昌府に通する首路に當り樞要なる宿驛をなす。建寧府は福寧府の西に隣り閩江上流一帶の地を占め縣七を領す府城は閩江に臨み堅固なる城壁を以て圍まる閩江上流に於ける貨物集散地にして市街繁

華なり産物は茶、木材、穀物、紙、竹材等にして就中茶は最も多く福州より輸出する茶は主として此地より出すものなり。

延平府は建寧府の南にありて六縣を領す府城は堅固なる城壁に圍まれ建寧と共に閩江上流屈指の府にして福州との間民船の往來頻繁なり其の物産の主なるものは茶、木材等なり。

汀州府は省の西南隅にありて治下縣八を領す府城は高原に位し鄞江畔にあり商業稍盛なり此の地の産物は煙草を宗とし木材、竹器之れに亞ぐ。

興化府は福州府の南に隣り治下縣二を領す府城は仙遊、運河の左岸にあり三江口を溯ること約五里商業や、盛にして砂糖、煙草を出す。

泉州府は興化府の南にあり治下五縣を領す府城は廣潤なる平原の中にありて晉江の左岸に沿ひ泉州灣を控ふ舊時は外國通商を以て誇稱せし大都會なりしが今や萎靡振はず昔日の觀なきに至れり城内荒廢せる處多く人口十五萬あり此地は古くより刺桐城として名高く唐代始めて泉州といひ海外貿易港となり元代に至り最も隆盛を極めたり港内水深く開港場として實に良好の位置にあれども廈門、福州の開港後大に其の勢力を奪はれたり。



厦門港は泉州府同安縣に屬する一小群島にあり島の周圍六里大陸の突出せる南海角との間に突出せる灣を形成す之を頭灣といふ灣内水深くして舟舶の碇繋頗る穩便なり市街は島の西南隅に位し人口約十萬山を負ひ海に瀕し寺院高塔各地に散在し灣内又幾多の島嶼羅列し眺望頗る佳なり市街を二部に區別し内市外市といふ一條の丘陵内外二市の間を横斷す全周繞らすに城壁を以てし東西南北に城門を開く城内には水師提督縣廳其他の諸衙門を置き道臺衙門は城外にあり市街盡く石を敷き商家軒を並べ商業甚だ繁盛なり外人居留地は本島を距ること約七町餘の鼓浪嶼にあり此島全く花崗岩より成り周圍僅かに三里の小島なれども高閣層樓蒼樹奇名と相點綴して絶景をなし吾が帝國領事館を始め東文書院臺灣銀行支店三井物産會社等の商業機關多し此港は天津條約の尙未だ締結せられざる前已に公開したる通商五港中の一たり夙に西洋各國と通商し葡萄牙人は一五四四年始めて此地に來り互市を開けり然れども其の内國人に對する所業甚だ殘酷なりし爲め支那官吏の憤る所となり終に此地を放逐せられ船舶十三隻燒棄てらる英國人も亦此地に於て貿易をなし居りしが一七三〇年の頃に至り支那政府は廣東を除くの外外人の交易を禁じたるを

以て外商の居を此地に占むる能はざるに至りしが獨り西班牙船のみ特許を得て自由に入出貿易するを得たり然るに一八四一年英人の此地を奪取し尋で英清兩國の間に締結せし南京條約に基づき一八六二年始めて外國互市場となれり人情頗る狡猾なれども外人に對しては輕侮暴行を加ふることなし金門島は厦門島の東北にあり明の遺臣鄭成功が義兵を擧げし地なり昔時船舶發着の便ありしが近時厦門に其の勢力を奪はれ今は寂寥を極む漳州府は泉州府の西南にあり省の南部一帯の地を占め治下縣七を領す府城は漳州平原の中央にあり漳江其南を流る泉州府と相並びて福建南部に於ける殷盛なる都會と稱せられしが長髮賊の亂以後市街衰微し復た昔日の觀を止めず人口約十萬あり附近地勢平坦にして田野廣く開け茶麻の種植盛なり砂糖製造所は城の内外を通じ三十一戸あり其の製品は厦門を經由して各地に輸送する額甚だ多し

### 廣東省

廣東省は東は福建に隣り南は一帯支那海及び東京灣に面し北は江西湖南に接し南は廣西と佛領印度支那に境す面積二十二萬五千平方杆人口二千九百七十



萬地勢一般に高原性にして一千米を越ゆる者稀なり西江は廣西省より來り東江及び北江を合して海に注ぐ河岸に平地多く水利頗る便なり氣候概して熱帶性を帯び沿岸は稍温和なり一年中四月より十月に至るまでは雨季にして降水量頗る多く住民は熱氣より寧ろ雨を恐る濱海の人には慄悍射利に長じ商業に巧なること山西省の人と並び稱せらる

廣州府は廣東省の首府にして兩廣總督此處に駐在す一に省城又は羊城と稱し或は單に廣東といふ珠江の北岸に位し人口約一百万山岳北に峙ち大海東を環り土壤肥沃にして所謂百越の中心五嶺以南の大都府なり殊に海外貿易夙に開け百貨輻輳民物殷富蓋し支那南部貿易の中心なり府周繞らすに城壁を以てす全長約二里十六門を開き東南西の三面に水濠を繞らす人家は城内及び城外の西南二面に最も多し市街は皆な布石道にして其の幅概ね六七尺に過ぎず家屋は皆な煉瓦造にして連檐櫺比其の雜沓名狀すべからず今其の著名地の二三を擧ぐれば打銅街は市街殷實銀行綢緞商最も多し漿欄街は藥材及び丸藥を以て知られ西榮巷は富者最も多く亦銀行を以て稱せらる雙門底は書籍店多く連新街は旅店及び職工人多し城内寺院各所に散在して宏壯雄麗高く天外に聳ゆ

其他考試場造兵所及び諸衙門の大厦竝に天主堂あり甚だ盛觀を與ふ又北門の傍に造幣所あり最も有名なるは鎮海樓にして外人の此地に遊ぶもの此の樓に上らざるものなし沙基はもと河邊の淺池なりしが三十年前英人始めて此島を築き金を費すこと三十三萬圓日子を要すること二年半にして竣功し其の五分の四は英人の出費する所にして其餘は佛國の給する所に係る故に兩國の領する面積亦其の比例に従ふ周圍約二千米外岸美石を堆積し南面は珠江に臨み他は皆小流を隔て西門外の市街即ち西關と相對し其の東南二方に於て鐵橋を架し以て往來を通じ此に鐵門を作り以て出入を檢し歐人は大門より入らしめ歐人に雇はる、支那人は之れを小門より入らしむ自餘の支那人は決して入るを得ず

廣東人は清國中慄悍を以て稱すべきの民なり就中東莞縣を以て最とし不良相聚りて盜をなし或は旅客を劫かす者亦此地に多し廣東は支那の開港場中最も早く開けたるものにして第十世紀の頃アラビアの航海者此地に往復し東西兩亞の間に交通を開き次で一五一九年に至り葡萄牙人來航し後凡百年を経て蘭人亦來り遂に一六三七年より英人の交通する所となる故に市民能く外情に通



し英語を解するもの極めて多く婦女童幼と雖も外人に接して因循遲滯の患なし故に支那の開港地は勿論南洋、印度、日本、濠洲、米國等に渡航し盛に商業を營み或は勤儉勞働に服するものは本港人を最も多しとす從て其風俗も一種の特色を示し婦人の盛足の陋習なく好んで黒衣を着す此地の氣候寒暖不順にして其の天候は一二月の間北風甚だ多く雨最も少なし其の北風あるの日は陰雲天に滿ち最も薰殺を覺ふ二月中旬は大雷雨旬殆ど晴天なきが如し五月より八月の間南風常に多く時に東北の風至りて雨となる八九月の頃は西風酷烈にして暑熱盛夏より甚だしく民疾病に罹るもの多し十月は天氣漸く和平に歸し淫雨日に減すと雖も熱冷時に齊しからず十一月に至れば北風漸く來り始めて冬天の況を呈す十二月以後北風常に多く降雨最も少なし廣東は諸水の總匯たるを以て貨物の輻輳亦隨て多し故に其の土産と稱する者悉く此地に産するに非ず多くは他郷の産に係る

江門は英清新條約によりて明治三十七年五月七日を以て開港す西江の一支流江門溪の沿岸廣州府香山縣の西對岸甘竹肇慶德寧と共に明治三十五年九月外國船貨物旅客の立寄港となりし所なり

官等を置き又英國海陸軍の駐屯兵及び六百餘名の警察官あり而して此等に要する官衙一として備はらざるなく其他學校病院砂糖製造所船渠等あり

澳門は徳川時代には我國に阿瑪港或は天川港として知られたる地にして廣東河口の右方香港と相對する一島にして葡萄牙國の殖民地なり今を去る三四五十年前葡人始めて此地に來り當時猖獗を極めし海賊を平定したり依りて明政府その功を賞して本島を與へたり爾來商業頗る繁昌を極め一時は東洋貿易の中心たりしが後葡本國の勢振はざると共に海上の權力は英人に歸し商權亦香港に奪はれたり

惠州府は縣九州一を領す廣東の東南にあり風俗男子は安居坐食し女人却つて東奔西走するの風あり府の近傍に象頭山あり溫泉湧出す東坡の浴せし所なりといふ

潮州府は九縣を領す韓愈佛骨表を上りて左遷せられたる所なり練江は府東より海に入る其の源福建の汀州に發し永定大埔等を経過するとき汀江と名く江口に汕頭あり汕頭は廣東省の東境にして潮州府澄海縣に屬し東南海中に斗出し畧半島の形をなす澄海縣南の地と相對して一の港灣をなす汕頭は即ち其



じ英語を解するもの極めて多く婦女童幼と雖も外人に接して因循遲滯の患なし故に支那の開港地は勿論南洋、印度、日本、濠洲、米國等に渡航し盛に商業を營み或は勤儉勞働に服するものは本港人を最も多しとす從て其風俗も一種の特色を示し婦人の盛足の陋習なく好んで黒衣を着す此地の氣候寒暖不順にして其の天候は一二月の間北風甚だ多く雨最も少なし其の北風あるの日は陰雲天に滿ち最も蕭殺を覺ふ二月中は大雷雨旬殆ど晴天なきが如し五月より八月の間南風常に多く時に東北の風至りて雨となる八九月の頃は西風酷烈にして暑熱盛夏より甚だしく民疾病に罹るもの多し十月は天氣漸く和平に歸し淫雨日に減すと雖も熱冷時に齊しからず十一月に至れば北風漸く來り始めて冬天の況を呈す十二月以後北風常に多く降雨最も少なし廣東は諸水の總匯たるを以て貨物の輻輳亦隨て多し故に其の土産と稱する者悉く此地に産するに非ず多くは他郷の産に係る

江門は英清新條約によりて明治三十七年五月七日を以て開港す西江の一支流江門溪の沿岸廣州府香山縣の西對岸甘竹肇慶德慶と共に明治三十五年九月外國船貨物旅客の立寄港となりし所なり



欠

MISSING



官等を置き又英國海陸軍の駐屯兵及び六百餘名の警察官あり而して此等に要する官衙一として備はらざるなく其他學校病院砂糖製造所船渠等あり

澳門は徳川時代には我國に阿瑪港(或は天川港)として知られたる地にして廣東河口の右方香港と相對する一島にして葡萄牙國の殖民地なり今を去る三四五十年前葡人始めて此地に來り當時猖獗を極めし海賊を平定したり依りて明政府その功を賞して本島を興へたり爾來商業頗る繁昌を極め一時は東洋貿易の中心たりしが後葡本國の勢振はざると共に海上の權力は英人に歸し商權亦香港に奪はれたり

惠州府は縣九州一を領す廣東の東南にあり風俗男子は安居坐食し女人却つて東奔西走するの風あり府の近傍に象頭山あり溫泉湧出す東坡の浴せし所なりといふ

潮州府は九縣を領す韓愈佛骨表を上りて左遷せられたる所なり練江は府東より海に入る其の源福建の汀州に發し永定大埔等を経過するとき汀江と名く江口に汕頭あり汕頭は廣東省の東境にして潮州府澄海縣に屬し東南海中に斗出し畧半島の形をなす澄海縣南の地と相對して一の港灣をなす汕頭は即ち其



灣の中央にして兩地の最も狹窄せし處なり而して其の内方は水面又豁開して濁浪洶湧の裡海となる蓋し韓江の數支流竝に揭陽の數川流等多く茲に注げばなり陸は平坦にして砂土なり氣候頗る健康に適す然れども市街の位置臺灣海狹の南端と相對するを以て暴風の害を免れず毎年多少其暴傷を蒙る蓋し支那南部沿岸の常災なり本港は一八五八年天津條約を以て開きし所なり潮州に通ずる潮汕鐵道布設の計畫あり將來甚だ有望の港なり

肇慶府は廣東の西に位して縣十一州を領す三江の要口五州の藩屏にして土産甚だ多し風俗濃厚人氣和平なり陽江縣南北津港あり港門亂石多きを以て舟行すべき所少なし入港するには大潮の時を俟たざる可らず西南海中に海陵山あり延袤三百餘里宋末に張世傑が颶風に遇ひ天に祝して溺死せし所とす

廉州府は本省最西の府にして縣二を領す海に瀕し産貨豊にして風俗儉朴なり北海は合浦縣に屬し廉江口に位する開港場にして一小半島の上に横はり後方峻巖を負ふ夏時西南の涼風を遮り冬季東北の寒風凜冽たり然れども氣候甚だ悪しからず附近の地は渺茫たる原野相連り其開墾に屬するもの甚だ稀にして鷹及び其他の飛禽群をなせり港は水深くして且つ濶く暗礁等の危険なし蓋

し支那各開港場中汽船の容易に進行するを得るもの此港の右に出るものなし碇泊所は市街を去ること殆ど一哩の所にあり此地土人の外人を遇する其の深切なる各地の比にあらず港は重に廉州府の貨物を載卸す蓋し此府は外國産棉布類の多額を消費し又此地より西江沿岸及び海濱に散在せる各都府に轉輸するの地なれば將來廣西省より出る商貨の一大咽喉として隆盛に赴くべし

雷州府は海南島に相對する半島部にあり平田沃饒一望際なし風俗淳厚民學を好む府に暨雷山あり山下同名の水あり古へ雷震に遇て水出づ州の名是れに因るといふ 同半島の頸部東へ向へる廣州灣あり佛國の租借する所なり

瓊州府は海南島全部を領す海南島は一名瓊州島ともいひ雷州半島と二十哩を隔つ南部は花崗岩中部は古生界東北部は第四紀層にして地味肥沃といふを得ず産物は甘蔗煙草は稍有名なり瓊州は北岸にありてその港を海口といふ廣東を去る二百八十五哩にあり一八二一年天津條約の際汕頭と共に開きし所なり潮の満干極めて不規則にして加ふるに港口は北方に一つの防波障なく往々風害を受くるを免れず且つ海岸に近づぐに従ひ水甚だ淺く滿潮の時にあらざれば貨物を搭卸すること能はず然れども運輸は外國汽船の便を藉り其の貿易



自ら隆盛に赴くの傾向あり、海南島の西南岸に榆林港、東南岸に凌水港ありて稍良港なり日露戦役に露艦の假泊せりと傳へられたる港なり

### 廣西省

廣西省は支那帝國の極南を占むる南清の一省なり北は貴州湖南兩省に接し東は廣東省南は佛領安南に境し西は雲南省に連る面積二十萬平方杆人口凡九百萬を有す山岳四周を繞り中央は中古界より成る丘陵性の平原にして一大盆地をなせり即ち廣西大盆地是なり而して土地西北に高く東南に低きを以て周圍の山地に發源する諸水は中央に集り悉く西江の本流に合し東流して廣東省に入る故に水運の便至大なり北回歸線省の中央を貫くを以て氣候は炎暑酷烈にして瘴氣多く物産亦豊ならず山間には苗族住居し未だ蠻風を脱せざる野民なり

桂林府は廣西省の首府にして省城の所在なり治下七縣二州を領す廣西巡撫茲に駐在し諸官衙及び府學あり西江の支流なる桂江は府の東を流る梧州の開港を距る二百八十裡の上流にありしジャンク常に往復す府下人口三十萬餘風俗醇朴なり桂山は府の東にあり三峰相連列す山上に巨巖あり之れを疊彩と名

く此地方の物産は銅銀玉石硃砂を以て其主なるものとす

柳州府は本省中央の地を占め治下七縣一州を領す諸蠻民雜居の區とす府城は柳江の河畔に瀕し東は湖南西は貴州に出る道路の要衝に當る羅池は柳子厚の碑あるを以て有名なり

慶遠府は柳州府の西に位し治下四縣四州を領す民俗慄悍にして殺伐争鬪を好む苗族多く山間に接息す其の酋長を以て土司官に任じ自治の制に遵はしむ思恩府は慶遠府の南に位し四縣一州を領す北に西江の本流を繞らし東に天柱山を控へ南は鬱江を擁して平野相望む風俗儉吝にして財を見ること命の如し此地の物産は金鉛綿麻等なり

泗城府は慶遠府の西に位し三面山を繞して唯南方開け左江の上流之れを南流す苗疆接壤の地にして瘴癘殊に劇なり

平樂府は桂林府の南桂江の流域を占めて七縣一州を管す府城は桂江の東岸にあり此地の物産は金銀鐵錫等とす

梧州府は平樂府の南にありて兩江流域の地を占め治下五縣を領す府城は廣東省の境に近く西江の左岸にす兩廣を連絡する咽喉の衝に當り兩廣間に往復



する船貨は皆な此地を經船の出入するもの多く商業繁盛なり一八九七年緬甸英清條約の結果によりて開市場となる此地前に江水を控へ後に白雲山を負ひ土地狹隘にして夏日漲水する時は平水より高さこと三十尺以上に達し市街も爲めに浸水せらる故に倉庫店舗等を設くるにも豫め其備へあるを要す是れ商業上の一大障害にして而かも其の近傍平原廣野の耕作地若しくは生産地あるにあらず眞に通商の爲めに成立するものなり人口約十萬廣東豪商の支店多く鴻安公昌同昌陽盛有德謙泰時泰など稱する諸商店は廣西若しくは雲貴と廣東との間に立ち問屋的取引の業に従事し兩替若しくは爲替等の業を營ひ私立銀行様のもの八あり其外大小店舗を連ねて百貨を鬻ぎ舶來貨物を販賣するもの少からず

南寧府 是海州府の西南にありて三縣三州を領す省城は潯江の北岸に位す明治三十二年二月外國貿易の爲め開放する旨總理衙門より各國公使に通知せしが其の開市期日は今尙未定なり此地は梧州及び龍州へ舟楫の便を有し廣西南部の中心に當るを以て他日若し開市を見るに至らば其の殷盛蓋し想ふべきなり此地の物産は金銀象馬孔雀檳榔等とす

太平府 是本省最南の地方を占め二縣十七州を治む府城は崇善縣にあり府前江は府の東南西の三面を繞り西轉して右江に入り遂に鬱江となる佛領交趾支那との交通の要路に當る龍州は太平府の管下に屬す一八八九年佛領安南と陸地貿易の爲め公開したる市場にして松吉高平二河の會流點に位し市街は山岳を以て圍まれたる溪間にあり佛領諒山に接し河内府に通する咽喉に當り頗る要衝の地を占む近傍の地邊陲の要衝に當るを以て各處兵營を設けて警備す安南より此地に貨物を輸送するには海防よりフランソン迄は汽船を用ひフランソン及び河内より諒山までは鐵道便により諒山よりナレヤム迄は荷車を用ひナレヤムより龍州までは河舟を用ふと云ふ其の煩勞實に想ふべし貿易の微々として振はざる偶然にあらず然れども他日龍州鐵道完成するに至らば蓋今日の比にあらざるべし此地方の物産は木綿馬等とす

### 湖北省

湖北省の東は安徽省に隣り西は四川及び陝西兩省に接し北は河南省に境し南は江西湖南に相連る面積十八萬五千平方杆人口三千四百二十萬あり省の周圍は山岳を以て限らる、も中央は渺茫たる平野にして長江其中を貫き水流縱横



土味肥沃にして麻、棉、茶を産す漢江の流域に當り數多の湖水ありて運輸甚だ便なり此地は支那本部の中央に位し所謂中原の地にして南北必争の地にあるを以て古より事ある時は屢争亂の衝となる氣候順良風俗稍敏猪にして勇を好み勤惰相半す

武昌府は湖北省の首府にして古への鄂州なり揚子江の右岸に位し前面には漢陽及び漢口を控へ三大都府鼎立の狀をなす人口凡四十萬市街甚段賑にして商業頗る繁盛なり湖廣總督此地に駐在し府城の内外には湖沼甚多くして人民耕作の地は一小部分に過ぎず江漢書院及經心書院兩湖書院武備學堂等あり又張之洞總督の創設に係る湖北織布官局湖北繅絲官局湖北銀元局も此所にあり支那中央に於る泰西的文華の中心たり湖北繅絲官局は此所謂我國の生絲製造所にして官局と稱すと雖も全く官業にあらず湖北銀元局は所謂我造幣局なり漢陽府は漢口の下流地を占め大江を隔て、武昌府と相對す府城は漢江の右岸にありて人口約十六萬商業や、繁盛なり又製鐵所及び兵器製造所あり共に張之洞の管理に屬し兵器製造所は原料を獨逸より取り新式小銃野戰砲砲彈等を製造しつゝあり

漢口は施政上漢陽府に屬し漢口の長江に注入する處に位し武昌漢陽の二府と共に三市鼎立の形をなし清國の富源と稱する兩湖江西四川の諸省を控へ長江の本支流を溯れば雲南四川に達すべく漢江を上れば河南陝西に至るべく又湖南江西には船運の便あり且北方には京漢鐵道ありて河南省を經て北京に通せんとし南方には米國の計畫鐵道ありて廣東より湖南省を橫貫して當地に來らんとす故に各省の物産悉く此地に集る故に世呼んで『九省の會』といふ人口八十萬其の外國貿易の盛なる蓋し上海に次ぐ實に長江畔隨一の港なり市街は長江に瀕し漢水に沿ひ西に向て弧延す其長さ殆ど三里城壁は東江岸より西漢水に到りて市街の後を劃す居留地は長江の西岸に近く城内の北部に位置す街路廣潤大廈高樓頗る壯麗なり英米佛露獨等の領事館あり其他税關電信局警察署學校病院等あり民俗は他の沿海開港場に於けるが如く輕薄ならざるも内地の諸省に比して狡猾奢侈の俗あるは開港殊に五方雜處の漢口に於ては亦免れ難き所たり元貿易商賣專業の地なるが故に文學の如きは頗る冷淡の感あり襄陽府は漢水の中流なる襄陽盆地の中央にありて漢水の右岸に位す七縣一州を領す湖北に於ける重鎮の一たり風俗頗る驕奢の風あり麻の西二十里隆中



山下に諸葛亮の舊廬尙は存せり、舊廬の西に避暑臺あり、昭烈帝草廬を三顧せしと傳ふる三顧門あり、當時鐵道既に漢口より通せり、將來益繁盛すべし。

安陸府は漢口と襄陽との中間にありて漢水の左岸に位す、水陸の便共によろしく、交路要衝たり、民勤儉にして土淳和なり、二州五縣を領す、京山縣の北に張良山あり、相傳ふ張良兵を此に息ふと、又南に子陵洞あり、嚴子陵嘗て此に隠れたりといふ。

荊州府は宜昌の東南揚子江の北岸に位す、古來形勝の區と稱し、實に長江の中流、古への吳楚の重鎮にして、歷世必争の要地たり、人口凡十餘萬、城内には滿洲將軍を駐防せしめ、八旗數千人此に居住し、荊州兵備道臺、荊州衛を置く、商業の盛は沙市に及ばず、且つ取引も問屋的にあらずして、規模至て小なり、人民は外人に接すること甚だ稀なるを以て、稍排外的に傾き、且滿洲八旗兵を厭ふこと、恰も蛇蝎の如し。

沙市は荊州府下に屬し、揚子江の北岸に位する一碼頭にして、一に荆沙、又は沙頭と稱す、漢口の上流二百八十七裡、宜昌の下流八十三裡にあり、是れ亦馬關條約によりて開きたる開港互市場とす、所謂その名の示すが如く、古は唯沙頭の一小市の如し。

なりしが、其の位置の形勝なるより、漸次繁盛に赴きけり、且日清戰役の結果我國之れを開かしめしを以て、遂に今日の如き隆昌なる一市街となるに至れり、地勢南東全く江に面し、後は荊州府の諸縣を控へ、古來吳蜀の門戸たり、土地平衍にして、到る處沼澤を見ざるなく、其の形勢恰も和蘭に似て、市街の如きも大堤を以て之れを圍繞し、家屋は悉く其の堤下にあり、汽船の碇泊する所は市街の東南端にして、是れより堤上一街をなす、頗る雜沓を極め、道路や、清潔にして、他の城市に比すれば、其の幅頗る廣濶なり、本邦居留地は沙市街頭盡る處の東南にあり、本邦領事館及び郵便局あり、通商日尙は淺きを以て、貿易盛ならざれども、西は蜀江に接し、北は襄陽に通ずる要路に當るを以て、前途有望の商港たり。

黃州府は漢口より下流揚子江の左岸にあり、此地は古へ蘇東坡の貶せられて刺史となりし、黃州にして有名なる赤壁山は府城の西北漢川門外にあり、吳の周瑜が魏の曹操の兵船を焼きし古戰場にして、蘇氏此に遊で赤壁の二賦を作れり。

施南府は揚子江南一帶の地を占む、治下六縣を領す、地苗疆に屬し、烟瘴の害頗る劇なり、地悉く砂地にして、種植甚だ難し、從て農耕の業盛なりと云ふべからず、府城は湖南貴州に入る要路に當るを以てや、繁盛なり。



宜昌府は荊州府の西揚子江沿岸の地を占め府城は揚子江畔に瀕し漢口を距つる三百六十三哩の地にあり其の位置水陸の要衝を占め運輸頗る便なり人口約三十五萬あり此地溪流多くして夏日は皆な舟楫の利あり其の水源稍遠くして最も便なるは監江長橋の二水なり府周繞らすに城壁を以てす城内府廳縣廳道臺委員出張處電報局の諸衙門あり城内の各街は商業盛ならず只南州父昌中水鎮川北庄の五門外には各支那船碼頭ありて蜀楚上下の大船巨舶皆之れに碇泊して熱鬧を極む此地は斯く水陸の要衝に當るを以て兵亂ある毎に必ず其害を蒙る長髮賊の亂殊に甚だしく其害を受けたり故に外人に對する嫌惡の情今尙ほ甚だし一八七七年英清の芝罘條約に依り蕪湖と共に開港する所に係り爾來已に二十八年の星霜を経るも貿易更に盛大に赴くの望あるを見ず

湖南省

湖南省は北は湖北省に境し東は江西省南は福建江西兩省西は貴州四川に境す面積二十一萬六千方杆人口二千一百萬南嶺の脈省の南境を東西に走るを以て南部は山岳重疊すれども北部洞庭湖の周圍は廣漠たる平野相連り地味極めて肥沃にして農業盛に行はる全省の河流皆な洞庭湖に注ぐ其中湘江沅江資江

を以て大なるものとす衡山は五岳の一にして衡山縣の西にあり舜の南巡して至りし所とす氣候溫和にして寒暑共に強からず風俗最も慍悍にして氣節を重んじ上下文學を貴び士林多く俊英を出す近世清國の政治家として目せられたる會國藩左宗棠の如き皆な此地より出でたり

長沙府は洞庭湖口より湘江を溯ること上流六十里にあり本省の首府にして湖南巡撫此所に駐在す湘江其前を流れ船舶輻湊の要地たり近年我が湖南汽船會社が定期航通を開きし地なり一千九百四年初めて開港場となる蓋し湖南に於ける一大市場なり我が領事館あり府内富豪多し從來排外思想盛なりしが近來大に開發し來れり汨羅は此近傍にあり

岳州府は洞庭湖の東岸に瀕す湖南咽喉の要地なり岳陽樓は府城の門樓なり開港場たる埠地は舊城内を距る大凡六哩なる城陵と云へる所にあり城陵は揚子江より洞庭湖に入る所の岬端にあり

常德府は洞庭の西南畔にありて沅江の左岸の地に位す本省屈指の都會にして彼の有名なる武陵桃源は府下桃源縣にあり又壺頭山は桃源縣の西にあり馬援の戦て利あらざりし所とす滄浪水は滄山浪山より發源して龍陽縣の西を流



る。屈原が滄浪の歌は即ち此地なり  
 寶慶府は資江上流の地を占め府城は資江の河畔にあり地苗疆に屬す風俗最も聞を好み往々生命を顧みざることありといふ  
 衡州府は寶慶府の東にありて府城は湘江の左岸に位す衡山は同名の縣西にあり五岳の一なり七十二峰を有し其中祝融峰を以て最高とす  
 辰州府は常德府の西南にありて府城は沅江の左岸に位す  
 永州府は本省極南の地を占め湘水は府北を流れ湘口に至りて瀟水と合す河水極めて清澄なり府城は湘江上流の右岸に位する山間の一邑に過ぎざれども陸路廣西に通ずる要衝に當るを以て稍繁盛の狀を呈す愚溪は府の外にあり柳子厚の筆によりて其名著はる

四川省

四川省は東湖北湖南に接し南は雲南貴州に隣り西は西藏に境し北は陝西甘肅の二省に接す面積五十六萬六千方斤にして十八省中最も廣し人口六千七百七十萬所謂古の蜀の地なり西部には横斷山脈南北に連り北部には秦嶺の餘脈連互して其間にリヒトフーヘン氏の所謂赤色盆地と稱したる成都盆地あり

揚子江は横斷山脈の溪間を南下して雲南の境に至り急に方向を變じて省の南部を東西に貫流す珙江。鴉壩江。嘉陵江は皆な揚子江に注流する支流にして揚子江と共に本省の四大川なるを以て四川省の名あり成都府以下は小舟を通ず其の湖北省に入るの境に巫山の峽あり又陝西より秦嶺の脈を越えて本省に入るに有名なる蜀の棧道あり域内地味肥沃にして物産豐饒なり嘉定縣の鹽井は有名なる内地食鹽の供給所なり其他鐵及び石炭少からず氣候西北部は稍不良なれども西南の部は極めて順良なり風俗温和にして伶俐なり  
 成都府は四川省の首府にして成都盆地の中央に位し四川總督此處に駐在す規模廣大人家稠密商業や、盛なりと雖も重慶の如く大取引の商業行はれず之れを我國に比すれば重慶は大阪に似て成都は西京に類する所あり生絲の産出浙江江蘇に次ぎ且つ精良の名あり又絹布の産額夥し  
 重慶府は四川省の東南部に位し揚子江と嘉陵江の會合點にあり揚子江口を溯ること一千四百哩の上流にあり馬關條約によりて開きたる四港の一にして長江沿岸最終の開港場とす此地は本省唯一の商業都府たるのみならず又雲南貴州兩省に對する百貨集散の一大關門と稱す可きなり市街は三面皆な江流



に圍繞せられ全く半島形を爲し周圍凡五哩水面を抜くこと約一百尺あり城壁堅固にして城門十七あり其中太平、東水、朝天の三門の通り最も繁華にして四川、湖南、湖北、雲南及び貴州の船舶輻輳し貨物の上下甚だ頻繁にして數多の間屋軒を接せり府下培州は大江の南岸に位し大厦高樓櫛比し涪陵江其東を流れて長江に會す人口凡六萬商賈輻輳の要區とす會館倉庫軒を列ね船舶の往來織るが如し

此地の氣候は冬季は寒威甚だ強からず寧ろ溫和の候多くして極寒中と雖も華氏四十度を降ること稀なりといふ。古來八省の通衢五方雜處の地にして貧富善惡居を接し軒を並べ習俗頗る輕佻浮華且驕奢の風なり

順慶府は嘉陵江の左岸に位し重慶より保寧府に通ずる要路に當る地味肥沃にして農耕甚だ盛なり

保寧府は順慶府の北にありて嘉陵江の東岸に位す府の北方に劍門山あり蜀地北境の要害にして劍閣の稱あり所謂蜀の棧道是なり

夔州府は湖北省に近く揚子江の北岸にあり臥龍山其後に聳え瀨水其東を流れ峽江間に於て萬縣に亞ぐ繁華の地と稱すれども其の物産は製鹽の外僅に索

麵を出すのみ此地は宜昌重慶の中間に位し税關ありて往來の貨物に課税す故に船舶必ず此に碇泊し長きは五七日短きも二三日間の淹留に逢はざるなく爲めに船舶の輻輳するもの其數を知らず夔州府衙門提督學院府學院縣學等あり民俗淳朴士人學を好み衆庶最も諸葛孔明を敬重し毎年陰曆正月七日必ず武侯を祭るといふ府下巫山縣に巫山峽あり三峽の一にして揚子江中舟行最も險惡の處とす又萬縣は長江中繁昌なる大埠頭に於て水陸共に重慶に至る要地なり商業最も繁盛にして人口凡十五萬あり縣城の西に太白岩あり古李白讀書の所と稱す

忠州は直隸州の一なり城は山腹にありて南面長く大江に連り市街頗る繁華にして江道の要地なり人家は熱帶地方に繁茂せる榕樹の間に相列り他の府縣城と大に其趣を異にせり

鉞州府は珉江と金沙江の合流點にありて商貨輻輳の要地なり民質朴直なりと云ふ

瀘州は直隸州の一にして鉞州府の東に位す大江の要津に當り物貨輻輳し重慶に次ぐの市場なり



資州 は成都府の東五十里にあり其内江縣は砂糖の産額頗る多く且處々に製鹽場あり人民富裕にして百貨輻輳す重慶より成都に至る陸路中第一繁盛の地とす

嘉定府 は岷江の西岸にありて長江筋より成都に輸入する貨物積替の地にして市場や、賑へり又生絲、絹布、白臘等の産物あり峨眉縣の西南に峨眉山あり兩山相對して恰も峨眉の如し實に絶景といふべし詩の所謂「峨眉山月半輪秋影入、平羌江水流、夜發西溪、向三峽、思君不見下豫州」なるものなり

打箭爐 は嘉定府の西北にありて本省の殆ど西境に接す本部より西藏に入る道路に當り西方との貿易行はる近年佛人リットルなるもの盛に藏人と貿易せり又廣東商人等の來りて貿易を營むものもあり

### 貴州省

貴州省は四川省の南方に位し東は湖南省、南は廣西、西は雲南の四省間に介在せり面積十一萬四千平方杆人口七百六十五萬あり支那山系の連嶺西南より東北に向て本省を横斷す其西にある者を鳳岑山脈、西にあるを塘山脈といふ共に高臺性を帯び高度甚しからずと雖も幾多の皺曲山脈相連るを以て一般に高臺を

なし平地は僅に貴陽の平原あるのみ然れども揚子江の支流なる涪陵江ありて水利少からず。氣候不順地味劣等にして物産多からずと雖も礦物に富み殊に水銀を多しとす民慄悍にして苗族多く未だ蠻習を免れず諺に「三人無善人三日無晴天」の語あり以て氣候及び人情の不良を知るに足るべし

貴陽府 は本省の首府にして北京を距る西南五百八十八里にありて四縣三州を管す雲南街道の要衝に當り雲貴總督並に貴州巡撫此處に駐在す故に本省行政の中心となり稍繁華の都會なり東方湖南を経て入り來る貨物は鎮遠府より又南方廣西を経て入り來る貨物は興義安順兩府より共に本省に集りて商業稍盛なり此地は交通不便にして久しく盜賊の巢窟たりしが近時漸く交通開くるに至れり附近茶を多く産す

思南府 は本省の東北思印江涪陵江の流域を占め府城は思印江の西岸にありて安化縣に屬す本省北方の重要なる一地點なり其の物産は硃砂、水銀等とす思州府 は思南府の南方にあり府城は湖南省沅州府に近く位し古は商業の稍見るべきものありしも今は全く其商權を鎮遠に奪はれたり府の東北に平溪、魚の二關府の南に黄土の關を設けて輸入を監視せり



鎮遠府は思州府の西隣に位し府城は鎮遠縣にあり湖南より來る上海市場の貨物は一度此の府に集りて後貴陽に送られ各地に分配せらる、を以て其の繁盛の度貴陽に亞ぐ風俗質朴にして禮貌を知らず其の物産は方竹棉花等とす

銅仁府は思南の東南思州の東北にあり府城は湖南の境に近く位し思州思南及び湖南の沅州府に通ずる道路の集合點に當ると雖も此附近地勢險惡道路不良にして商業の見るべきものなし有名なる天生橋は府北にありて石甍橫互溪上橋の如し又銅仁太江及び小江は東南及び西北より府城を狭みて流る

黎平府は貴州省の東南隅の地を占め府城は廣西湖南の境に近き所にあり山間の一邑に過ぎざれども古五代の時田氏の根據地ありし所にして要害の地なり有名なる摩天嶺は府東に聳立し福祿江は苗地より出でて東に去り彩江となる

安順府は貴陽の西にあり鎮遠と共に貴陽府の東西門をなせり即ち廣西を経由して入り來る香港市場の貨物は一度此府に集りて後貴州府に送らる、を常とす故に本省第三の都會なり

興義府は本省の南端に位し廣西に通ずる衝に當り安順府に入る貨物は此地

を通過するを以て商況稍見るべきものあり

都勻府は貴陽府の東南に位す湖南經由の貨物は天柱府に集り當府に來りて附近の各地に分配せらる、を以て商業稍盛なり此地古より廣西街道の衝に當るを以て北に平定關西に威鎮關を設けて共に出入を監視せり

平越府は鎮遠と貴陽の中間にあり馬場江其の東を流れ其水急湍奔騰恰も湧くが如し府は廣西に通ずる道路の分岐點に位するを以て稍繁盛なり

雲南省

雲南省は北は四川省に接し東は廣西貴州の兩省南は東京老撾及び緬甸に界し西は西藏に接する清國の西極なり全省の面積三十八萬平方杆人口一千百七十萬地勢西境は西藏より南走する高峻の橫斷山脈駢走して稍東南に開け一般に山多く平地少なし唯西部には怒江瀾滄江盤江金沙江等の上流水ありて橫斷山脈の縱谷間を駢流し其流急にして水運の利あるものなし氣候概して不良晴雨常ならず甚だしきは一日の中に四季の變化を見るの地ありといふ風俗質直なり物産は金銀銅其他礦物性のもの多し

雲南府は本省の首府にして滇池の北岸にあり雲貴總督此所に駐在す民王法



を敬し禮義を重す商業繁盛の都會なり  
 大理府 は雲南の西にありて洱海の南岸に位す洱海は形人耳の如し風俗氣節を崇び豪俠の風多し此所多く精良なる寒水石(Marble)を産す即ち世に大理石を以て通稱せらるゝものなり  
 臨安府 は黒龍湖の東岸に位し邊陲の保障たり風俗稼穡を務めて鬭争を事とせず蒙自縣は東京河の上流なる盤江(一名紅河)の上流に位置す一千八百八十六年追加天津條約によりて陸路貿易場となりたるものなり人口僅に一萬を有し渺茫たる平野の中央にあり此地本と蠻地目則山といふ漢誤つて蒙自と名づく海面を抜く殆ど四千五百尺城市はマンパフより二月間の行程にして安南の境より十八日の行程にあり嘗て繁盛なりしが往年回教徒の亂以來民物蕭條として今に之れを回復する能はず其他騰越思茅の開市場は貿易の條に述べたり

### 滿洲

#### 位置及面積

滿洲 嗚呼滿洲は目今我國運を賭し多大の犠牲を捧げて露國の南侵を抑制し東洋の危急を救ひつゝ、あり我同胞が掃風沐雨の勞に服しつゝ、ある此滿洲は清國領土の最東部にして東經一一七度五〇分なる呼倫池の西北より同一三五度二〇分なる黒龍江と烏蘇里河との會點に至り北緯三八度四〇分なる旅順の岬より同じく五三度なる黒龍江の右岸に於ける額穆爾河口に至る間に位す西は額爾古納河の什爾喀河と合する所より此河に沿うて溯り呼倫池に至るまでの線を以て露領後貝加爾州と界し是れより以南は東方に彎曲して長城を含み山海關に至る線を以て内外蒙古及び直隸省の東北部と界す北は額爾古納河の黒龍江に合する點より黒龍江に沿うて烏蘇里河口に至るまでの線を以て露領黒龍江州に接す東は烏蘇里河口より此河を溯り其上流なる松阿察河の流出する興凱湖を南に横斷して白稜河に至り是れより山脈を辿りて湖布圖河口に出る瑯春河と海との間の小山脈を過ぎて圖們江口に現はれ江を溯りて其發源地より鴨綠江の上流に出で更に下りて其江口に至る線を以て露領沿岸州及び





韓國に境す。南は鴨綠江口より山海關に至るまで黄海及び遼東海に濱す

斯の如き境界線にて包圍せらる、滿洲は約三十六萬三千六百方哩の面積を有し政治上分ちて三省とし北に在るを黒龍江省中間を吉林省南部を盛京省と云ふ

地 勢

滿洲の山脈は之を二大系統に屬せしむる

を得べし不咸山脈及び興安嶺山脈是れなり

(一) 不咸山脈或は長白山脈とも云ふは南滿洲に蟠延する大山麓にして高さ三四千米に達し四時白雪を戴き且險峻なり是より分派する主なる山脈四脈あり長白山、千山、完達山、小白山是れなり以て吉林、盛京二省の地を形成す

(a) 長白山脈は南は韓國の境上に聳立し松花、鴨綠、圖們の三大江發源の地にして一は北に延びて小白山と連り更に松花江城を横斷して奉天の北吉林の南に小高き波狀の庫勒嶺山脈を隆起す

(b) 千山山脈は西南に長く延びて盛京省に入る一脈にして遂に西南に挺出して一大半島を形成す之を遼東半島とす是れ即ち盛京省を東西兩部に別つ山脈にして其北部にありて太子河と遼河との分水背となるを摩天嶺と云ひ草河口より遼陽に越ゆる嶺なり明治卅七年七月一日我第一軍之を占領す其南に鐵嶺あり又其の南大洋河と蓋平河との分水背となるを分水嶺と云ひ岫巖より大石橋に越すものにして明治三十七年六月廿七日我第四軍之を占領す其南に新開嶺あり岫巖より蓋平に越す時たり此等の時は日露の役我軍が露軍の防禦陣地を破りつ、難行軍せし山地なり



(c) 長白山より東北に走るを完達山脈と云ひ露領沿岸州を南北に隆起する錫赫特、アリン山脈と相對して其間に興凱湖の盆地及烏蘇里の流域をなす此山脈北は黒龍江を越えて西伯利に至り西は山勢漸次緩にして松花江に臨む

(d) 小白山脈は長白山彙より吉林省の中央を西北走する緩漫にして北西方に漸次低くなりて終に平原の如くなる森林鬱乎たる山脈にして東北完達山脈との間に虎爾哈河西は興安嶺山脈と遙に相對して松花江上流の流域を形成す

(二) 興安嶺山脈は亞細亞の東部に於ける一大山脈にして既に記せし如く崑崙山脈の系統に屬するものなり而して滿洲に於ては黒龍江省西北部に於て東南より北西に走る大山脈となりて現はれ後貝加爾州に至る斯くて北氷洋に注入する諸川と東太平洋に流下する諸江河との分水嶺をなす

此山脈平均の高度七八百米、雪線に達するものなしと雖も緯度高きが爲めに山谷には千年未だ消えざる氷田を有する所もありて人の足跡未だ到らざる所少なしとせず、一支は延ひて黒龍江の右岸に達するものを伊勒呼里山脈と云ひ更に一支の南東に走りて本脈との間に嫩河の流域を成すものを本脈に對して東興安嶺山脈と云ふ、東興安嶺は高度本脈よりも小にして此山中の一路愛琿より

墨爾根に通ずる如き著しき峠なく其他の部分も概ね峻状の山脊なり、南端に烏雲和爾冬吉と稱する噴火山あり是れより松花江の左方を東北に走る山峯を小興安嶺山脈と云ひ延ひて黒龍江を越え西伯利に至る

### 江河

滿洲に於ける水系は大別して黒龍江、松花江、其支流烏蘇里江及び遼河、圖們江、鴨綠江の五とす、黒龍江、烏蘇里江の二流は露領と接し、圖們、鴨綠の二江は韓の境に在りて何れも皆相應の流域を有すと雖も、滿洲の利害を左右し滿洲を支配するものは松花江と遼河となり

松花江の源は長白山の西北にあり北東流して伯都訥の北にて、東西興安嶺の間より來れる嫩江を入れて東に屈し更に三姓の西に於て長白、小白二山の間に發源し東北流して來れる虎爾哈河を入れ東流して黒龍江に合す、松花江流域は北滿洲の富源なり平原あり森林あり都邑あり以て數多の住民を收容す、都邑に名高きは墨爾根、齊齊哈爾、哈爾濱、伯都訥、吉林、寧古塔、三姓等あり

遼河は其源東西の二流あり西なるを潢河と云ひ內蒙古より來り東なるを西喇木倫と云ひ長白山中に發源し昌圖の北を西南流し開原の西に於て相會し南



流して奉天府の南を西南流する有名なる渾河を入れて遼東灣に注入す、遼河の流域は南滿洲の平野にして昌圖、開原、鐵嶺、撫順、大石橋、奉天、遼陽、海城、蓋平、牛莊、營口、新民屯等は有名なる都邑なり

松花江は北滿洲を支配する、大江にして北流し水流緩にして水運に適し、小汽船は江口より二百五十里の伯都納までも溯るを得べく、而して水清くして魚族豊かなり、遼河は南滿洲を支配する、大河にして南流し水勢急にして水運の便少く、河水混濁して魚類少し、以て二江河の對比を見るべし、而して前者は北に黒龍江を控へ、後者は南に海を擁す、兩者の對比、興味ある研究の好材料たり

産物

滿洲の大部分は石灰質粘土、泥灰石、軟骨動物の殻等を含む土壤より成るが故に植物の生育には最も適する地味なり  
されば樹木よく繁茂して大森林をなす所多く、伊勒呼里山脈より嫩河の流域には針葉樹の松類多く、青楊、樺、槐、樺、樺、菩提樹等繁く、小興安嶺、完達山脈の邊にては更に榆、野葡萄、薔薇、桑、柏、椴、梓等も見得べし、而して長白山より小白山、吉林、哈達の邊に滿洲中著名の森林地にして、深林密樹參錯羅列し、日光も通さぬ程繁茂し、皆

概して松柏の大樹にして、内に滿洲植物中の貴重品と稱する人參、額爾和多 *Olio*、  
*ゴ*も發見するを得べし

農業植物 として著しきは、苳菽類、黍類にして前者は最も豊かに滿洲の一大富源なり、黍類の一種たる高粱は住民唯一の食物として到る處に栽培せられ、莖は屋根を葺き燃料に供する等用途極めて廣き最も重要な農作物なり

此他大麥、小麥、燕麥、蕎麥、玉蜀黍、麻、烟草、粟子、葱蒜、胡椒、馬鈴薯、人參等栽培せらる、實に農産物は滿洲産物中第一位を占む

動物 には虎、豹、狼、熊、黑貂、栗鼠、兔、野猫、獺、鹿等の野獸あり、又雁、鴨、水雞、鷺、雪雀、白類、鳥、鶺鴒、燕、鳥雀等之を森林、江河の邊或は村落に見出すを得べく、概して滿洲は動物に富み好適の狩獵場たり

鑛物 も滿洲には豊かなり、鐵は遼陽州の東北一里程の鐵馬集近傍に出で、錦州、開原、興京には金坑あり、遼陽の本溪湖、牛心台、王子溝、紅、檢溝の數所よりは無烟炭を出す、其他金州、大連灣及び太平洋の東岸等よりも石炭を産す、日露開戦以前露人の開掘に従事せるものニヶ所、撫順の千山台炭坑は其一にして、露清銀行之を開掘し、他は烟台炭坑にして、東清鐵道會社の經營に係れり、何れも炭質不良にし



て軍艦用に供するに堪へず

砂金産出の有名なる所は黒龍江のアルバシンの對岸瑚瑪爾河近邊の抽特哥(意なり)吉林省の東北三姓の東約四十里にニヶ所ありて南の泰平溝其北三里なる皮溝兒及び松花江の上流吉林の南三十里の地是れなり

氣候

滿洲は同緯度の他國と比するに氣候寒暑の差甚だ大なり冬の滿洲は寒氣極めて烈しく南端海岸の旅順にて平均攝氏の零下六七度興安嶺の西北の如きは零下五十度にも及ぶことありて水銀爲めに氷結すと云ふされば諸江河は概ね十一月下旬氷結し三月中旬に至らざれば融解せず

夏の滿洲は比較的高溫度を有す哈爾濱の如きは滿洲の最寒地の一なれども比較的高さ溫熱を要する野菜藥物等成熟す而して盛京省地方は苦熱を極む滿洲に於ける日露戰地の溫度に就ては永山少佐は明治三十七年六月遼東半島上陸以來三十八年五月に至る滿一年間毎日午前六時午後二時八時の三回觀測をなして余に惠贈されしものによれば高溫の極數は七月十三日の三十九度にして之に次ぎ六月二十五日の三十八度五同二十六日の三十五度七月六日の三

(1) Albasin

十四度九月三日の三十三度五同月二日の三十三度等にして八月は却て五日の三十二度六日の三十二度を高溫和せしのみ

氣溫の始めて氷點下に降りしは十月二十七日の午前六時にして十一月十四日以來は毎朝必ず氷點下に降り十二月八日以來は觀測時三回とも會て氷點以上に昇りしことなく而して一月二十九日午後八時に最低氷點下二十二度に下り翌三十日は午後二時にも氷點下二十二度にして之を滿一年間の最低とす

以上の成績によれば戰地大連以北奉天以南の氣溫は夏季の高溫は我國に比すべき地なく(絶對高溫は金澤三十八度五熊本三十八度三等なり)冬季の最低溫は銅路氷點下二十七度八網走氷點下十九度三等の間にありて十勝氷點下三十一度三上川氷點下三十二度一の如きは尙遙に低溫なりされば戰地は夏に酷暑にして冬は第七師團管下に比すれば却て凌ぎ易き溫度と言はざるべからず

雨量 毎年七八月の頃は滿洲の雨期にして一齊に霖雨となり江河爲めに漲溢し濃霧四塞すされども中には早魃打ち續く寧古塔地方の如きあり之を要するに滿洲は冬甚だ寒くして最も長く夏は雨霧多くして短期なれども暑熱酷く春秋兩期は最も短くして各一月に過ぎず



住民

滿洲の住民は滿人即ち通古斯種にして昔は北方之強と稱せられ戰を能くし漢人の恐れたる者なり然れども南滿洲人は甚だ軟化し亦昔日の概なし又漢人の雜居によりて種族も大に混同せり但し烏蘇里江畔に住める鄂魯春人及び松花江畔の瓦爾哈人は純粹の通古斯種ありと云ふ

抑滿洲の面積約三千六百万方哩此上に住する人約一千五百万と稱せらるれども政治普く行はれざる爲めに精密なる數を知ることは三省に於ける人口分布の比例は盛京省七百萬吉林省六百萬黑龍江省二百万と見ば大差なかるべし而して比較的稠密なる地方は松花江中流の沿岸地方即ち哈爾濱伯都訥三姓に至る一帶と吉林より奉天遼陽を経て牛莊及び遼東半島に通ずる沿道地方と濱海一帶の地方にして稀薄なる地方は興安嶺の西北方露領に接する一帶の地及び朝鮮咸鏡道に接する山地是れなり

滿洲は平均一平方哩に約四十一人の割合なれば之を我日本の一平方哩に付き約二百九十二の人口に比すれば滿洲の住民は之を全面積の上より見るときは寥々たること曉天の星の如きなり

商業

滿洲の地たるや海岸少なくて面積廣大なるも巨江細流全土に瀾瀾し四通八達の水路良く三省の地を相連絡するを得ること難からざるべきも住民未だ斯る江河を利用するを知らず交通機關は天然の道筋及び水路に任せ敢て人工を加へざれば馱馬舟楫孰れも數多の日子を費し殊に降雨期には江河溢れて舟楫の便絶え道路泥濘にして車軸を没し交通中止せらるゝこと珍しからずのみならず滿洲には馬賊の出沒常なく遠路商品の運送危険甚だし且又清國の貨幣制度整頓せず多數の通貨並び行はれ國境内地所在税署を設け其處を通過する商貨に對し毎に税金を課し其手數と費途とに於て商估の不便言語に絶す

住民生活の程度猶未だ卑きが爲め商業上の取引品も亦從て簡單なり主なるものは粒穀木綿織物毛布燒酎豆油木材等の日用品多くして奢侈的物品極めて少なし而して商業は一般に都市に集中し其周圍の村邑は各要品を時々都市に出で、購求するに過ぎず

然るに一朝西伯利鐵道の滿洲を横斷して浦鹽斯德に通じ東清鐵道の哈爾濱より旅順に滿洲を縦貫するや交通頓に開け商業の有様又一變するに至りぬ譬へ



ば南滿洲の關門たる營口に多年來貿易の關係を有せし英米日の商品は忽ち其輸入額を増加し、北進して今や露領に近き海拉爾地方にてすら米國の雲齋織英國の金巾、日本の綿練燐寸等販賣せられ露國製の木綿織物鐵器等販路を擴め、南滿の商品亦大に其數量を増せり

都 邑

滿洲は人口の密度小なりと雖も古き歴史を有する地方なるが故に各所舊蹟に富み都邑村落亦少なからず今各省につきて其主なるものを列記すべし  
盛京省

旅順 本省の最南遼東半島の尖端に在る市街にして又東清鐵道の極南點なり而して好個の軍港、堅牢の要塞たることは世人の知る所なり此港の佳良なるは英國海軍大尉アーサー氏の發見なるを以てポートアーサー Port Arthur と云ふ日清戰役に我軍之を攻陥し一旦我版圖に入りしも露獨佛三國の忠言を容れて清國に還附せり然るに露國は數年來清國を劫かし滿洲併呑の準備として喀希尼密條約を結ばしめ露清銀行を設立し東清鐵道會社を起業し南侵の機充分に熟せる時に當り明治三十年獨逸が膠州灣を占領するや露國は極東の權力平均

の名の下に旅順を占領し翌年旅順及大連灣の租借條約は露清兩國間に結ばれたり爾來旅順は純然たる軍港要塞となり堅牢無比の砲壘砦堡を築造せられ露國太平洋艦隊の鰲鱓巨艦は此處に收容せられ以て東洋を睥睨したり然るに日露の戰役に我軍海陸之を攻圍し數萬の人命と八閱月の勇戰とを以て遂に陥落せしめ爾來我要塞地たり遺恨十年磨滅の旅順は今や落ちたるか  
我軍の旅順を攻圍するや海には港口閉塞の壯舉あり陸には二〇三高地占領の如き劇戰あり以て遂に開城の止むべからざるに至らしめたり乃木大將爾靈山(二〇三)の詩あり

爾靈山險豈難攀、男子功名期克艱、鐵血覆山山形改、萬人齊仰爾靈山。

大連 是金州半島の東南、大連灣の西南岸に在りて北岸の柳樹屯と相對す元と青泥窪と稱せしが明治三十三年露國が東清鐵道の終端に於ける世界的貿易市場として新に開設せし商港にして名をダルニー(絶東市)と改め築港市街の規模甚だ宏大なり、明治三十七年五月我第一師團の中村覺支隊柳樹屯を占領し續て六月此地をも占領し名を大連と改められたり、市街の面積約二平方里、明治三十六年度調査の人口四萬三千あり、此市の氣候冬は乾燥し寒冷なるも聶氏氷點下



十七度を下らず、冬季約二週間は薄氷を以て灣面を封鎖すれども氷の厚さ四寸以上に及ばず、小汽船舳舟の航行を妨げず、夏は濕氣多く、雨霧四塞すること屢なるも海風徐ろに來りて暑熱を和げ、氣候爽快にして健康に適す、大連灣を隔て、北岸に柳樹屯あり、露國租借地の一なり、元と一小濱村に過ぎざりしも、一旦露國の經營する所となるや、忽ち盛運に向ひ、東清鐵道の一支線は大瓦身より來り、貨物の集散船舶の出入瀕繁なり。

魏子窩。大連市の東方二十里許に在り、人口八千を有する一商港なり、此の附近の猿兔石は日露の役我が第二軍(奧大將)の上陸地點たり、其東北なる花園溝は日清の役我軍の上陸點にして尙ほ其東北太平洋河口に近く、大孤山の港あり。

金州廳。金州半島の旅順に對する咽喉に當り、要害比なし、東清鐵道の要衝にして市街は城壁を周らし、支那都府固有の特徴を示す、日清日露兩役に我軍の占領せし所なり、人口二萬有餘、其附近に日露激戰場たる南山あり、乃木大將詩あり。

山川草木轉荒涼、十里風腥新戰場、征馬不前人不語、金州城外立斜陽。  
復州。商業地にして人口二萬五千餘、城内には官衙兵營及び耶穌教會堂あり、近傍石炭の産出あり、其東なる得利寺は日露戰役の激戰場にして我軍大勝利を

得て露軍の旅順赴援の企圖を挫折せし所なり。

蓋平。古の蓋平城にして、人口三萬餘、西南二里餘にして蓋州河口に達す、以て水運を利用し得べし、其南に熊岳城、北に大石橋あり、大石橋は旅順を距る我六十九里にあり、鐵道の分岐點にして一は營口、錦州、山海關を経て北京に通じ、一は遼陽、奉天、長春を経て哈爾濱に至るべし、其北に海城あり。

鳳凰城。奉天、牛莊等より韓國義州に至る要路に當り、定期市ある商業地にして、東南は九連城、西は秀巖、柞木城、北は饒陽邊門、賽馬集等の新戰場に到るを得べし、此城斯の要衝に當るを以て我軍常に先づ之を占領したり。

遼陽州。奉天の南十七里、渾河の一支太子河の南に在りて城壁を有する都府なり、人口一萬五千に過ぎざるも交通の要路に當り、東清鐵道南北に縦貫し、南は旅順(二百二十四哩)、天連、北は奉天(二十九哩)、哈爾濱(三百四十四哩)、東は鳳凰城、義州より韓國に、西は牛莊營口に到るを得べく、且北方數里にして烟台の炭坑あり而して周圍に肥沃の農産地あり、物資の供給裕かなり、故に露國は此處を一大策源地とし、其前進陣地を首山堡に構へ、日本軍を防止せんと試みたるも、我軍の勇猛なる攻撃に堪へ得ずして、其死傷二萬五千餘の損害を被り、多大の軍器糧秣と共に



日本軍に明け渡せしは明治三十七年九月のこと、す之を遼陽會戰とす

營口 遼河の左岸にある南滿洲の重要なる貿易港にして河口を溯る十三海里に在り鐵道東西に通じ遼東平野の咽喉なれば商估取引も盛なり殊に日露開戦後の貿易は一層盛になれり人口六百餘市街廣潤なり日露開戦以前露國の民政廳ありしも今は亡し日本の領事館正金銀行支店三井物産會社支店等ありて船舶の出入頻繁なり(開港場參看)

牛莊 は遼河の左岸に在り其昔は一の貿易港たりしも遼河の沖積作用盛にして河口三角洲の發育速なるを以て今は數哩内地に退き港の權利は營口のため

に奪はれたり

錦州府 は遼東灣の西方小稜河に互る市街にして人口七萬餘奉天山海關間第一繁華の地たり關外鐵道は此地を過ぎて小板橋に至りて分岐し一は新民廳に

一は營口に向へり

新民廳 遼河中流の右岸に在り奉天より十三里關外鐵道の通ずる所貨物の集散盛なる地なり日露戰役に露軍が屢清國の中立を無視して此處に物資の供給を仰ぎたりき

奉天府 は即ち盛京にして清祖發祥の瑞地と稱して宗廟の存する所たり遼河の支流瀋河の陽に濱するを以て一に瀋陽の名あり旅順海岸を距る二百五十三哩の内地にあり堅固の城壁巍然たる八個の城門中空に聳え四個の角樓幽靜森巖なる境内に規模宏壯たり太宗の廟及殿堂伽藍等今や頽壞せりと雖も清朝昔時の盛大を偲ぶに足るべく人口稠密店舗軒を並べ熱鬧沸く如き市街は以て現時の繁昌を知るに足るべし人口約三十萬餘滿洲の政治的中心地にして奉天將軍此處に駐劄し全滿洲の主宰者たるべき權能を有し文武の大權を握る北方二里餘にして天柱山の山脈を負ひ南は遼陽に互る平野あり東西は見渡す限り廣漠たる沼澤多き原野なり而して東南に渾河を控へ北方に撫順の大炭坑あり鐵路南北に通じ交通の便を極め物資の供給豊かなるが故に露國は據て以て一大策源地とし沙河大會戰に三萬餘人の損害を蒙りし以來渾河を隔て日本軍と相對峙すること四ヶ月機熟するや時は明治三十八年二月下浣より三月上旬に互り我軍長驅して露軍を包撃し川村軍は最右翼より黒木軍其左翼に連りて撫順を略し野津軍中央となり奥軍其左に在りて機を見て急に奉天に迫り而して乃木軍最左翼となり遠く迂回して奉天の後に於て五軍齊しく攻撃せしを以て



露軍は古今未曾有の大敗を取り十八萬人の死傷と山の如き軍需品とを棄て、敗走し殆ど全滅したるは三月十日なりき之れ所謂奉天附近の大合戦なり。興京は元と赫圖阿喇と稱す清太祖都を移して興京と改む奉天の東方渾河上流に在り清祖創業の地にして曾ては繁昌せしと雖も今や衰頽し商業も亦殆ど行はれず人口少なし西方二十八町に清の太祖の陵あり永陵と云ふ。鐵嶺縣 奉天の北十四里に在り市街は小なれども家屋稠密商業甚だ盛なり、人口二萬五千餘あり日露戦役に奉天を占領するや我急先鋒は三月十六日之を占領したり。

開原縣 鐵嶺の北方に在り高き城壁を周らせる市街なり商業盛にして人口約三萬五千、西北は丘陵に接し西南は平野に臨みて、近く遼河の一支たる清河を控へ、北は吉林に通ずる街道あり東清鐵道の哈爾濱に至るありて交通の要衝に當れり鐵嶺の我有に歸するや數日の後亦我占領に歸せり。

懷仁縣 鴨綠江の一支、佟佳江の東岸に在り朝鮮内地より奉天に通ずる要路に當れるを以て我軍先づ之を占領せり其北に通化あり南に寬甸あり。

吉林省

吉林府 吉林省の首府にして松花江の左岸に臨み南は江流に瀕し西北に近く山脈を負ひ東北の一隅は江に沿うて平地を有し其間村落田畑相連る城は高き壁を周らし周回一里二十二町餘、人口凡十二萬、北滿洲の咽喉に當り黑龍江省と盛京省とを連絡する要地たり、松花江の流は能く運漕に便し商業頗る繁昌す府の南に砂金産地なる金城あり。

長春廳 一名を寬城子と云ふ滿洲商業の中心地を占め、東は吉林に東北は阿勒楚喀及び呼蘭に通じ東清鐵道によりて北は伯都納、哈爾濱に至るべく、南は開原、奉天に達すべし、殊に土地開濶にして肥沃、四周田園相連り、人口亦十萬有餘、商業盛大なり、家屋相櫛比し、吉林、黑龍江二省の物産此處に輻輳し、其繁昌吉林を凌ぎ滿洲の金庫と稱せらる、取引する物貨は高粱、大豆、豆油、豆餅、燒酎、木材、藍靛、木綿、阿片、織物、人參、毛皮等なり。

伯都納 一名を新城と云ふ松花江の左岸に位し、人口約四萬、商工業地にして銀行、商舖製造所等多く、松花江及嫩江の兩水路によりて北方の諸市に米を供給し、三姓、齊々、哈爾には小麥を、黑龍江には燒酎を、吉林及牛莊には豆餅を送付し、又木材は舟により江の下流地方に供給す。



●古塔城 吉林省の東北部、虎爾哈河の左岸に濱す、東南一帯長白山脈蜿蜒たり、西北のみ稍開けたる形勝の地なり、東清鐵道は北方約四里の處を通じ、東は琿春、浦蘆斯德、西南は哈爾濱、吉林北は三姓に通ずる道路ありと雖も土地僻在し、商業振はず、人口約三萬を有す

●三姓城 虎爾哈河の松花江に合流する東南岸に在り、人口七千有餘に過ぎざるも、市街に於ては魚獸肉、野菜、木具、鐵器等の日用品賣買せられ、又附近は有名なる砂金産地なり、松花虎爾哈の河岸は舟船の碇泊所にして穀物、木材等の取引活潑なり

●琿春城 圖們江の左岸、琿春河の左岸にあり、清、韓、露三國の境界に近き要衝たり、人口約一萬あり

●阿勒楚喀城 吉林省に於ける屈指の都會にして、人口凡五萬、西は哈爾濱、東は浦蘆に通ず、内地に於ける物貨集散地たり

●哈爾濱市 元と哈爾濱と稱する一小村落に過ぎざりしも、廣漠たる沃野の中央に位し、旅順を距ること五百六十六哩にあり、松花江の右岸に臨み、北に阿勒楚喀、西に伯都納、東に三姓、南に吉林等の諸都府あり、實に滿洲第一の富源地たる松花

江流域の燒點に位置す、されば夙に露國の着目する所となり、千八百九十七年東清鐵道の布設せらる、や、爰に一大停車場を設け、旅順線と浦蘆線、浦蘆へ四五哩との分岐點とせり、斯くて昔の一小寒村は今や規模宏大街區壯麗なる一大都府たらんとす、市街には中央停車場、寺院、諸官衙、官宅、製造所、兵營等あり、江岸には船舶碇繫所ありて、百貨輻輳、商厦櫛比し、商業取引活潑に、商品の種目も亦甚だ多く、主なるは木綿織物、鐵製品、麥酒、鑛水、卷烟草、燐寸、陶磁器、花莖、帽子、紙、木製小箱、漆器、米、麥類、麥粉、木材等なり、人口約二萬、將來最も有望の都市なり

●白彦、蘇々城 松花江の北岸二里、哈爾濱の東方平野にありて、人口三萬を有する工業市なり

●黑龍江省

●齊々哈爾城 一名を卜魁と云ふ、黑龍江省の首府にして、嫩江の左岸に在り、南方約二里に哈爾濱線の停車場あり、本省西北に於ける政治商業の中心地にして、毎年九、十月の交、歲市開け、百貨輻輳し、取引尤も活潑となる取引の主なるは牛、羊、毛皮、麥類、高粱、酒類、食鹽、豆油、木綿織物、燐寸、砂金、木材等なり、人口七萬餘と云ふ、城壁を周らす



呼蘭城 松花江の支流呼蘭河の左岸に位し鐵道線路を距る七里哈爾濱の北約十里にあり人口五萬銀行商店多く繁華の都會なり穀物雜貨豆油燒酎等を取引す

愛琿城 一名を薩哈連烏拉と云ひ或は黑龍江城と稱す黑龍江の右岸に位し小興安嶺の脈其西に蟠り露領黑龍江州に通ずる要路に當り露國との交渉屢なる故に清國政府は有爲の人材を擧げて此處に駐劄せしめ邊境の重鎮たらしむ露兵の滿洲に侵入するや先づ此地を占領したり之を滿洲樞樞の發端とす此地の商人は山西山東兩省の人民多く穀物及び獸畜を露領に輸出し密賣の砂金を買入る現時貿易盛なり人口約二萬千八百五十八年の愛琿條約を以て有名の處となれり

墨爾根城 嫩江の左岸齊々哈爾と愛琿との間に在りて水路交通の中次所たり

海拉爾城 一名を呼倫貝爾と云ふ本省の西北に在り昔は人口二千に過ぎざる一城市なりしが一旦東清鐵道の東西に通ずるや商業盛運に向ひたり齊々哈爾の商人商權を握る主なる商品は粒穀麥粉毛皮金巾綿ネル露國更紗鐵器小間物羅紗製茶烟草酒類等なり

### 蒙古

位置 境界

蒙古は支那本部の北に在りて地形東西に廣く南北に狭き無格好なる楕圓形を爲せり

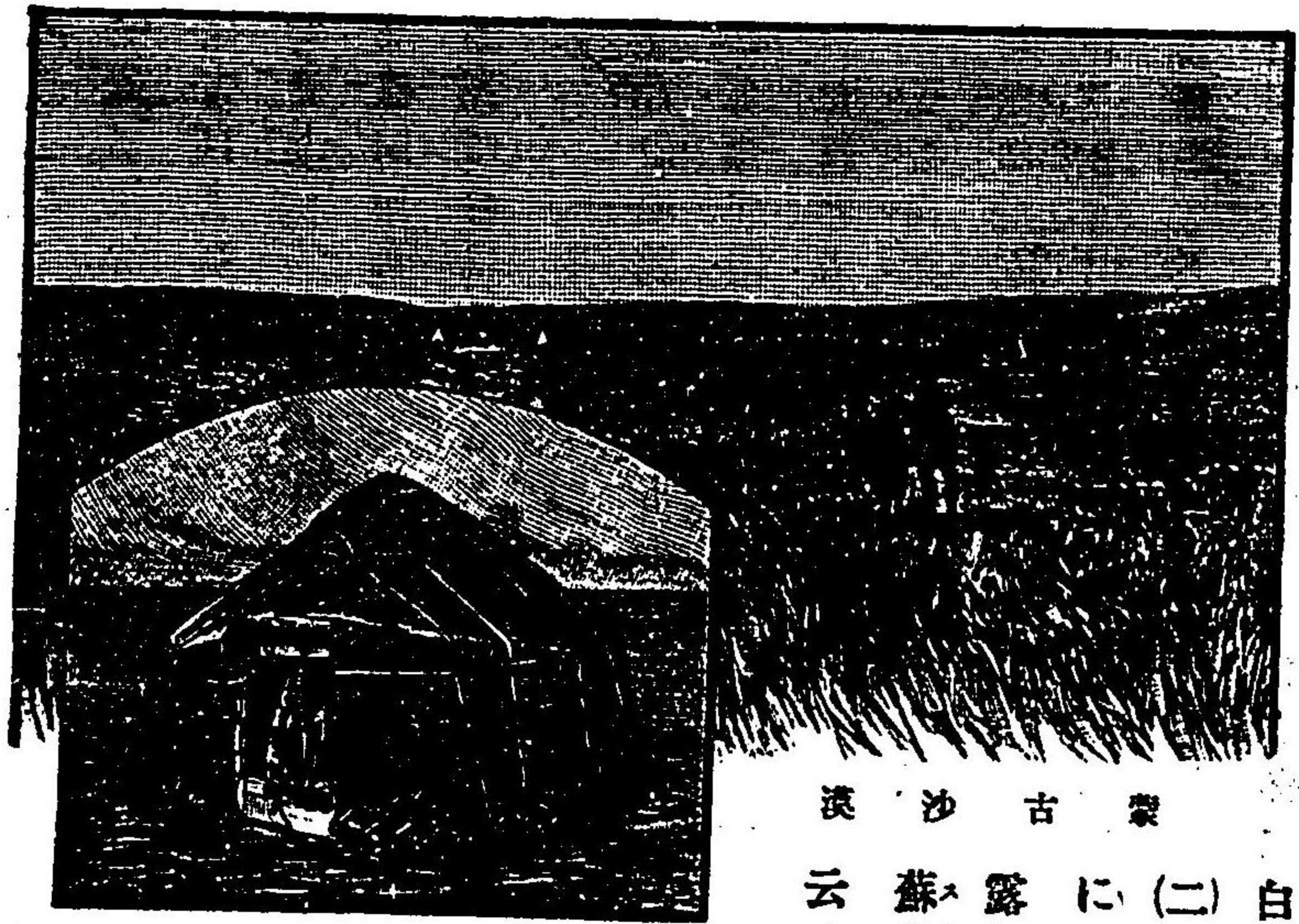
北は阿爾泰山脈を以て露領西伯利に界し南は長城を以て支那本部に接し東は滿洲に西は甘肅省及伊犁に界す其面積約九十九萬二千一百九十方哩

### 地勢

蒙古の地貌を形るものは西南より東にかけて隆起する崑崙山脈と西より東北を充たす阿爾泰山脈と及び此二大山脈に屬する複雑なる岐脈となり既に略述べたれども尙一言すべし

(一)崑崙山脈の一部は蒙古にて巴顏喀喇と云ふ蒙古部内にて現はる、は黃河の左岸に沿うて東北走するものにして阿拉善山と云ひ更に東して東西に横はるものを陰山と云ひ屈して東北に延び滿洲北部に至るものを興安嶺山脈と云ふ其高峯は九月下旬は既に白雪皚々たり而して山勢巍々たる急峻の山岳にして山腹狹隘なる故に水分を湛ふること少なく草木乏しく禽獸亦稀れなり岩質は





蒙古沙漠

白花崗岩片麻岩等にして石炭を交る所あり  
 (二)阿爾泰山脈 蒙古の西北隅西伯利の境上  
 に起り一岐は東北に延びて薩查山脈となり  
 露領との界をなし又た東南に走りて烏里雅  
 蘇臺の南方に蜿蜒たる山脈を大阿爾泰山と  
 云ひ北に蟠屈するは抗愛山脈なり烏布薩泊  
 の北方にて東西に横はるを唐努山脈と  
 す  
 高度平均千百米にして雪線に達し山嶺  
 四時白雪皚々たり山勢概して峻峻にし  
 て川澤の發源するもの少なからず庫倫  
 の東北に蟠る大山脈を肯特山と云ひ抗  
 愛山の系統に屬す平均の高度七八百米  
 漠北の一大分水嶺をなす  
 沙漠 蒙古に於ては東部より斜めに西

南部に互り全土の殆ど三分の一を占むる大砂漠あり海拔約千三百米東西五百  
 里南北二百里乃至二百七八十里蒙古語にて之を戈壁(Gobi)と云ひ漢人は瀚海  
 (Khanghai)と稱すること既に之を説けり

河 湖

蒙古は土地廣大なれども雨稀に或は全く雨無き所ありて空氣極めて乾燥する  
 を以て河江少なし稍舟楫の便あるものは西北部及び東部に在り主なるは色楞  
 格河克魯倫河傲嫩及び鄂爾坤圖拉錫喇木倫黃河等なり  
 克魯倫河 其源二つ肯特山脈の南麓に發し相會して南流し北緯四十六度五十  
 分の邊巴顏烏喇の西達爾罕山の北を経て稍東に屈し多くの支流を入れ漸次東  
 北に向ひ遂に呼倫湖となる全長四百里水少く河床淺くして春季出水の時のみ  
 中流以下にて桴筏小舟を通ずるを得べし魚族甚だ多しと雖も土人は之を顧み  
 ず露人來りて漁夫の利を占む  
 傲嫩江 外蒙古の車臣汗部に在り源を肯特山脈の一岐嶺に發し東北流して失  
 耳喀河に合す  
 色楞格河 は蒙古の北部に於て肯特山の西南より西伯利に跨る大流域を有し